

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

蛇腹技法の課題とその対策

Issues and Prospects in Designing with Pleats

堀口直人

Horiguchi Naoto

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

乙女座

Virgo

鶴田芳理

Tsuruta Yoshimasa

折り図 Diagrams

メジロ

Japanese White-eye

神谷哲史

Kamiya Satoshi

つまみおり Information

第10回折紙探偵団名古屋コンベンション参加受付開始

Registration Open for the 10th Origami Tanteidan Nagoya Convention

通巻 153 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

「乙女座」
(P.38)

Virgo (P.38)

作: 鶴田芳理

by Tsuruta Yoshimasa

■蛇腹構造による力強い直線を活用。ギリシャ神話のアテナを連想させる、戦士のような風格が漂う作例となっています。「仕上げ加工の細かさの密度」が全体的に適切なバランスで、各部の部品が強く主張し合いながらも、良い具合に調和しているようです。

(解説: 北條高史) Comments : Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **153**



Virgo: Tsuruta Yoshimasa

クローズアップ / Close-up

**P.13 蛇腹技法の課題と
その対策**

Issues and Prospects in Designing
with Pleats

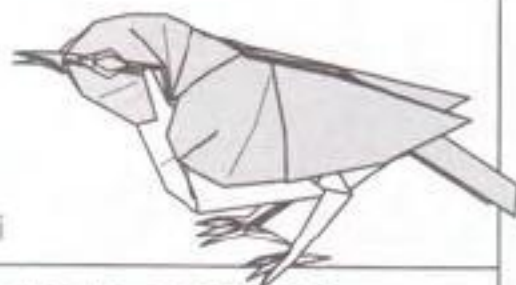
堀口直人
Horiguchi Naoto

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 メジロ

Japanese White-eye

神谷哲史
Kamiya Satoshi



P.38 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

乙女座

Virgo

鶴田芳理
Tsuruta Yoshimasa

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

星の王子さまのバオバブ

The Baobab Tree as in "The Little Prince"

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

X-CUBE、持ち手つきトートバッグ

X-Cube, Tote Bag with Strong Handles

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫

Komatsu Hideo

近刊和書レビュー

Reviews on Recent Japanese Origami Books

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

堀口直人

Horiguchi Naoto

「国際大学折紙連盟」第1回展示会レポート

A Report of the 1st Exhibition of International Collegiate
Origami Association

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.36 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

森澤碧人

Morisawa Aoto

P.37 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

名古屋コンベンション参加受付開始

Registration Open for the Origami Tanteidan Nagoya
Convention

第11回 星の王子さまのバオバブ

The Baobab Tree as in "The Little Prince"

© 2015 KAWASAKI Toshikazu

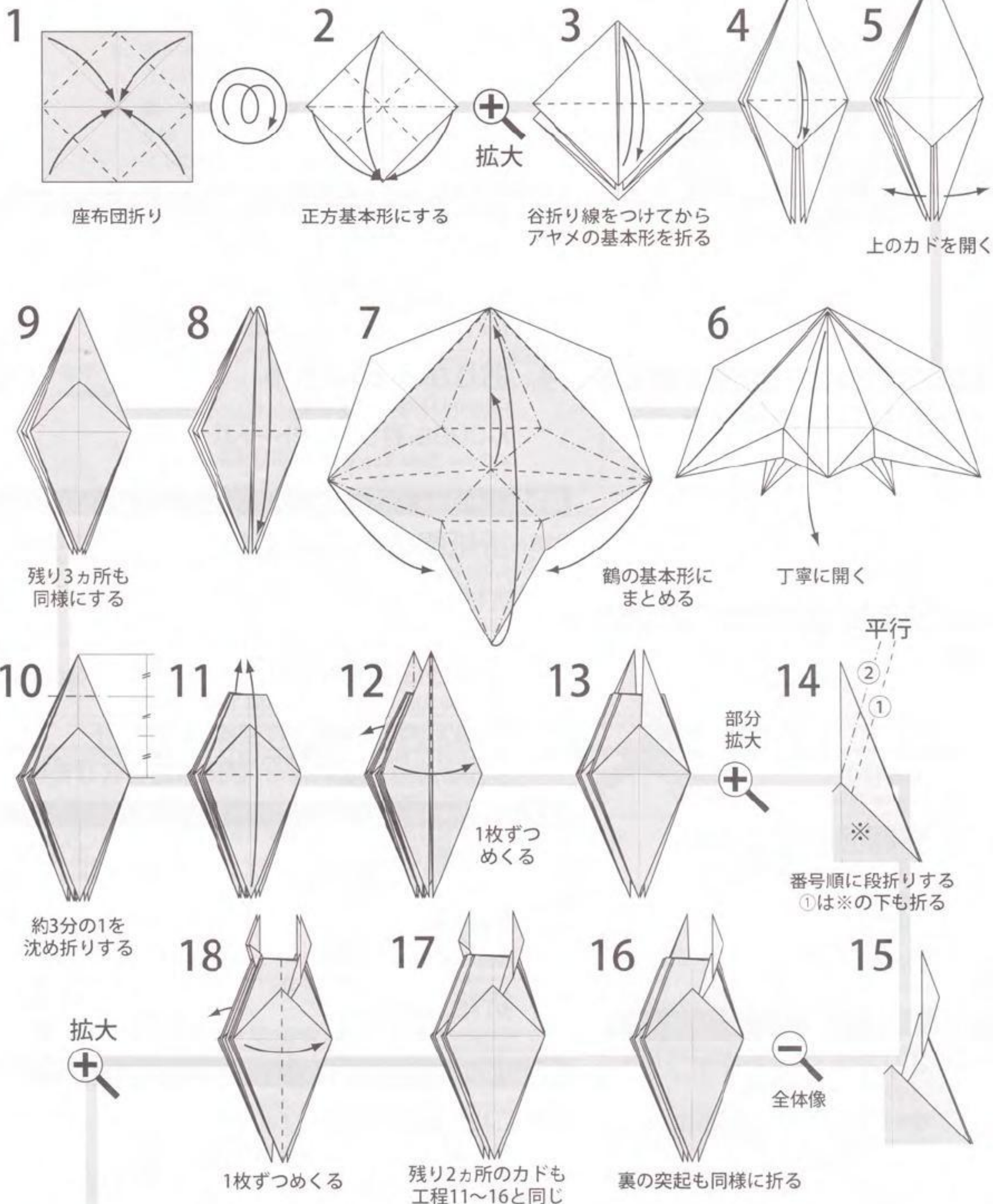
川崎敏和

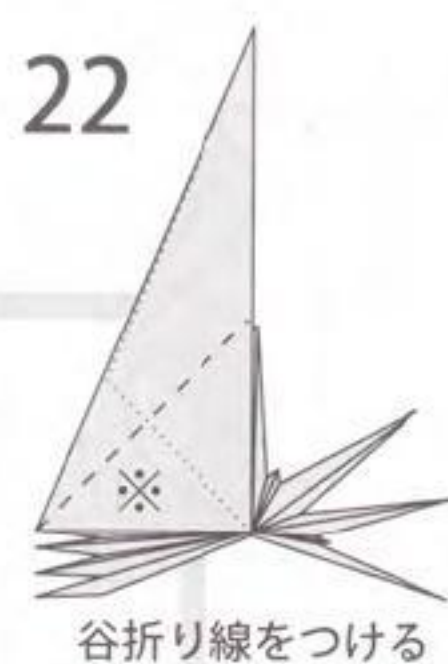
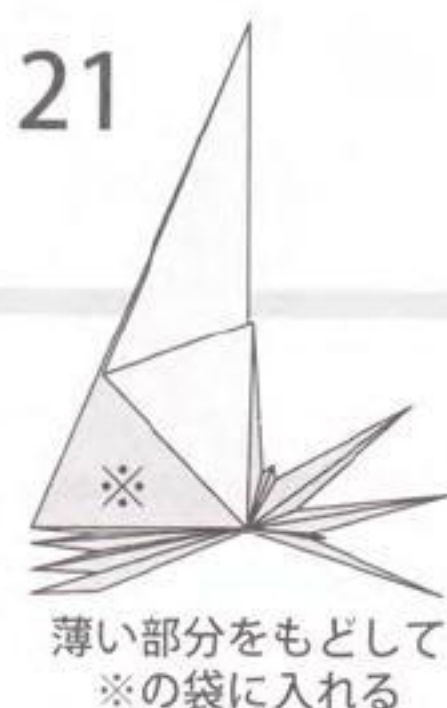
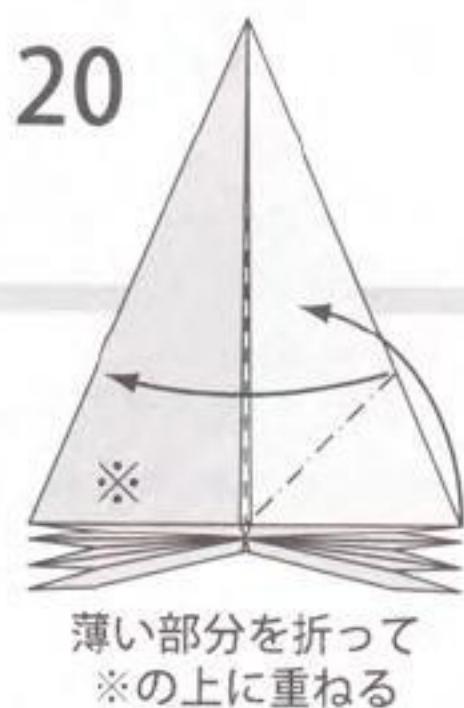
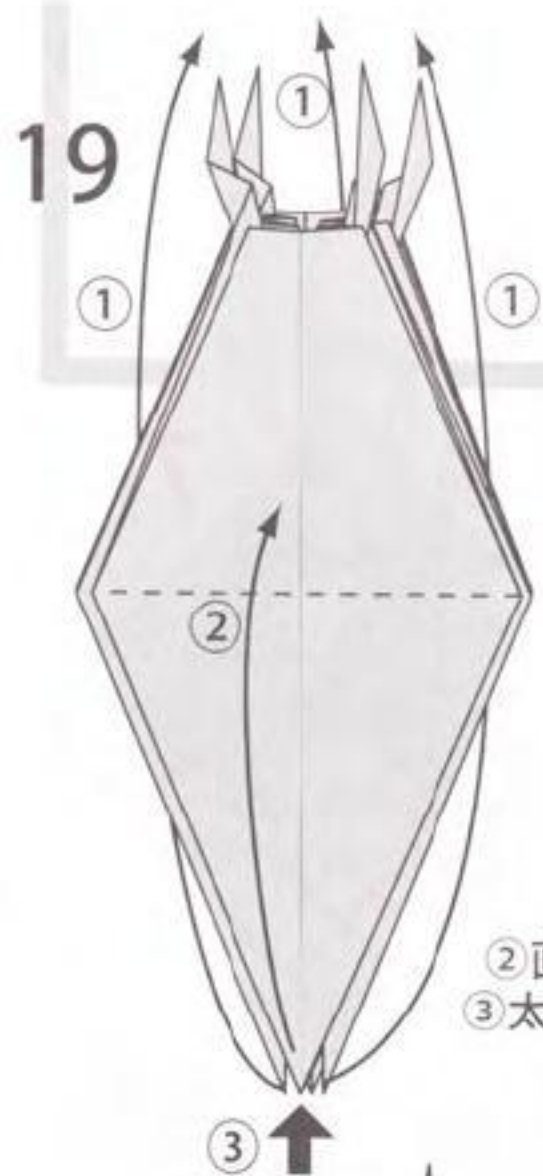
Kawasaki Toshikazu

星の王子さまに登場する巨木バオバブです。

幹を折る

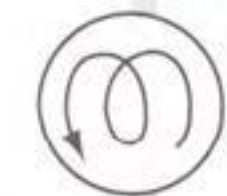
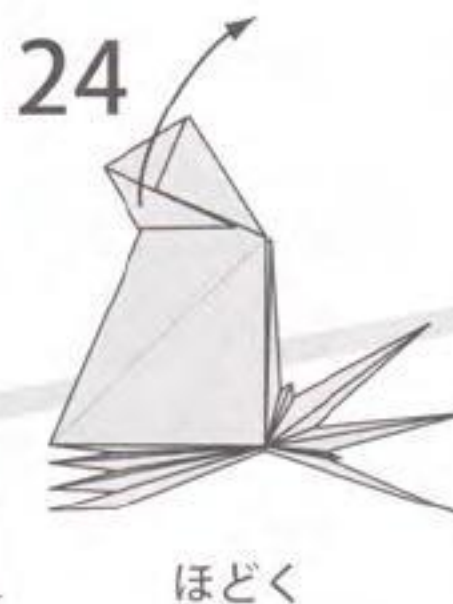
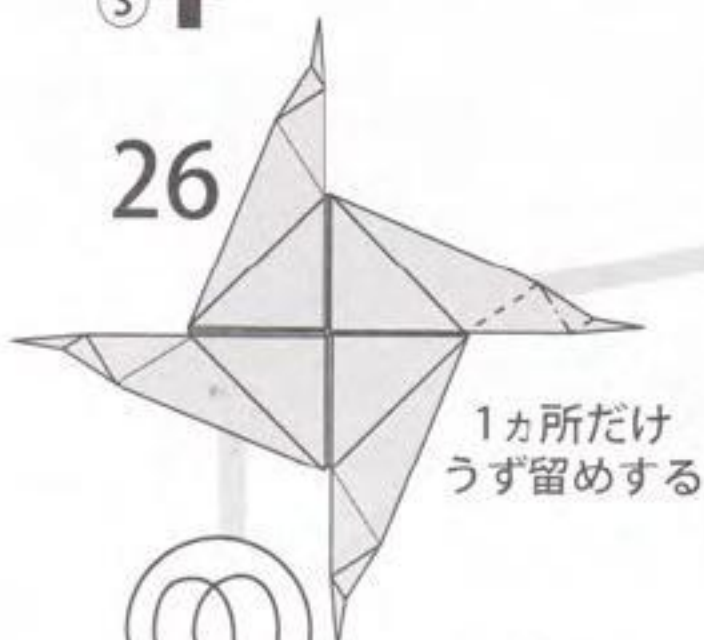
工程10は「四鶴」です。30cmくらいの広い紙で折ってください。





①折り上げる
②直角に谷折りする
③太矢印方向から見る

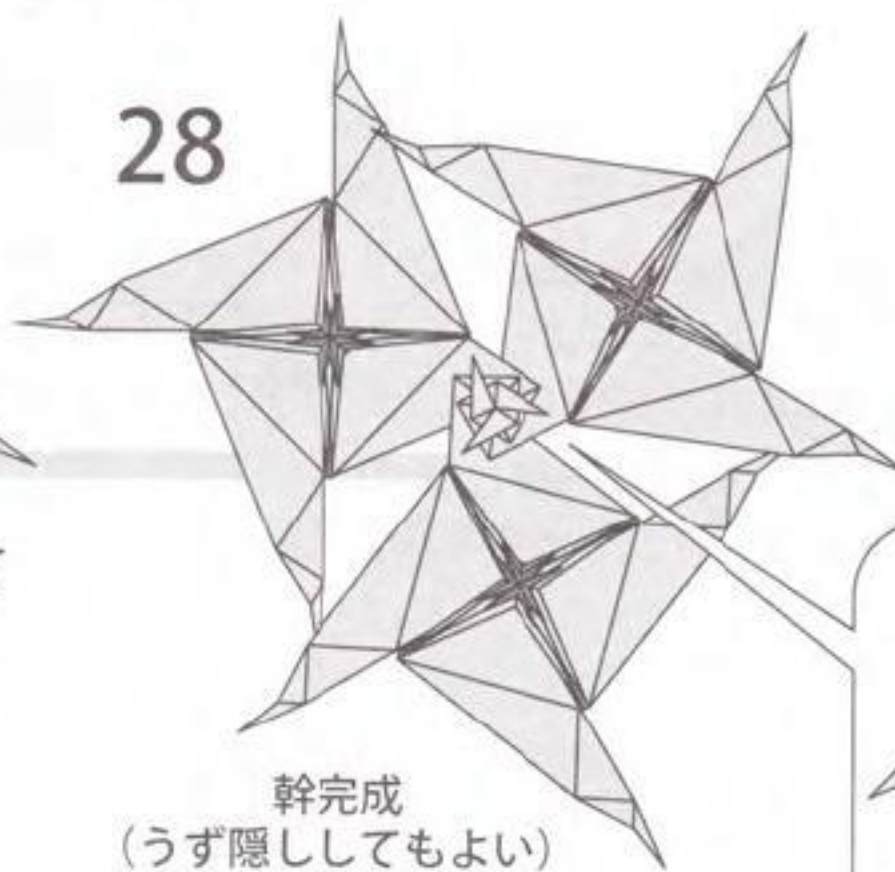
③↑



27

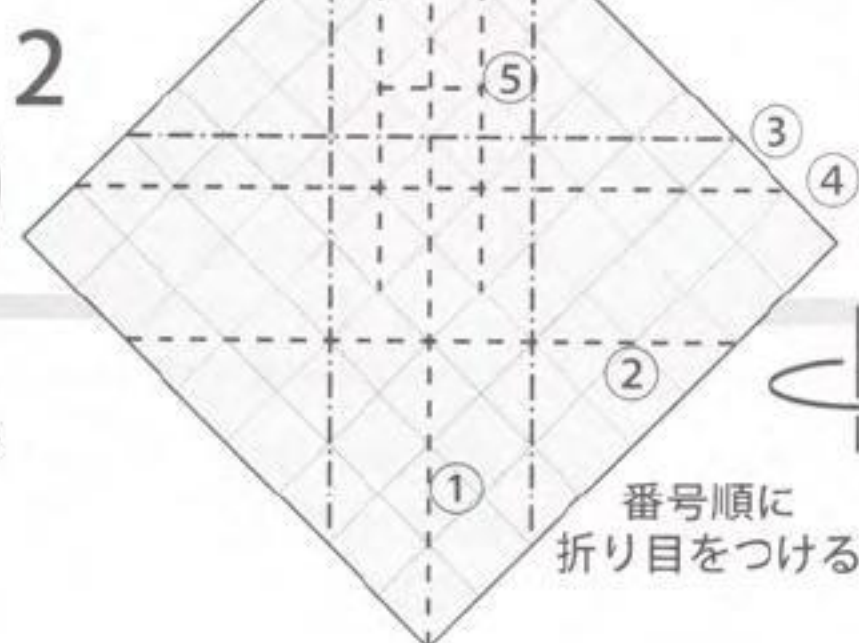
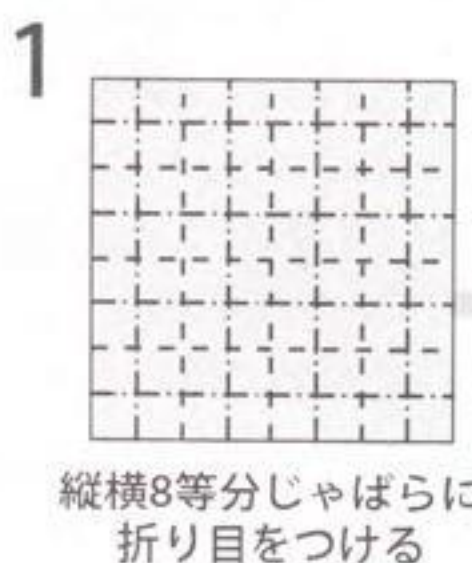


28

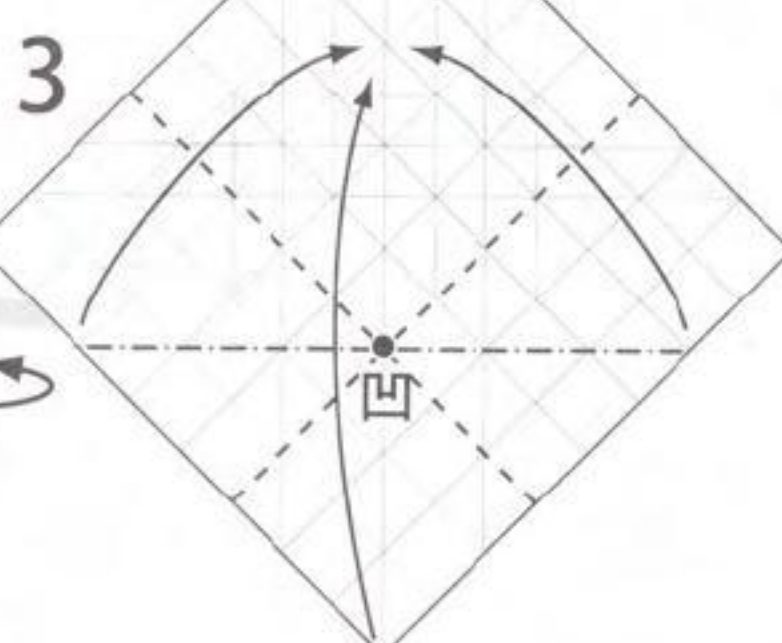


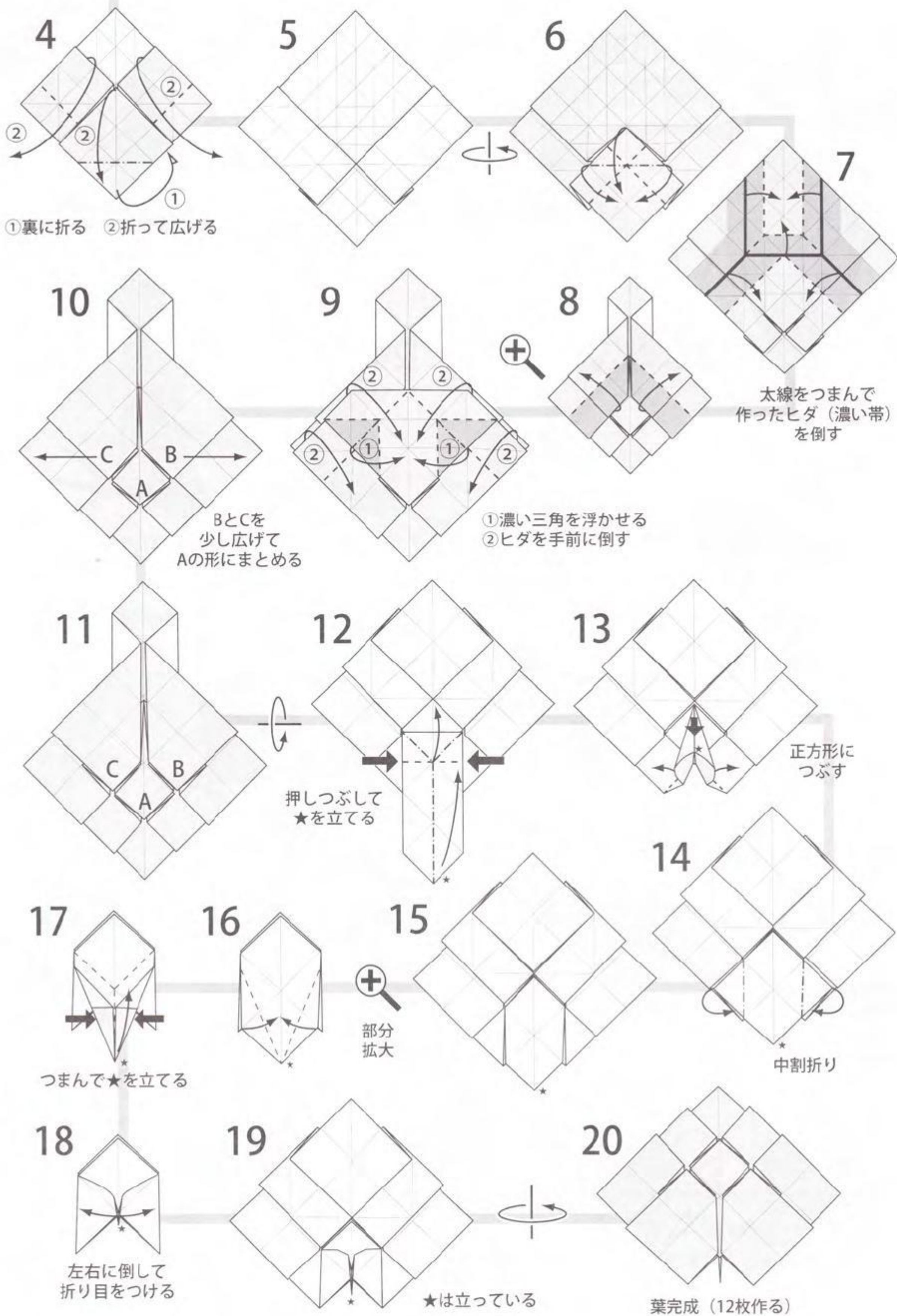
葉を折る

幹を折った紙の約1/3サイズで
12枚折ります。



●をへこませて
折り畳む

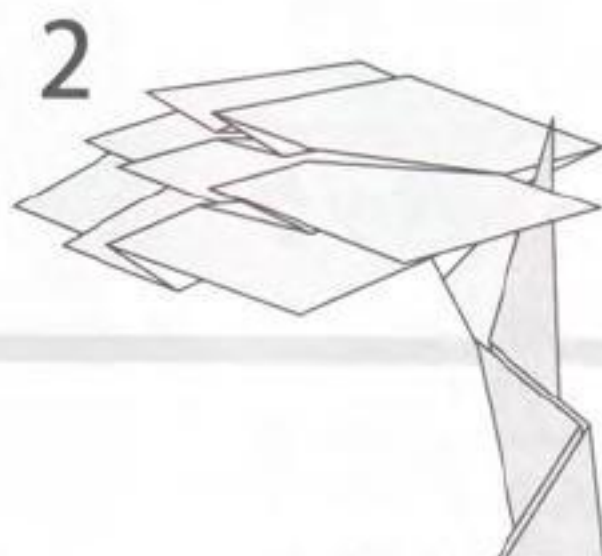




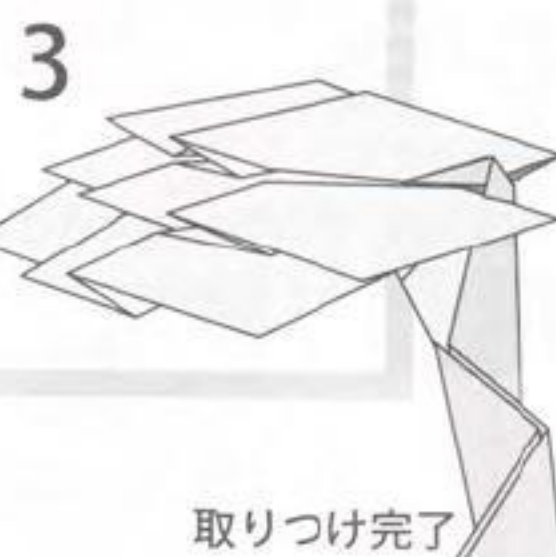
幹に葉を取りつける 各幹に葉を4枚取りつけます。



1 葉の先端★を
枝の袋に深く差し込む



2 葉の上に突き出た部分を
折り鶴のくちばしのように
中割り折りする



3 取り付け完了



他の枝にも
葉を取りつける

折り紙の 周辺

第72回

貝細工

Strawflower

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

世界各地で折り紙の展覧会が開かれる。個人の展覧会ではなく、大勢の作家の作品を集めた折り紙展はそれだけ規模も大きく話題性もあるようだ。そしてそれは、私の知る限りでは日本以外の国で多く催される。私もしばしば出品を求められる。内容を確かめた上でなるべく要望に応えるようにしているが、正直なところ、その手間を考えると「喜んで」とは言いがたい気持ちになることもある。あるものでいいと言われても、色のさめたものなど出品する気になれないし、承知する以上変なものは出

したくない。新しく折ることも多い。そして面倒な梱包をしながら、折り紙普及のため、自分の宣伝にもなるからね、と言い聞かせる。郵送費は先方持ち、カタログを作る場合はそれをもらえる。というのが一般的だ。作品提供に対する報酬はほとんどいただいたことが無い。なぜだろう。

展覧会を含め、折り紙の活動はボランティアでなされることが多いからだろうか？ 折り紙展のにぎわいや評判になったことが報告されるが、主催者に儲けはないのだろうか？ 折り紙作品は無償で貸し出されるのが常識なのだろうか？

海外では、折り紙展は、折り紙をひろく世間に知らせる手段としての要素が強く、芸術性を強調したものではないように思う。もちろん展示物の一角にそういうものが入っているにせよ。折り紙の楽しみ方は多様だ。絵画や彫刻など同一の芸術を目指す場合、発表の仕方や場を考えなくてはいけないだろう。

なぜこんなことを言うかといえ、フランスのVincent Flodererさんが嘆いていたからだ。大規模な折り紙展のために出品を頼まれ、多大な時間とエネルギーを費やしても、働きに見合う報酬をもらうことはごくまれで、収入は減る一方だ、と。彼は折り紙以外の仕事はしていない。芸術家だ。どんなジャンルでも芸術家の道は険しい。彼には自分の考えに従って歩んでほしい。

お盆を過ぎ、日の傾きは感じるものの、暑い夏はまだ終わっていない。トンボが元気に周回している。セミもまだまだ大音声。

「貝細工」が花開いている。春に郵便局からもらった種を蒔いた。この花を見るのはずいぶん久しぶりだ。自分で育てるのは初めて。花はプラスチックかムギワラでできたかのように、堅くカサカサしている。家を訪れた人にはその花びらに触ってもらい、不思議な感触を味わってもらおう。

第74回 **X-CUBE, 持ち手つきトートバッグ**

X-Cube: Sakurai Ryosuke

Tote Bag with Strong Handles: Yamaguchi Makoto

X-CUBE: 櫻井亮佑・作, 持ち手つきトートバッグ: やまぐち真・作

第9回JOAS創作折り紙コンテストで「おりがみはうす賞」に輝いたユニット作品が早くも折り図化。シンプルな組み立てで格好いい正六面体ができあがります。トートバッグは持ち手の丈夫さがポイントです。



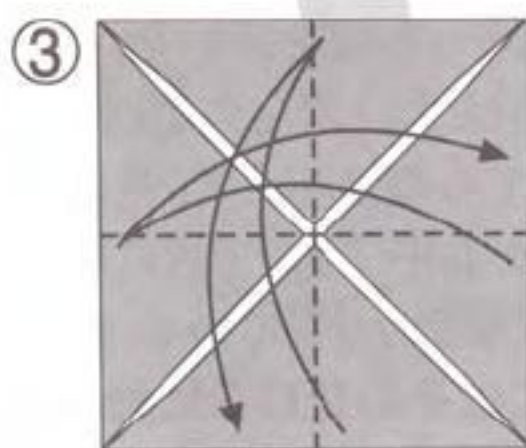
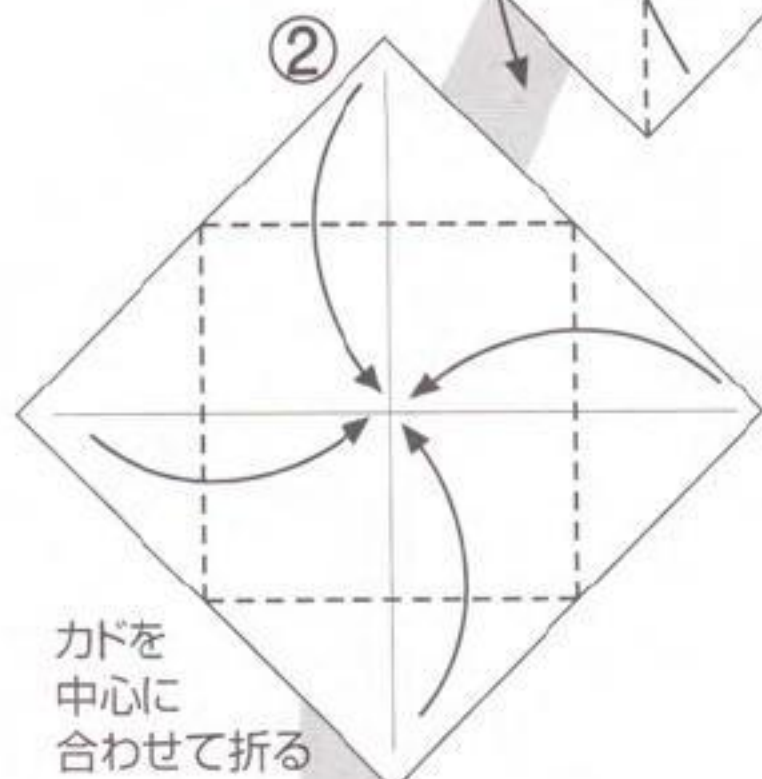
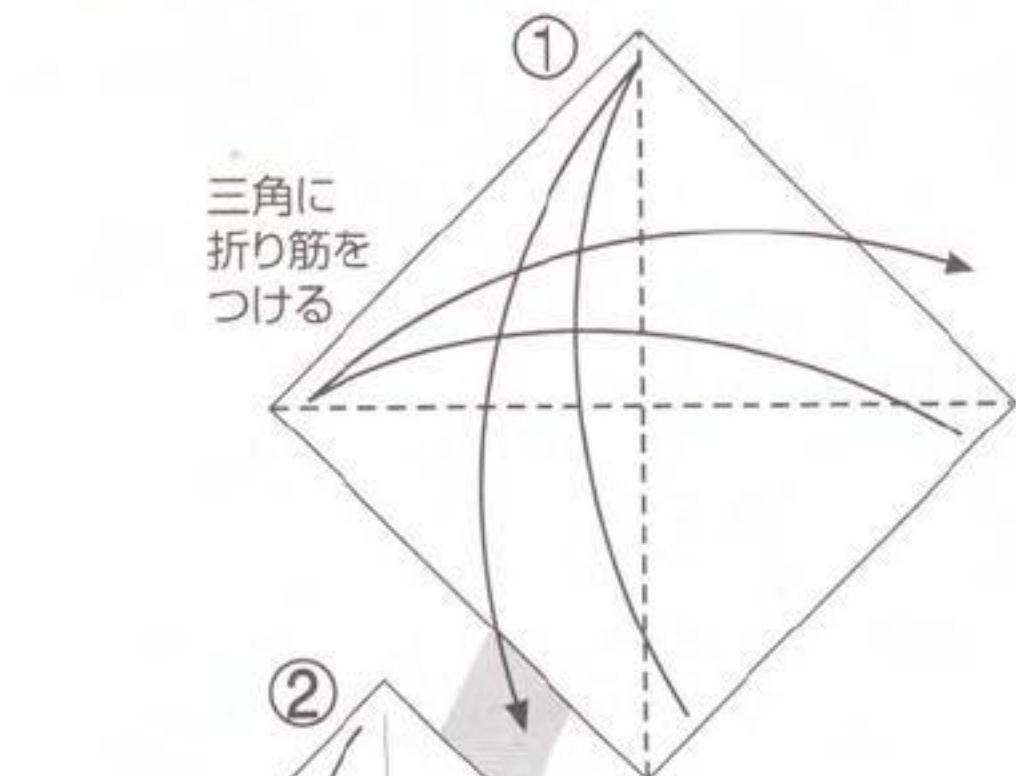
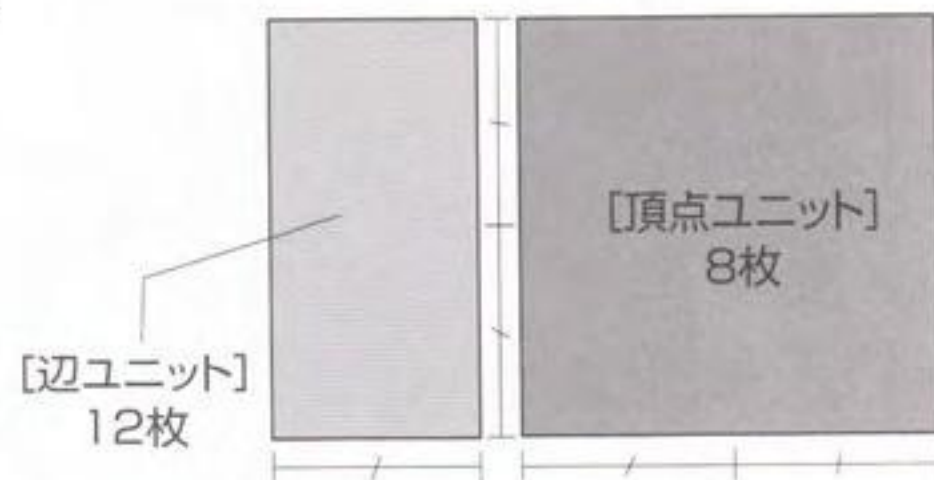
X-CUBE 作・櫻井亮佑 Design: Sakurai Ryosuke
折り図・おりがみはうす Diagrams: Origami House

正方形の紙を8枚、その半分の大きさの紙を12枚使います

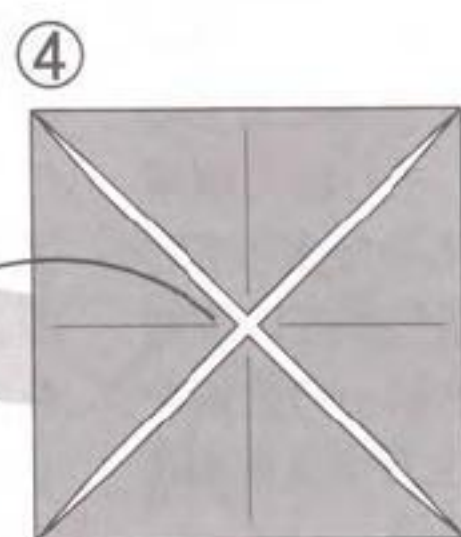
頂点ユニット

推奨サイズ: 7.5cm × 7.5cm

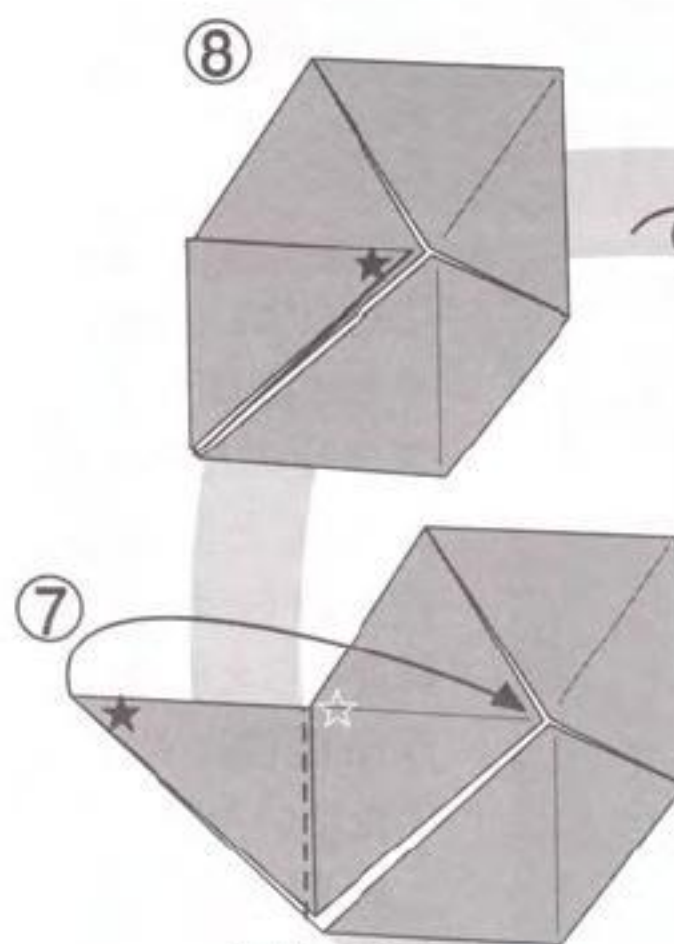
[紙の比率]



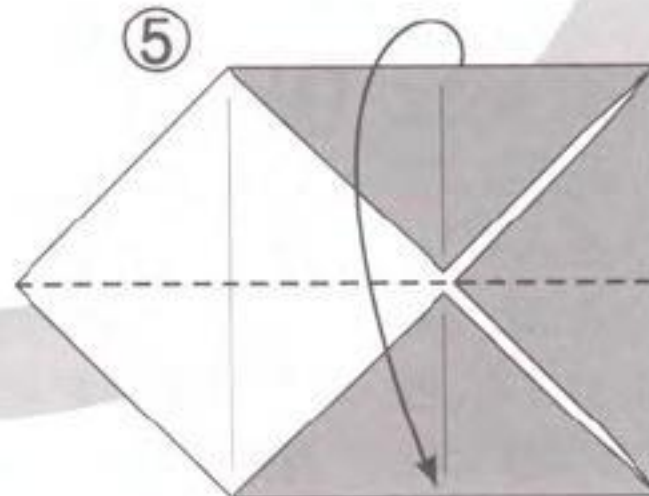
ついている折り筋で
折り筋をつけ直す



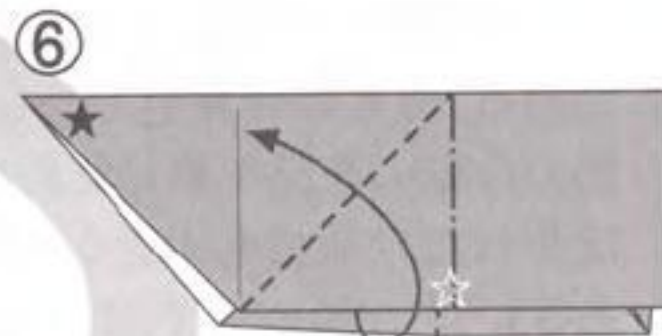
カドを1つ戻す



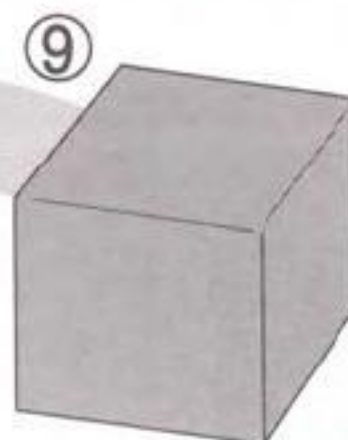
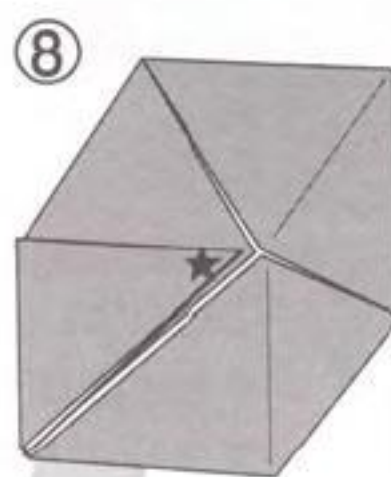
カドを中心に
合わせて折る



半分に折る



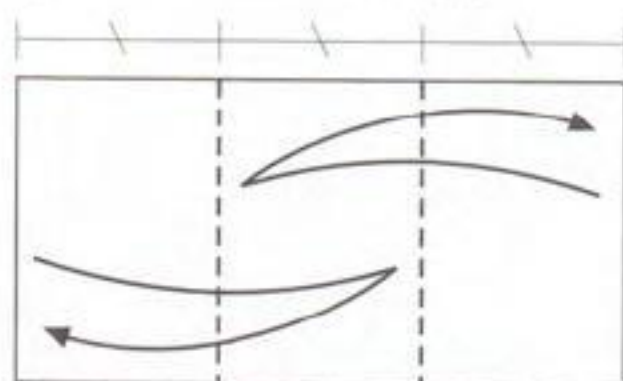
フチを折り筋に
合わせて折りながら
ついている折り筋で
立体にする



[頂点ユニット]できあがり
同じものを8個作る

辺ユニット

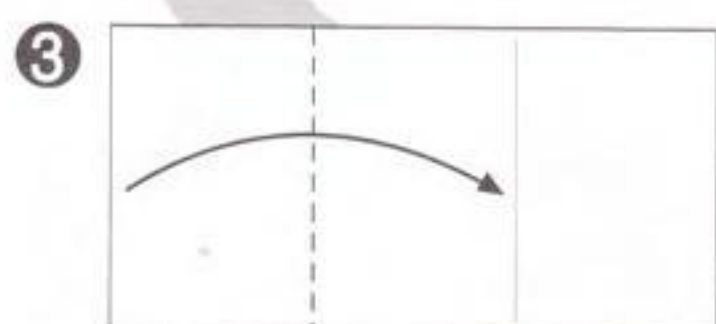
① 半分に切った紙を使う



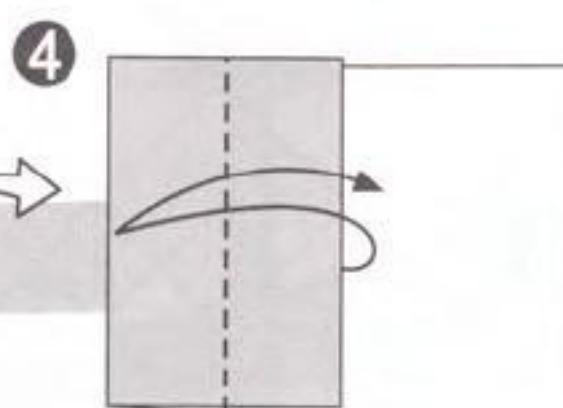
1/3の幅で折り筋をつける



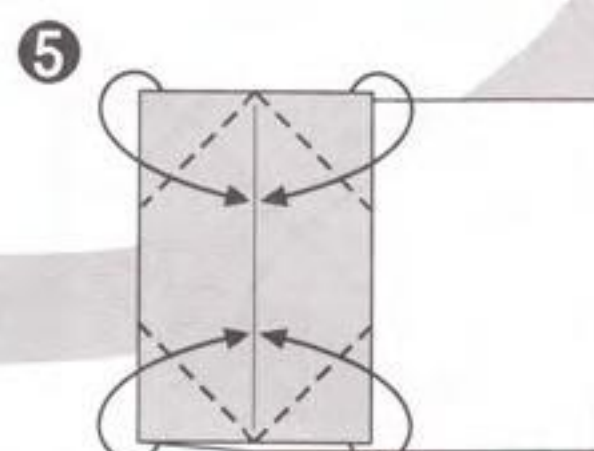
このように
いちど3つ折りに
するとよい



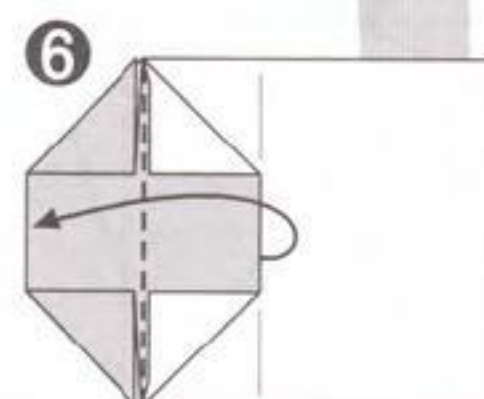
フチをついている折り筋で折る



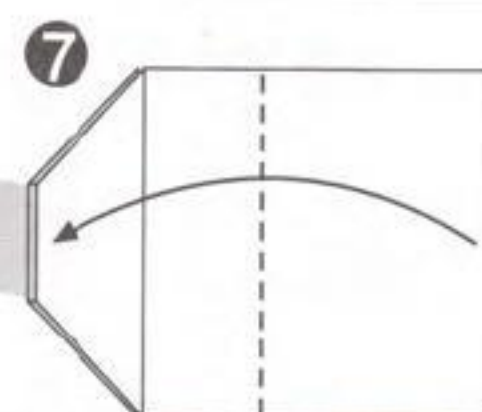
フチとフチを合わせて
折り筋をつける



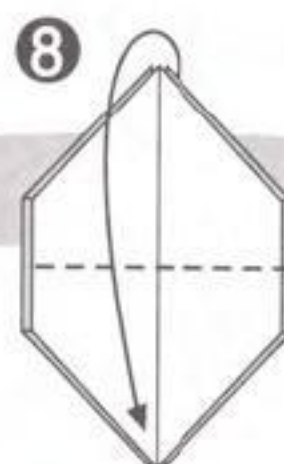
フチを折り筋に合わせて折る



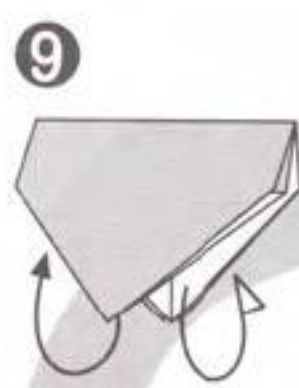
フチを反対側へ折る



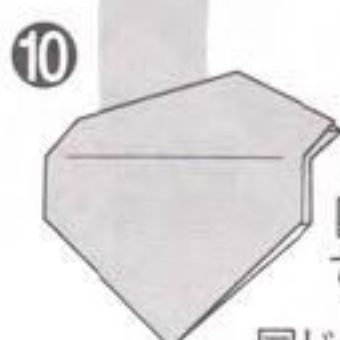
反対側も③～⑥と
同じように折る



半分に折る



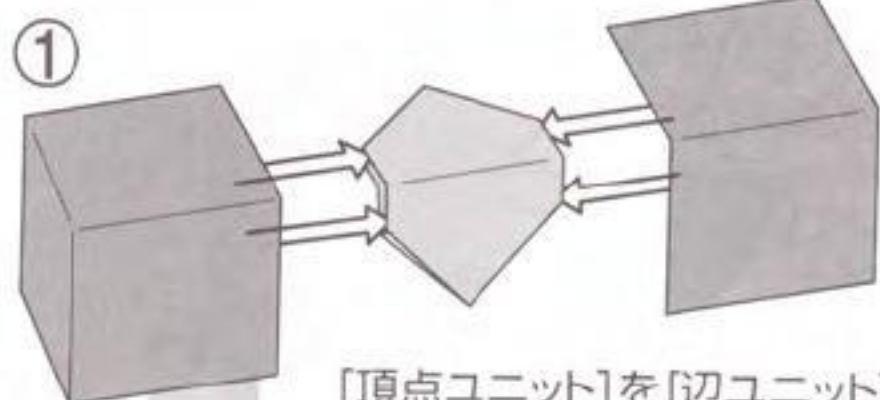
かるくひろげる



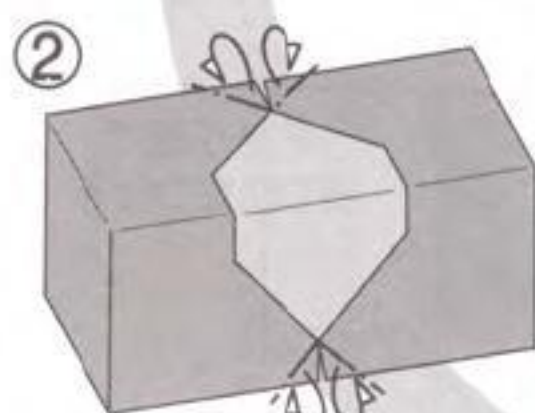
「辺ユニット」
できあがり

同じものを12個作る

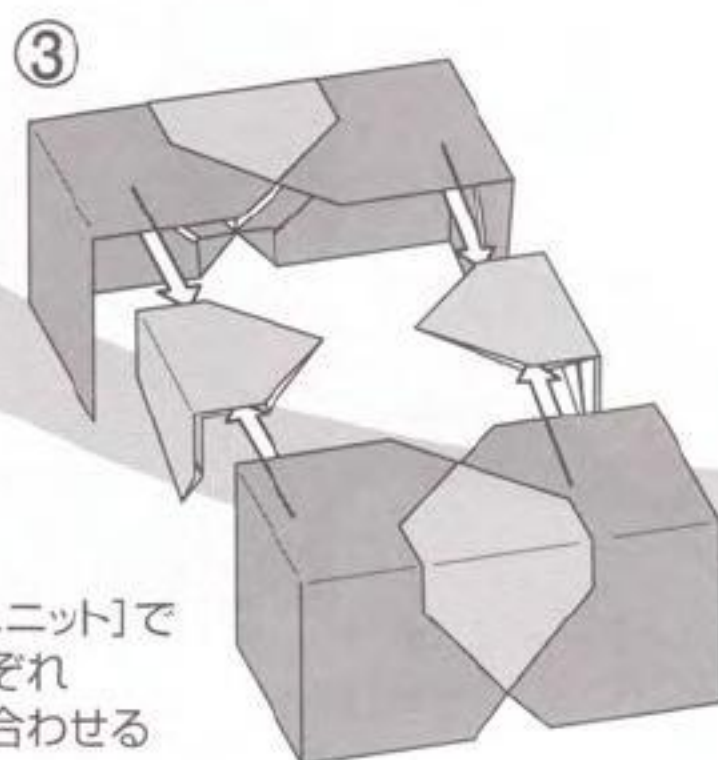
組み立て方



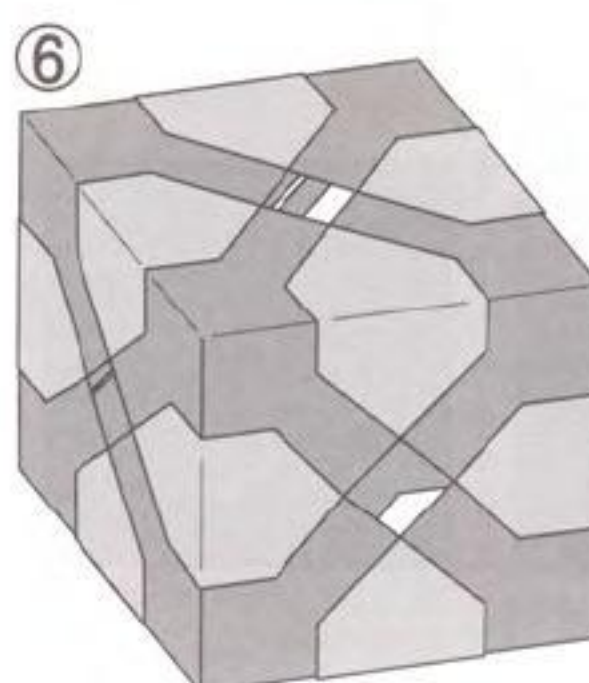
「頂点ユニット」を「辺ユニット」の
ポケットに差し込む



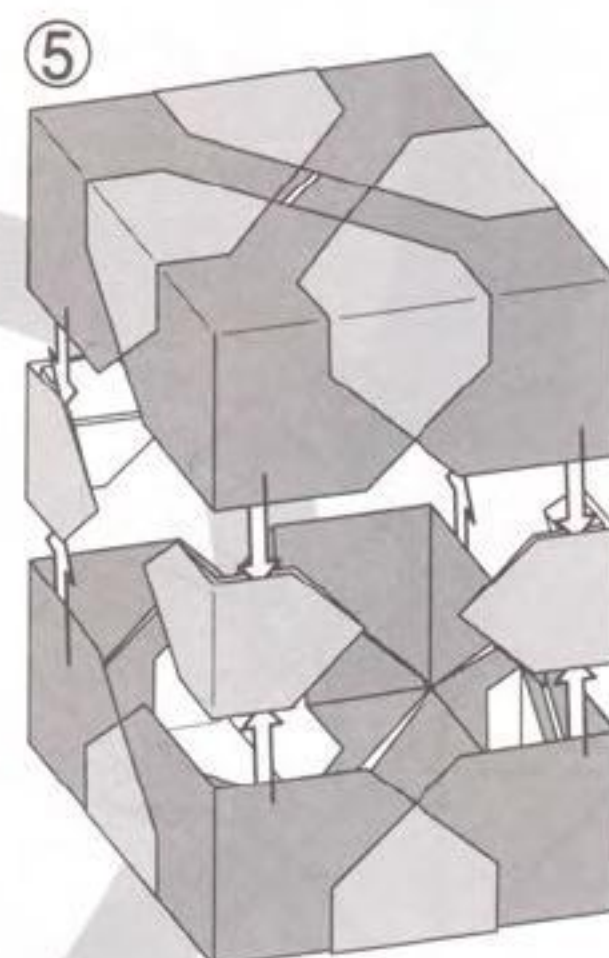
「頂点ユニット」のカドを
内側に折り込む
同じものを4個作る



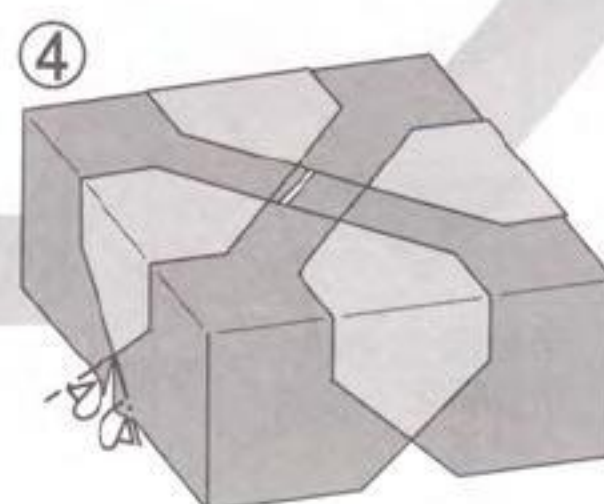
「辺ユニット」で
それぞれ
組み合わせる



できあがり



「辺ユニット」でそれぞれ
組み合わせる



「頂点ユニット」のカドを
内側に折り込む
反対側も同じように折る
同じものを2個作る

持ち手つきトートバッグ

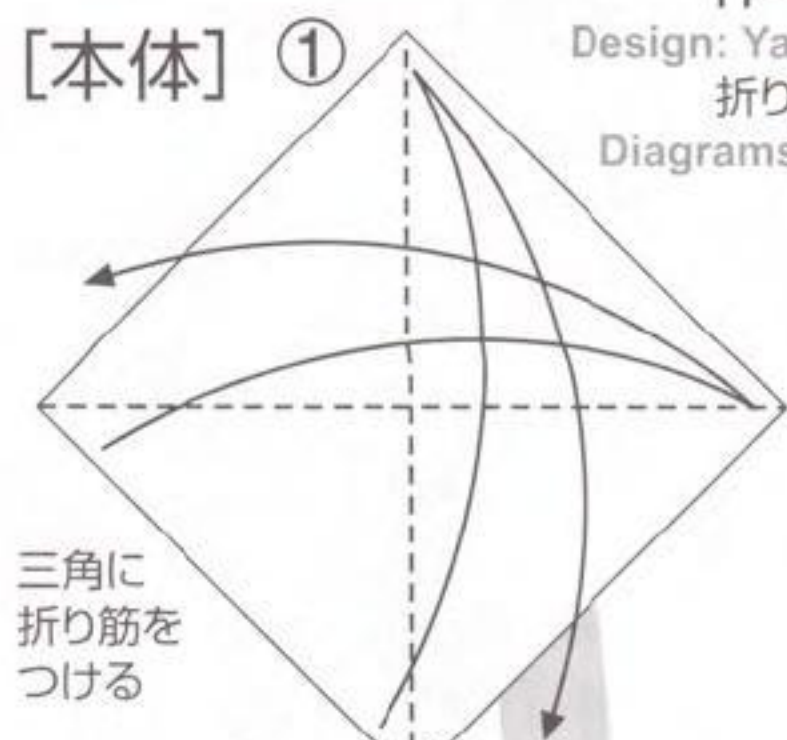
作・やまぐち真

Design: Yamaguchi Makoto

折り図・おりがみはうす

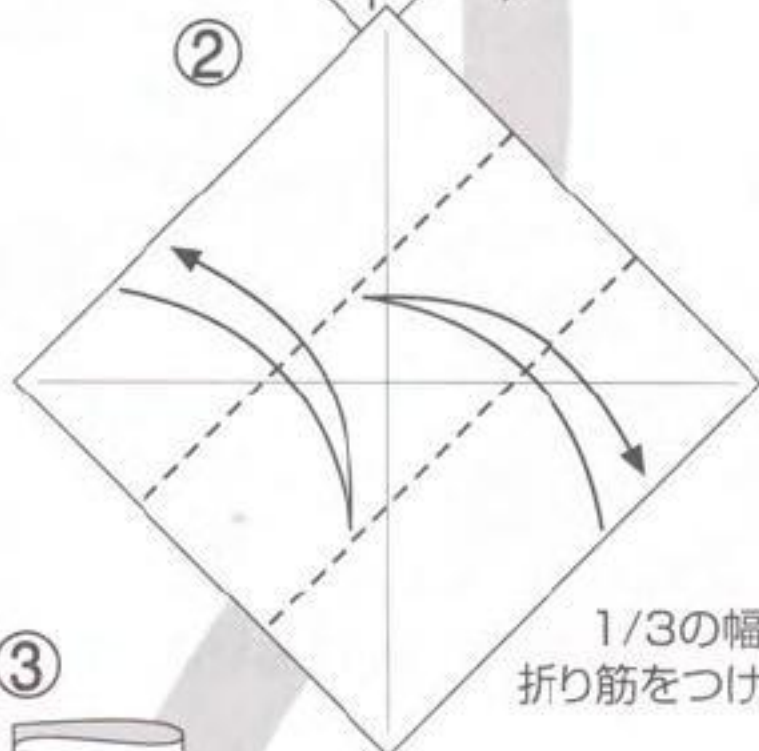
Diagrams: Origami House

[本体]



三角に
折り筋を
つける

②



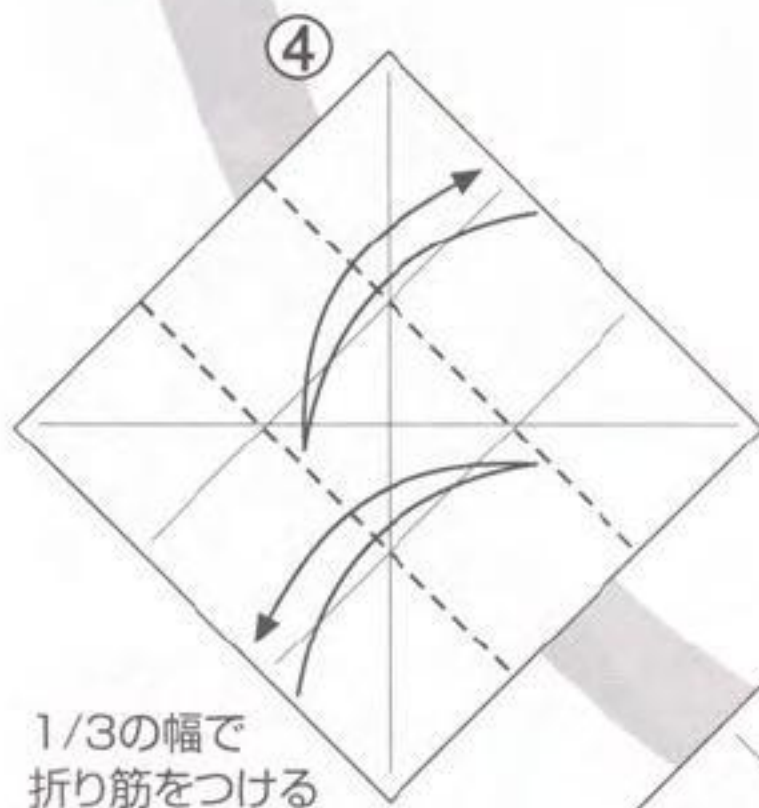
1/3の幅で
折り筋をつける

③



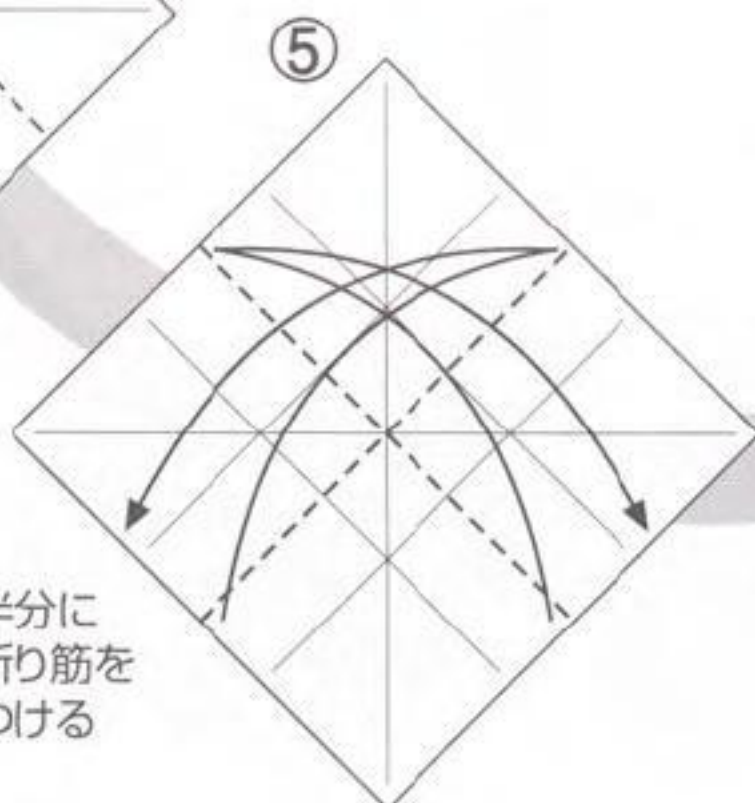
図のように
折り筋を
つけるとよい

④



1/3の幅で
折り筋をつける

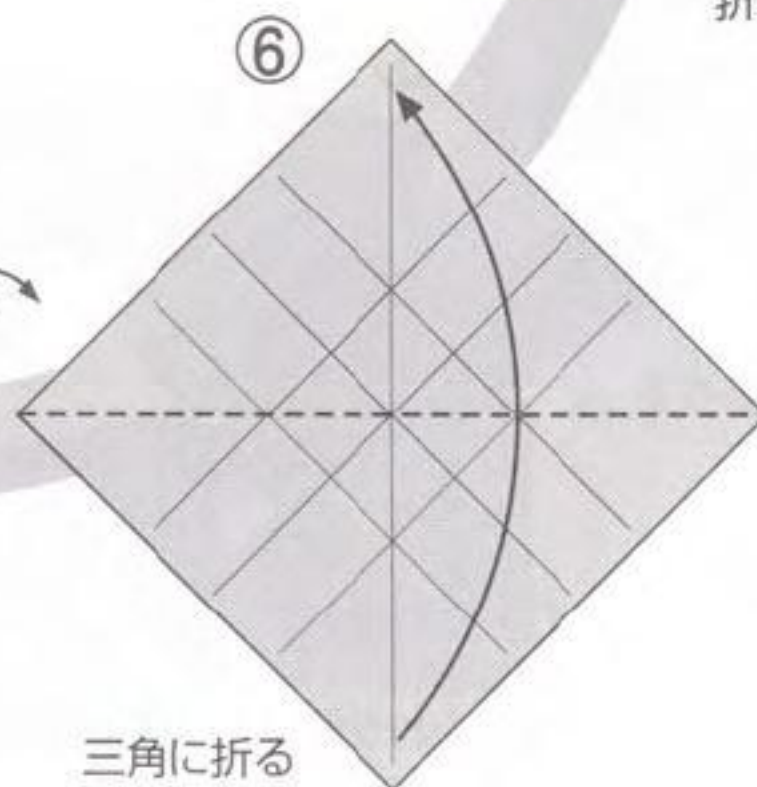
⑤



半分に
折り筋を
つける

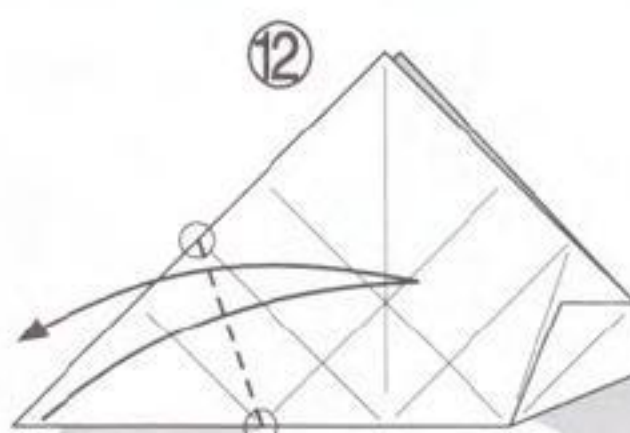


⑥



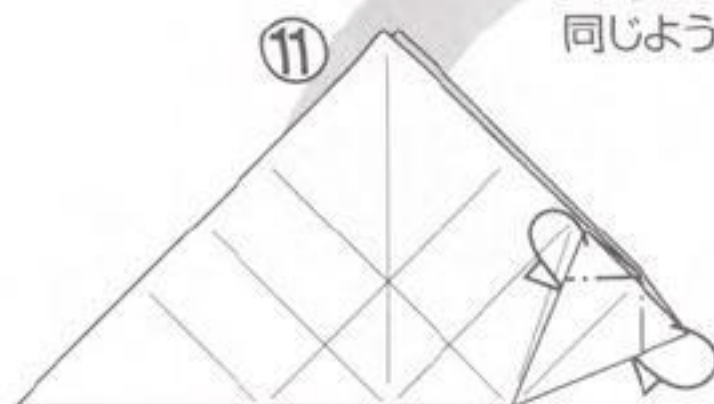
三角に折る

⑫



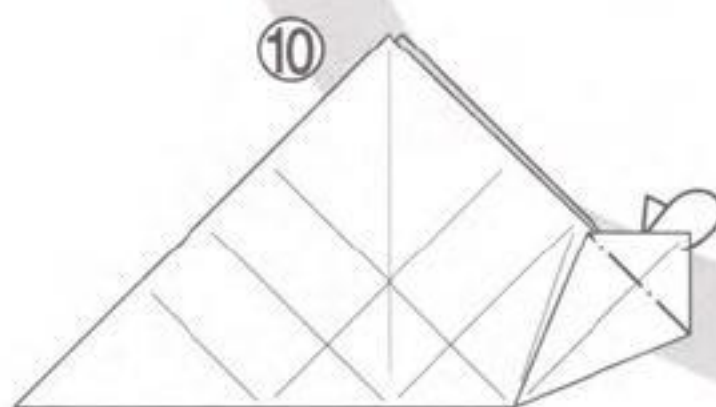
反対側も⑦～⑪と
同じように折る

⑪



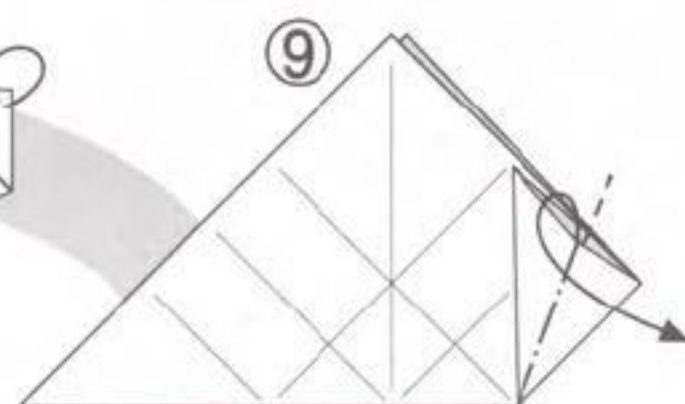
カドをそれぞれ後ろへ折る

⑩



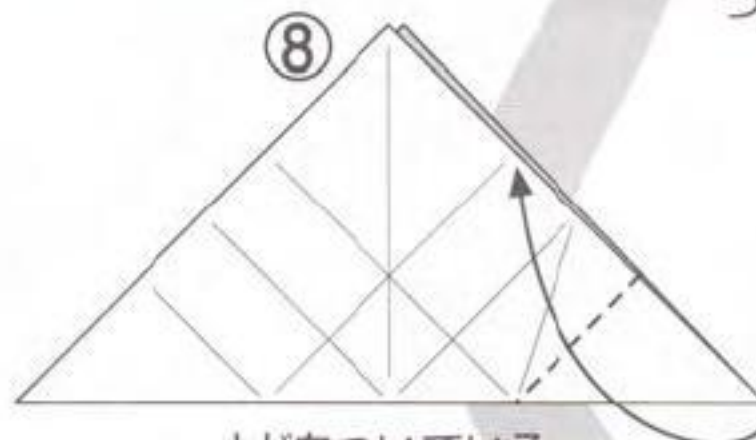
カドをすぐ後ろの
すき間へ折り込む

⑨



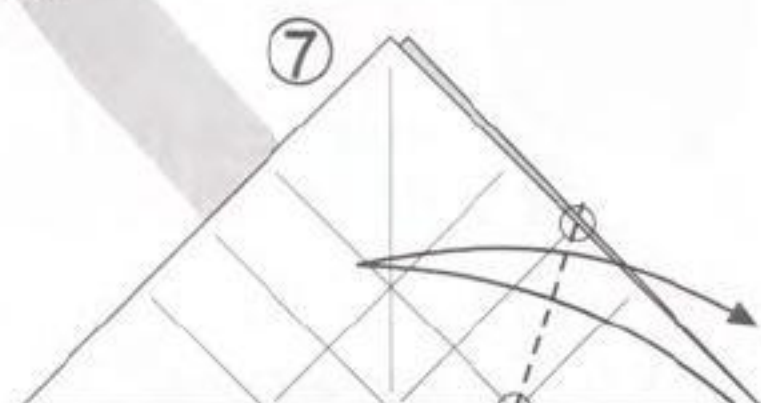
内側をひろげて
つぶすように折る

⑧

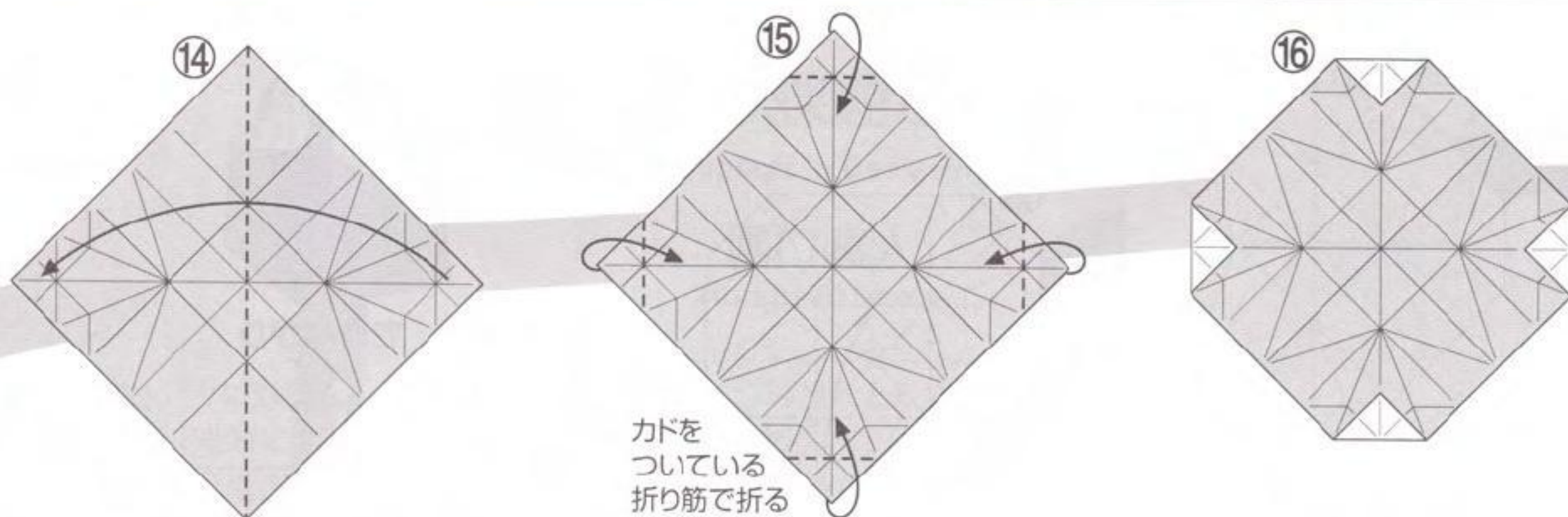


カドをついている
折り筋で折る

⑦

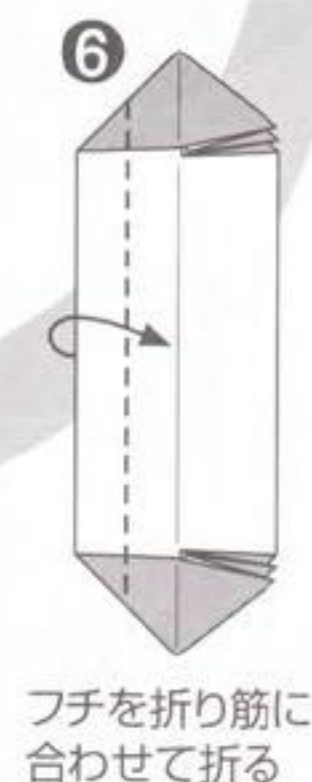
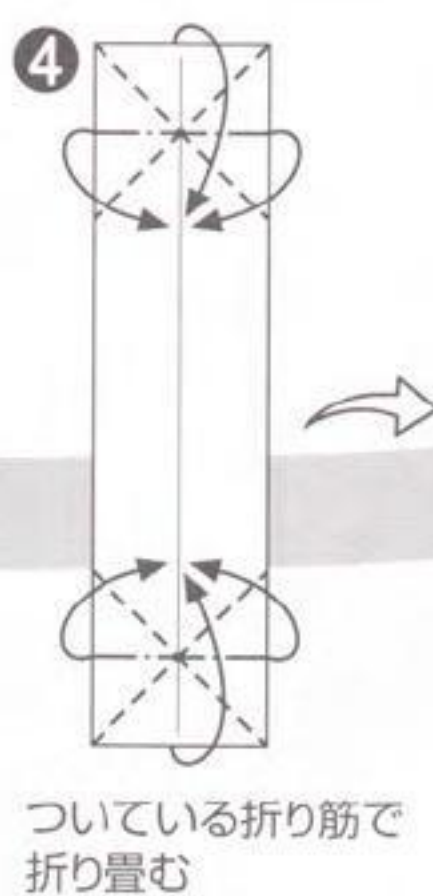
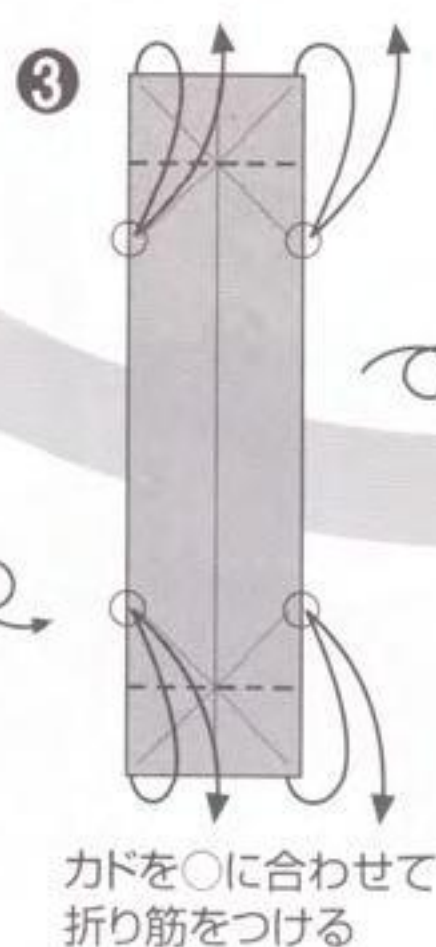
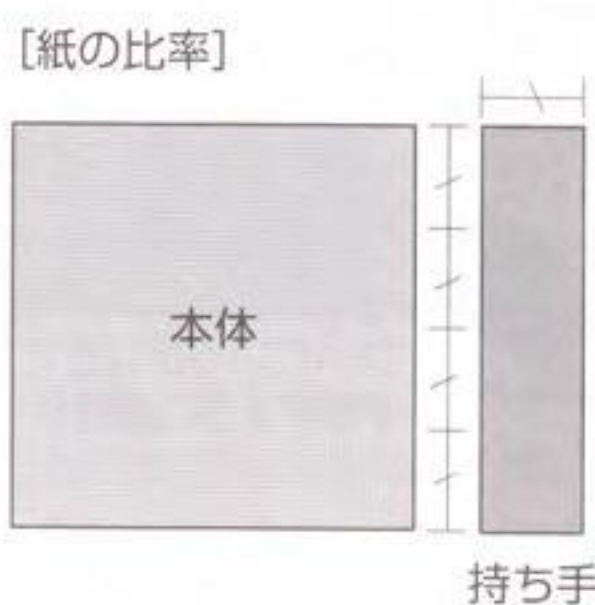
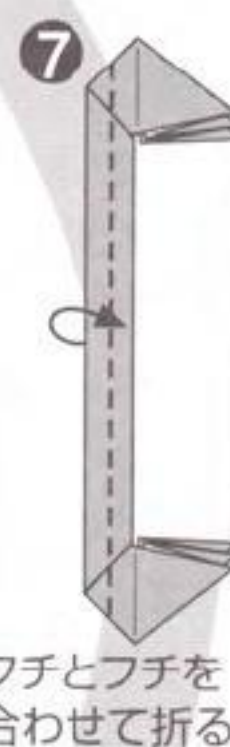
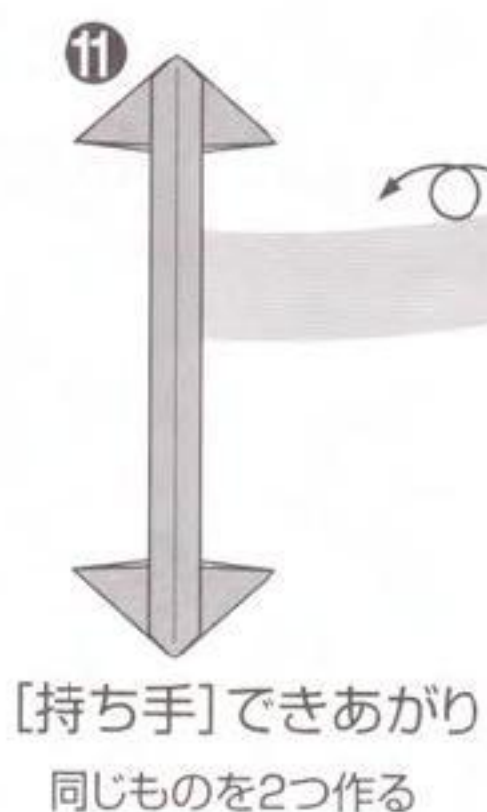
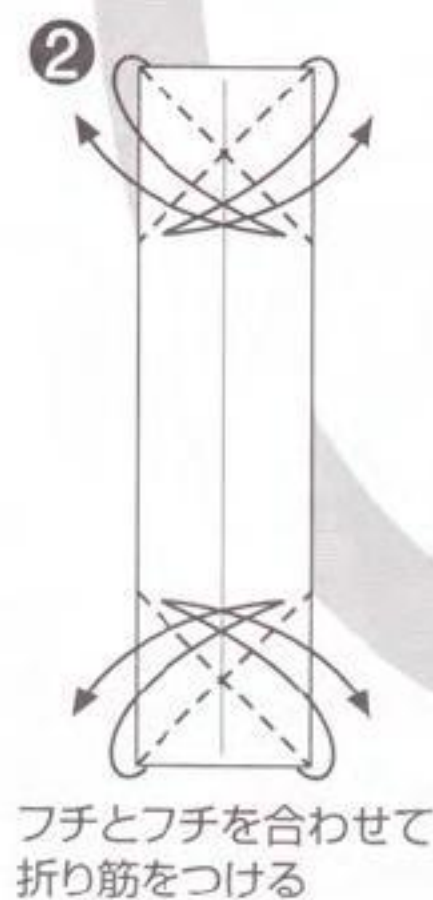
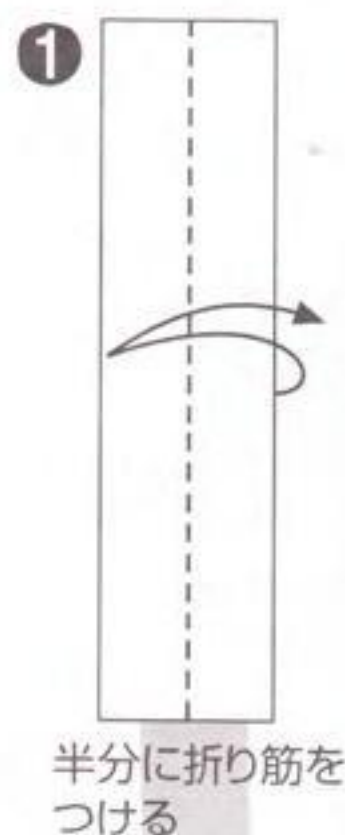


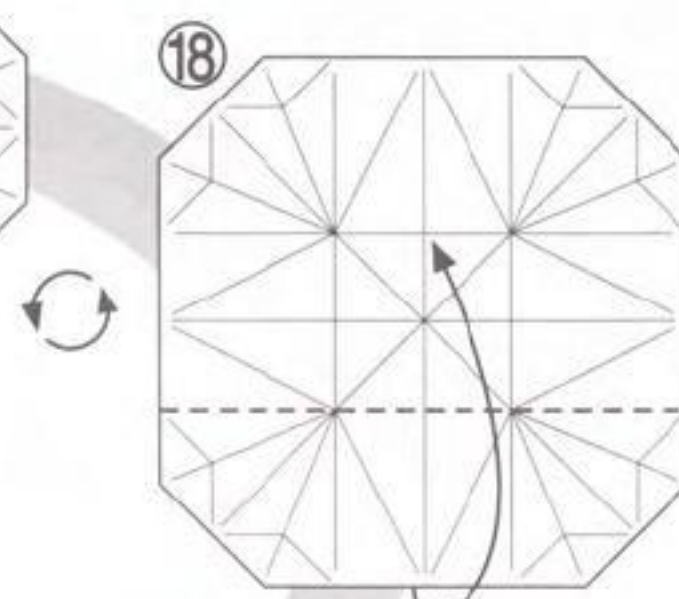
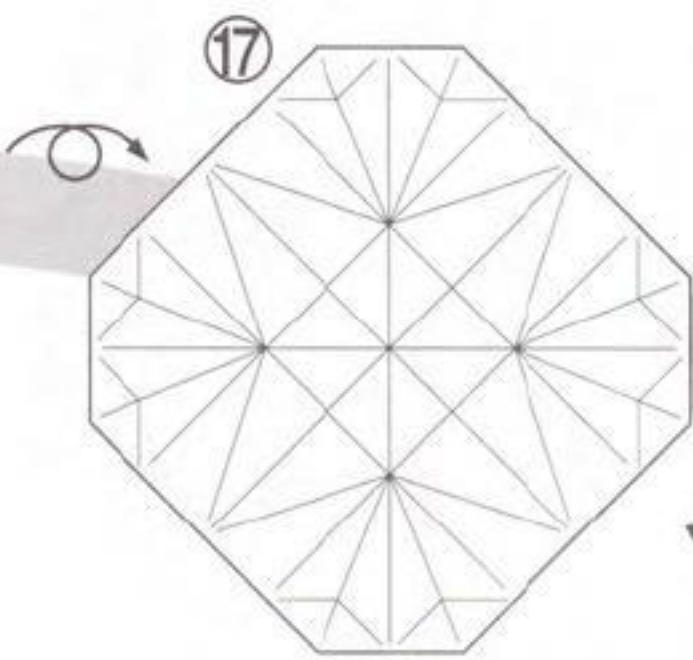
○を結ぶ線で
折り筋をつける



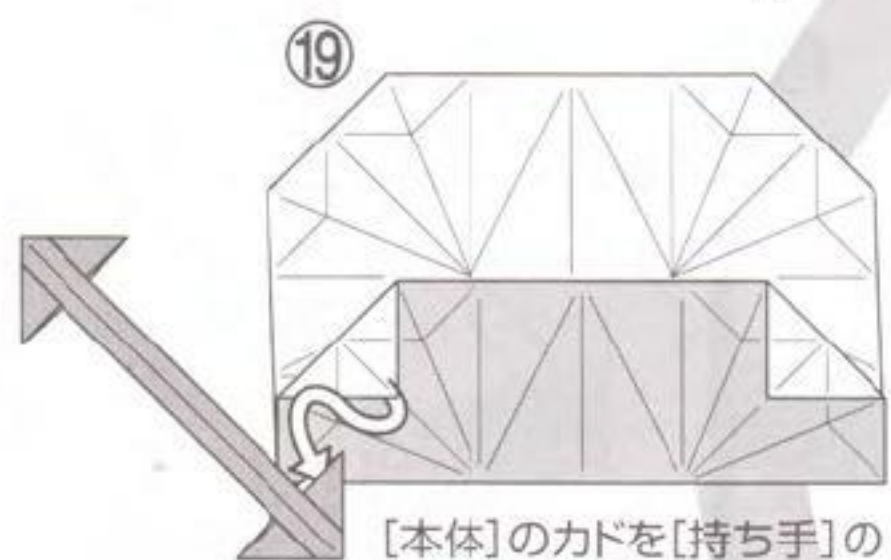
縦に三角に折って
上下のカドも⑦～⑬と
同じように折る

[持ち手]

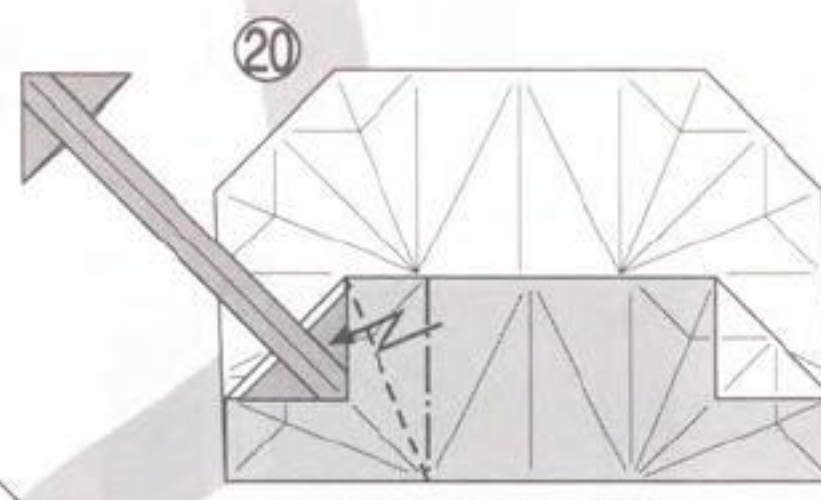




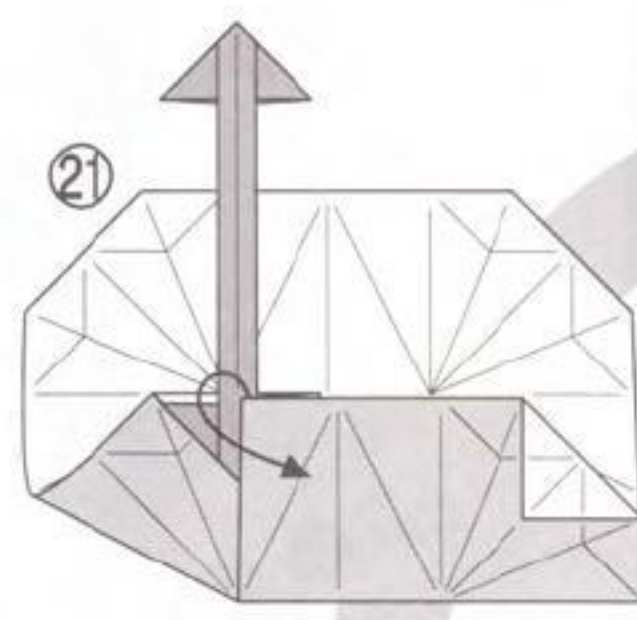
フチをついている
折り筋で折る



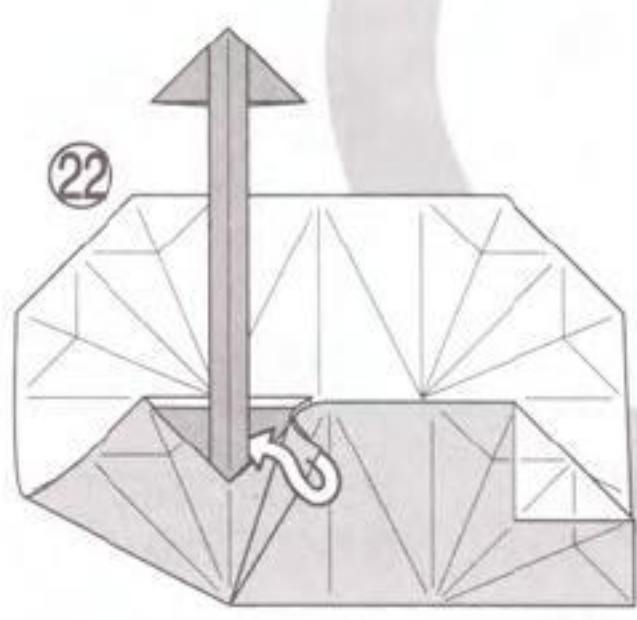
[本体]のカドを[持ち手]の
すき間に差し込む



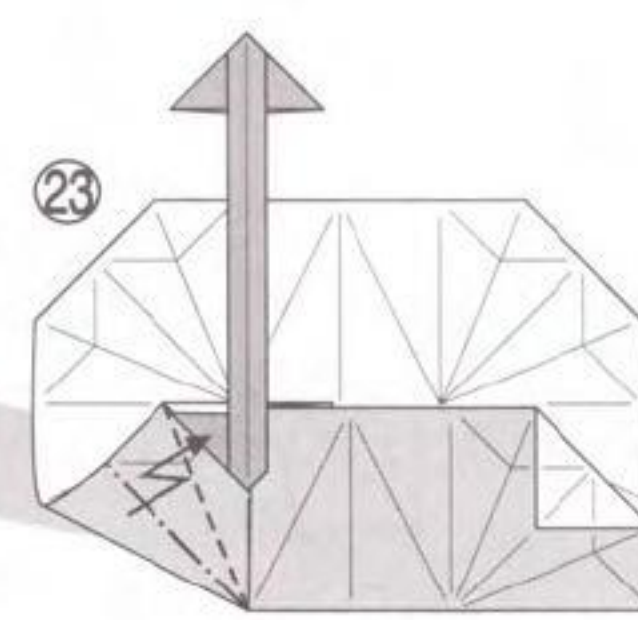
ついている折り筋で
ずらすように段折り



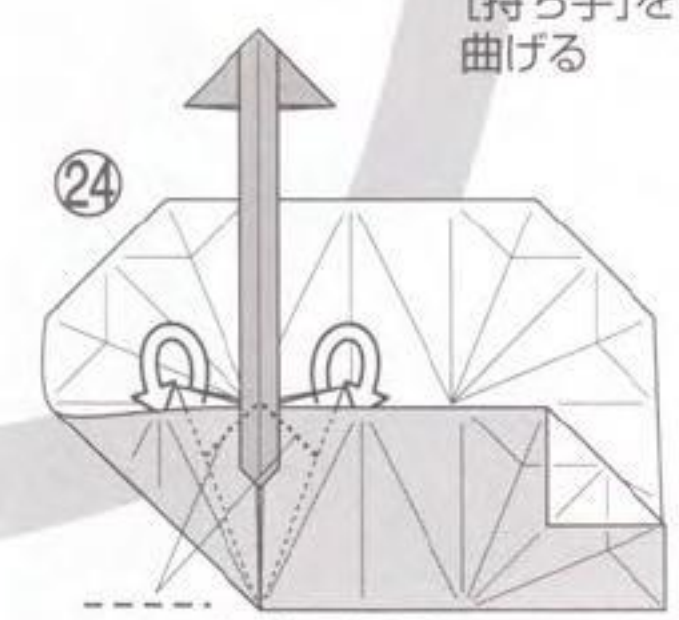
カドをかるくめくる



めくったカドを[持ち手]の
すき間に差し込む



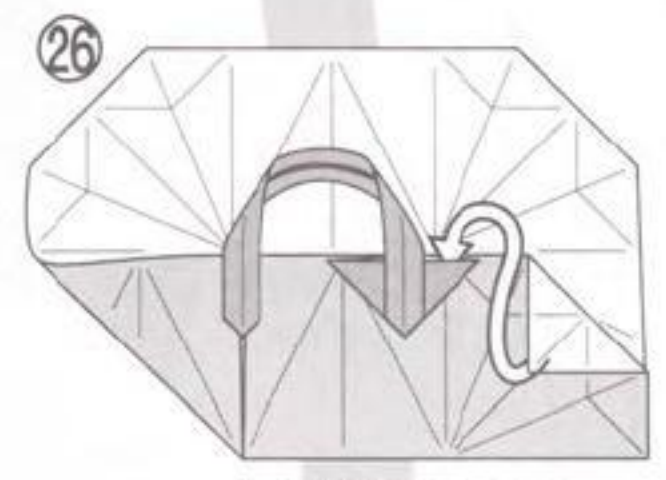
反対側も②①～②②と
同じように折る



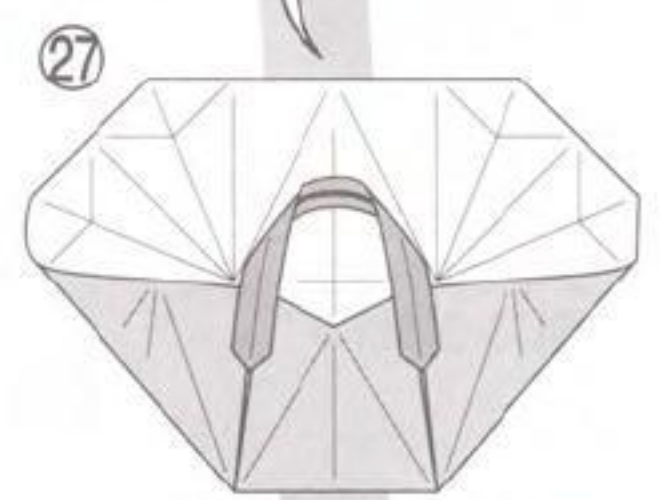
内側のカドをついている
折り筋で折る



[持ち手]を
曲げる



反対側も①⑨～②④と
同じように折る



残りの2ヶ所も①⑧～②⑥と
同じようにして[持ち手]を
つける



できあがり

蛇腹技法の課題とその対策

Issues and Prospects in Designing with Pleats

堀口直人
Horiguchi Naoto

蛇腹作品^(注1)に対して、しばしば否定的な声を耳にする。「安易」「つまらない」という見方だ。例えば山口真氏は、「こういった手法(蛇腹折り※筆者注)は嫌われていたところがあるんだよね。長方形の紙を使って蛇腹で折ればなんでもできるじゃないかと^[1]」と過去の状況を語っており、現在でも世代問わず同様の意見が散見される^[2]。また、Eric Joisel氏も同様のことを述べていて^[3]、日本だけの感覚ではないようだ。

本稿はこうした意見への反論が目的ではない。いかなる技法であれ賛否は当然であり、また蛇腹に取り組む者は、大なり小なり上記のような意見があることを知った上で折っているからだ。だから本稿は、上記のような意見に対し様々な作家がどのような打開策を模索してきたかについて、具体的な作品を挙げながら筆者の個人的理解に基づく見解を述べたい。

これは折紙創作技法の発展史の試論とも言える。若い作家が増える中、創作折紙がいかに発展したかを概括しておくことは一定の意義を持つだろう。

打開策に入る前に、そもそもなぜ蛇腹がこうした評価を得るに至ったのか、その過程を考えてみたい。蛇腹の定義に含まれる折紙は伝承作品にも存在したが、「蛇腹(box-

pleats)」が1つの技法として認識されるきっかけとなった作品は、1967年のEmmanuel Mooser氏による「Mooser's Train^[4]」であろう(図1)。長方形の紙から連結した車両を立体的に折り出したこの作品は、Neal Elias氏ら多くの作家に影響を与えた。また日本でも1970年代に川村晟氏が、同様に長方形用紙の蛇腹折りから乗り物(図2)や動物を創作し^{[5][6]}、Joisel氏に影響を与えている^[3]。これが単なる同時多発的なものなのか筆者には判断がつかないが、蛇腹折りというジャンルの確立がこの時期であるのは間違いないようだ^[7]。

ただ現代の蛇腹作品と黎明期の蛇腹作品との間には、ある種の断絶を感じないだろうか。筆者はその原因を表現の構成要素の差と捉えている。

Robert Lang氏は『Origami Design Secrets』の第2版で、蛇腹の特性を「箱状の形」「カド」「ヒダ」の順で解説している^[7]。箱状の形を「面」とみなすと、Mooser・川村両氏の乗り物やDavid Brill氏の「タバコ^[8]」などは「面」が表現の核と分類できる。それが時代をへるにつれ、表現の中で「カド」の比重が高まっていく。Elias氏の作品は「面」と「カド」の割合が等しくなっていく過渡期であり、70年代後半から80年代にはAlfred Giunta氏の昆虫作品群^[9]のような「カド」表現が核となった作品が現

れる。

90年代以降に川畑文昭氏・目黒俊幸氏^[10]・Lang氏によって「折紙設計論」が発展する中で、蛇腹もその影響を受け、2000年代に「uniaxial box-pleating(一値性を持つ蛇腹)^[7]」が大きな展開を見せる。単純な原理を覚えるだけで、長方形の紙に風船の基本形を沈めた形を並べる単純な構成では生み出せない大量のカドの塊が、計画的に取り出せるようになった。

しかしそうした「カド」表現に特化した路線は、蛇腹技法の欠点を際立たせた。それは「得られる形の種類の乏しさ」と「厚み」である。この2つこそ、蛇腹の「安易さ」を助長させた要因であると筆者は考えている^(注2)。

いわゆる単純な蛇腹は、45°の倍角の折線を基本構成とする。そのため、折って生まれる多角形の数が22.5°などと比べて少なく、カドの表現に特化するほど針金のような、情報量の乏しい形しか得られない。これが「得られる形」の問題である。これに対し「カドの数という情報量だけで勝負するか」「カドを更に折り込んで情報量を増やす」かの解決策が図られた。前者は目黒氏の「ムカデ^[10]」などの節足動物、後者は人物作品などが典型例である。

だがもう1つの問題である「厚み」の問題はどちらの戦略でも解消できなかった^(注3)。そこで「使用する紙の選択を薄く、大きくする」という、物質的な方面からの解決策が取られた。

ここで指摘しておくべきはホ

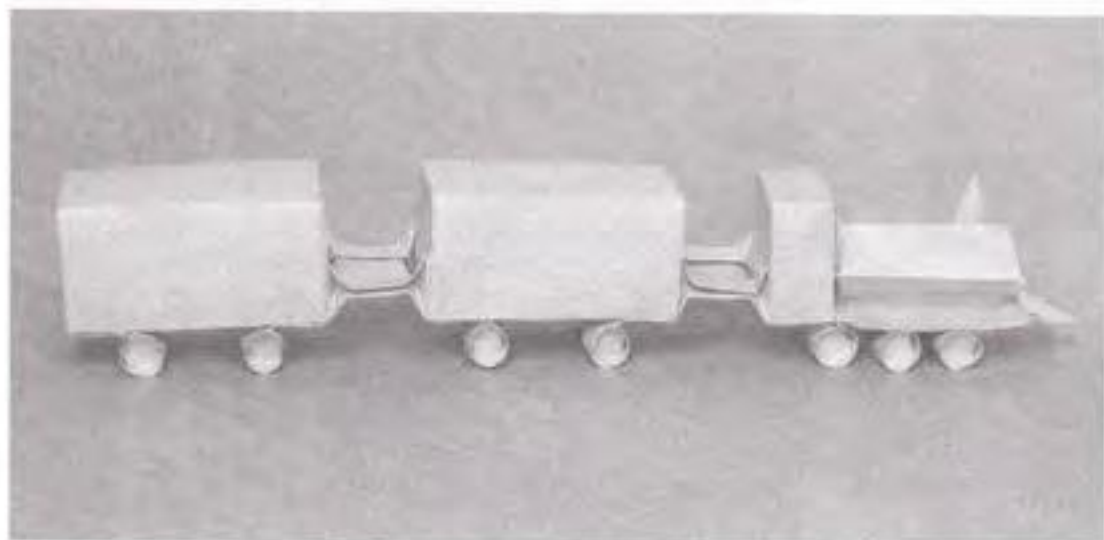


図1 Mooser's Train『Origami Design Secrets』より



図2 川村晟氏の機関車『おりがみのりものアルバム』より

蛇腹技法の課題とその対策

Issues and Prospects in Designing with Pleats

堀口直人

Horiguchi Naoto

イル紙だろう。蛇腹作品は紙の戻りが起こりやすい故か、古くからホイルが愛用されてきた^[6]。とりわけ2000年以降は、薄い紙にホイルを裏打ちした用紙が日本の若手作家の間で多く使われた。これは確かに厚みを軽減したものの、紙の性質上シワが目立ちやすく、厚みとともに大量に発生するヒダと相まって、仕上がりがぐちゃぐちゃした印象になる欠陥があった。また折り込めるといってもせいぜい「なんとか曲げられる」レベルであったため、紙をこねくり回して無理やり引っ張りだしたような作品が続出した。こうした「安易」な方策が、かねてからあった蛇腹作品への負の印象をより高めた点は否めない。現在ホイル紙が下火となり、糊引きした和紙などが複雑な蛇腹作品で多用されるようになったのも、このような背景があろう。

紙では厚みを解消できず、安易な仕上げは質を落とすだけ——そんな状況を受け、2つの方向から解決案が模索された。1つは蛇腹をあくまで構造の基礎としてのみ用い、仕上げの折りを増やす戦略である。この好例となるのが川畑文昭氏の作品だ。例えば氏の「ステゴサウルス^[11]」(図3)はその骨格構造こそ対角蛇腹だが、基本線以降の折りは蛇腹の範疇からはみ出ており、結果として完成形に「蛇腹っぽさ」は感じられない。このように設計

論以前のノウハウを持った作家は、発展した蛇腹技法のエッセンスを吸収しつつも、蛇腹に捕われない路線をとった。この路線では等分数を削減する方向に回帰することで、厚みの問題を軽減することが多い。少ない等分数でも折り込み技術が十分ならば問題ないからだ。

もう1つは、蛇腹技法を洗練させることでヒダや厚みを技術的にコントロールし、欠点を覆い隠そうという戦略である。具体的には「幅変換」や「模様折り」「神谷パターン」などの技法が該当する。カド出しを核とした蛇腹ではカドの幅は全て1マスになるが、「幅変換」によって部分的に4マスに広げたり逆に1/4マスに縮めたりできる。これにより「カド」に偏った蛇腹に「面」や「ヒダ」の表現を盛りこめるのだ。その代表例が神谷哲史氏による「龍神^[12]」であろう。龍神では細かいヒダで鱗の模様を入れた「皮」に当たる広い面で基本の蛇腹構造をくるむことで、造形に不要な情報を隠し、必要な情報だけを見せている。この「広い面でくるんで余計な部分を隠す」という感覚は、仕上げで立体的に見せる蛇腹作品において重要である。他にもインサイドアウトによってヒダや厚みから相対的に注意を逸らした神谷亮氏の「メイド^[13]」や、Lang氏によるhex-pleats^[7]も類例として指摘できる。

またこの路線の発展形として、今注目すべきは「整数比角度系^[14]」である。作例として今井幸太氏の「紅葉^[15]」を挙げておく(図4)。蛇腹の交点を結ぶ折り線によって生み出される面構成は、神谷氏が既に「トンボ1.1B^[16]」で示した「神谷パターン」の応用といえるが、バリエーションに乏しかった従来の蛇腹のイメージを覆すものである。それ以外にもこの技法はカド配置の効率化による厚み軽減や、小さいカドを構造的に無理なく折り出すといった、既存の蛇腹の弱みを補う可能性を持っている。

このように、蛇腹といっても様々な戦略が存在する。しかしこうした戦略は突如として生まれたものではない。折り込み技術で蛇腹っぽさを消す戦略はPatricia Crawford氏^[17]が取っていたし、Elias氏の「Last Waltz^[18]」(図5)は、面によって蛇腹の見せたくない部分を隠す戦略の先鞭である。こうした蓄積が「設計論」後の折紙に発展的に取り込まれていったと考えるべきだろう。

ここまで説明した戦略は、どれも「弱みを消す」という観点に立っている。一方、「弱み(と思われるもの)を全面に押し出す」という観点に立った戦略がある。それを直接的に示した例が北條高史氏による「さかな



図3 川畑文昭氏のステゴサウルス『空想おりがみ』より

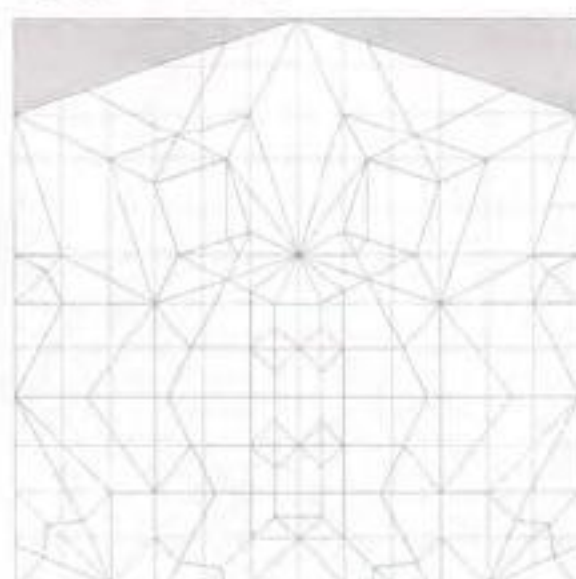


図4 今井幸太氏の紅葉(写真は作者のFlickrより)



図5 Last Waltz『Neal Elias 1964-1973』より

○堀口直人（ほりぐち・なおと）＝こんな記事を書いています、もう1年以上蛇腹折ってません。執筆に際し小松英夫氏にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。



のオブジェ」シリーズ^[19]だ(図6)。

このシリーズは蛇腹の折り目を活かした、「ヒダ」の持つ表現力を前面に押し出した構成となっている。「幅変換」や「模様折り」による「隠す」戦略が構造的にヒダを発生・制御するのに対し、こちらの戦略は蛇腹が生来持つヒダ自体を解放し、表現に取り込もうとする試みといえる。氏は「ガブリエル^[20]」の服や「雷神」(図7)の筋肉の表現などでも、必然的に発生するヒダを表現に取り込もうとしている。これはJohn Richardson氏の「ハリネズミ^[21]」、津田良夫氏の「巻貝^[22]」、Joisel氏の「かたつむり^[3]」といった、ヒダを表現の核とするため、ヒダの折り出しに紙の大部分を費やす路線ともまた異なる発想と考えられる。

この路線の結実として Joisel氏を忘れてはならないだろう。彼は蛇腹の「ヒダ」の一つ一つに意味を与えるという、川畑氏らとは別の折り込み技術によって、蛇腹の欠点を美点に変えた作家である。さらに「厚み」に関して蛇腹を畳むのではなく広げることで解消しようとした。こうした手法はしばしば「粘土的」として批判される。だが氏の作品は、重要なのは技法の選択の良し悪しだけでなく、選んだ技法をいかに洗練させるかなのだと教えてくれる。

以上、蛇腹の弱みを克服するための取り組み事例をいくつか紹

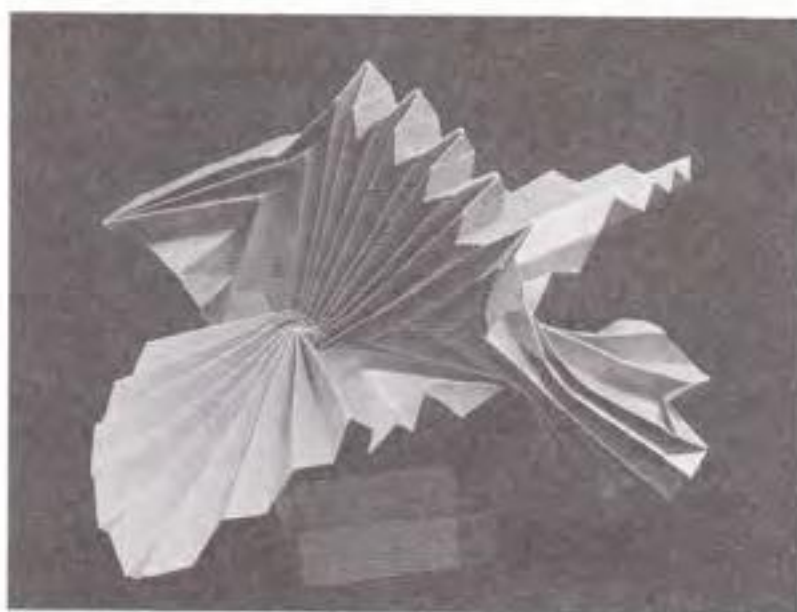


図6 さかなのオブジェ 5(写真は作者提供)

介してきた。無論、これらの戦略に完全な解はなく、欠陥も存在する。例えば「幅変換」は蛇腹の「形のつまらなさ」を補うだけでなく、上手く使えば「厚み」を分散させる利点もあるが、一方でJoisel氏も指摘している^[3]ように、「部位ごとの厚みの差」を広げる難点がある。十分に薄い紙を使った際、厄介なのはむしろ「厚みのない箇所」なのだ。

そもそも本稿で取り上げた蛇腹の弱みは、基本となる折線のパターンが22.5°などより少ないことに起因するが、それはLang氏の指摘するように「逆説的に^[7, p465]」蛇腹の作りやすさの要因でもある。技法の欠点とは常に長所と鏡合わせなのだ。故に問題点を緩和する工夫を絶えず模索し、何を折るか、表現したいかによって最善策を選ぶ。それが創作の苦しみであり、また楽しみなのである。

注1 本稿で取り上げる「蛇腹作品」とは、「用紙を合同な正多角形に分割するように平行につけられた折線と、その平行線の交点を結ぶ折線から基本構造を折り出した折紙作品」と、とりあえず定義する。



図7 雷神(写真は作者提供)

注2 なお、蛇腹が忌避される要因としてもう一つ「折り工程化しづらい」という問題があるが、議論が発散するため本稿ではこの点については取り上げない。

注3 「厚み」の問題が深刻化したのは、「設計論」の展開によって内部カドが使いこなせるようになったことも大きい。

参考文献

- [1] 1996『季刊をる』12号 双樹舎
- [2] 「なぜ蛇腹人物か」 fold/unfold <http://d.hatena.ne.jp/origami/20080416>
- [3] エリック・ジョワゼル, 山口真 2010『エリック・ジョワゼル—折り紙のマジシャン』おりがみはうす
- [4] J. C. Nolan, Emmanuel Mooser, 2013『Moosers' Train: The Origami Train Set』CreateSpace Independent Publishing Platform
- [5] 川村晟 1988『おりがみのりものアルバム』京都書院
- [6] 川村晟 1988『おりがみどうぶつアルバム』京都書院
- [7] R. J. Lang 2012『Origami Design Secrets 2nd edition』CRC Press
- [8] David Brill 1996『Brilliant Origami』Japan Publications
- [9] 1996『季刊をる』13号 双樹舎
- [10] 「ようこそ折り紙のホームページへ 掲示板過去ログまとめ」折り紙計画 <http://origami.gr.jp/~komatsu/etc/meguro-bbs-log/index.html>
- [11] 川畑文昭 2006『空想おりがみ』おりがみはうす
- [12] 神谷哲史 2002「龍神を作る」『折紙探偵団』72号 日本折紙学会
- [13] 『折紙探偵団』102号 日本折紙学会
- [14] 折り紙の青春の夢 <http://origamijugendtraum.blog.fc2.com/>
- [15] 今井幸太 Flickr <https://www.flickr.com/photos/119910244@N05/>
- [16] 神谷哲史 2003『折紙探偵団』80号 日本折紙学会
- [17] Robert Harbin 1998『Origami Step by Step』Dover Publications
- [18] Dave Venables 1978『NEAL ELIAS 1964-1973』British Origami Society
- [19] 北條高史 2003「『さかなのオブジェ』作品解説—魚の形をした矢印—」『折紙探偵団』80号 日本折紙学会
- [20] 北條高史 2004「『ガブリエル』制作過程—魅惑の(?)64等分蛇腹—」『折紙探偵団』86号 日本折紙学会
- [21] 1979『BOS Magazine 75』British Origami Society
- [22] 津田良夫 1985『創作折り紙をつくる』大月書店

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

46冊目 近刊和書レビュー

Reviews on Recent Japanese Origami Books

今回はいつもの連載と趣きを変えて、2015年前半に国内で出版された折り紙書籍を6冊ご紹介させていただきます。いずれの本も、児童向けではない、大人を対象にホビーとして折り紙を捉えた編集で、掲載作品も比較的難しめです。

一般的に、コンプレックス折り紙の書籍化が難しいとされるのは「折り図や校閲など制作コストが大きい」割に「需要が少ない」ことから、ビジネスとして成立しにくいためです。しばらく前までは、日本において複雑な折り紙が市販書で出版されることは「ビバシリーズ」などの例外を除いてほとんどなく、1990年代以降にコンプレックス折り紙が技法・表現の上で進化を遂げた後も、そのような作品を折るには洋書であったりインディーズ出版（おりがみはうすガレージブック）に手を伸ばす必要がありました。これらは販売経路や宣伝範囲が限定的なことから、リーチがある程度積極的な愛好家に限られるという現実もありました。

しかし近年、次第に市場の存在が確かなものになってきた気配を感じます。デジタル折り図制作法の作家への浸透とともに、愛好家層の拡大・定着が進んできたことが背景にあるのでしょう。特に前川淳氏の『本格折り紙』（2007年）の成功は、1つのマイルストーンとして挙げられるかと思います。今後もこの流れが続き、折り紙の奥深い世界へと繋がる間口が広がっていくことが期待されます。

『世界のオリガミ・マスターズBUGS「昆虫戦争」は折り紙をここまで変えた!』マルシオ・ノグチ他 著、小川未来 翻訳

2015年1月に駒草出版より発行。184

ページ、7作家12作品収録、2,500円（本体価格。以後の本も同じ）。

2013年9月に米Race Point Publishing社から出版された『Origami Masters Bugs』の日本語版です。海外の折り紙書籍が完全翻訳されるケースはとても珍しく、しかもその内容がかなりのマニア向けであるという点で思い切った出版かと思います。

特殊な印刷の表紙やオールカラーの本文など、ほぼ原書そのままの豪華な装丁（テキストのみを差し替える“国際共同出版”という方式）で、掲載作家陣は、ロバート・ラング氏をはじめ、ウォン・パーク、セバスチャン・アレラーノ、マーク・カーシェンバウム、ダニエル・ロビンソン、ジェイソン・クー、そして今年の吉野一生基金招待者でもあったシュウキ・カトウ各氏となっています。折り図はパーク氏の作品のみノグチ氏が出がけている他は、創作者自身の作図がベースになっています。後半の掲載作には、56等分や60等分のボックスプリーツが用いられるなど、非常に手間のかかるものが並んでいます。

『ヘビオの動物折り紙』玉村ヘビオ 著

2015年1月に日本ヴォーグ社より発行。136ページ（うち専用用紙80ページ）、18作

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

品収録、1,400円。

著者の玉村氏はイラストレーター。折り紙の著書は本書が初めてで、他分野の表現者の手による、やや異色の折り紙本と言えるでしょう。

あらかじめ図柄や模様、そして折り線が書き込まれた専用用紙（岡村昌夫氏のいう〈色刷り展開図〉）が綴じ込まれていて、それを切り取って折ることが前提となった作品集となっています。実際の動物に即した彩色の作品が大半を占めますが、花のような模様が描かれた「キリン」であったり、胴体下部に周囲の草むらの図案が施された「ウサギ」であったりと、この手法ならではの表現を持った作品が興味深い仕上がりです。通常の折り紙では〈ぐらい折り〉となる折りを一意にすることができると、作家の造形感覚をそのままに伝えるのに適した手法ということにも気付かされます。作品の難易度は易しいものが多く、笠原邦彦氏などの影響が見て取れるスタイルです。

『切らずに1枚で折るおりがみペット おりがみペットアイランド』フチモトムネジ 著

2015年3月にソシムより発行。128ページ、30作品収録、1,600円。

2005年よりブログで創作折り紙の公開を始め、2010年に初の著書『ORIROBO』を出版して以降はコン



▲世界のオリガミ・マスターズBUGS



▲ヘビオの動物折り紙



▲おりがみペットアイランド

○小松英夫(こまつ・ひでお)=
1977年生まれ。日本折紙学会
評議員。『端正な折り紙』には拙作
「パピヨン」を収録していただい
ています。



スタントに新刊を発表しているフチモ
ト氏の7冊目の本です。

本書は、『おりがみペットパーク』
(2011年)につづく生き物をテーマ
にした本の第2弾として、水に棲む生
き物をメインにしながら鳥や小動物も
加えたラインナップとなっています。多
くの作品で8等分格子を基本の折り線
に用いており、適度にデフォルメされ
た造形は統一感があって、口絵のよう
にジオラマ化する楽しみがありそうで
す。

自身が経営するデザイン会社で編
集制作されるフチモト氏の著書は、1
冊のすみずみにまで趣向を凝らした
ブックデザインが特色で、本書でも
ペーパークラフト式ディスプレイの型
紙が巻末付録についています。一貫し
て写真による折り図を用いてきている
点も特徴です。写真折り図は愛好家か
らは賛否もあるところですが、やや変
則的かつ立体的な工程の多い同氏の
作品とは相性が良いように感じます。

『古典から創作まで なつかしくて新しい 折り紙の教科書』宮島登 著

2015年3月にソーテック社より発行。128
ページ、48作品収録、1,600円。

初期からの折紙探偵団メンバーで
ある宮島氏の初の著書です。

本文は古典・初級・中級・上級の4章

に分かれ、古典では伝承作品を扱い、
その他の章には著者の創作作品が収
録されています。宮島氏のこれまでの
作家活動と比較すると平易なモデル
が多めで、氏のファンにとっては逆に、
あまり発表されてこなかったシンプ
ル系の作風を知れて興味深いかもしれ
ません。上級の章に収録されている作
品でも最長86工程となっていて、一般
的な折り紙用紙で充分折れる範囲の
複雑さとなっています。インサイドア
ウト作品の多さも目を引きませんが、ほ
とんどが片面が白で成立する作品と
なっているところからも、やはり市販
用紙で手軽に折れる点が重視されて
いるようです。

作品の合間には、約10篇の折り紙
に関するコラムが挿入され、現代折り
紙の基礎知識を雑学チックに知ること
もできます。

『端正な折り紙』山口真 著

2015年6月にナツメ社より発行。268ペー
ジ、24作家50作品収録、2,200円。

山口氏が自選作品とともに、古今東
西の秀作を集めたコンピレーション
で、非常にボリュームのある内容から
すると破格とも言える価格設定になっ
ています。本誌やコンベンション折り
図集で創作者本人の折り図で発表さ
れた作品も、より分かり易く“はうす仕

様”の加筆修正が行われています。

古代生物・昆虫・鳥類・海洋生物・小
動物・大型動物・空想生物・アラカルト
の8つのテーマに分類された収録作
品は、スタイルも難易度もさまざま。あ
えて具象作品に収録を絞った感があり、
ユニットをはじめとした幾何学的
モチーフの作品は含まれていません。
根強い人気の「ツル星人」(笹出晋司
氏)の収録が特に嬉しいところです。さ
らに、紙の選び方、折る際に使う道具、
ウェットフォールディング、仕上げのの
りづけについてのコンパクトな解説や
用語集が掲載されていて至れり尽くせ
りの内容です。

『立体折り紙アート 数理がおりなす美しさ の秘密』三谷純 著

2015年7月に日本評論社より発行。140
ページ、50作品収録、2,000円。

10年におよぶ三谷氏のコンピュー
タを用いた幾何的折り紙設計の研究、
その現時点での集大成と言える内容
です。二見書房から刊行された前著2
冊は、そのまま折れる型紙展開図が
付いた作品メインの構成でしたが、本
書は「軸対称な立体折り紙: 立体襷・
円錐タイプ」といった手法ごとに整理
された作品群の概説に大きくページ
が割かれています。数理に基づいて
設計されている三谷作品ですが、解説
には数式などは登場せず、図を交えな
がら基本の考え方が書かれているた
め、一般の愛好家でも問題なく読み進
められるでしょう。その他、折り紙の科
学研究にまつわるさまざまなトピック
も紹介されていて、分野を横断して広
がる新しい折り紙の世界を知るガイド
ブックにもなっています。



▲なつかしくて新しい折り紙の教科書



▲端正な折り紙



▲立体折り紙アート

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

第19回「国際大学折紙連盟」第1回展示会レポート

A Report of the 1st Exhibition of International Collegiate Origami Association

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探究し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

堀口直人
Horiguchi Naoto

8月14日から16日に東洋大学にて、第21回折紙探偵団コンベンションと併設する形で国際大学折紙連盟(International Collegiate Origami Association)の第1回展示会が開催された。国際大学折紙連盟については既に本誌151号や152号でも報告がされているが、改めて簡潔に説明しておく。

本誌でもたびたび取り上げているように、近年全国の大学で折り紙サークルが発足し、活動が広まりを見せている。全国サークルの交流団体である折り紙サークルネットワークも発足した。また昨年の60SMEでも、関東圏の大学サークルがボランティアとして貢献してくれた。このような若い世代の活動は、折り紙の将来的な発展に欠かせないものであり、日本折紙学会や多くの折り紙愛好家はその動向に注目していた。

そうした流れの中で今回、山口真

氏の提案を受け、大学折り紙サークルの恒常的な活動継続と、グローバルな発展を目指すことを目的に、日本折紙学会の目指す折り紙の普及活動の1つとして、国際大学折紙連盟(International Collegiate Origami Association: ICOA)を設立することになった。最初の活動として実施した展示会は、折り紙サークルの活動を世間に周知させること、そして国内と海外の若い折り紙作家が作品を通して刺激を得る機会とすることを目的としたものだ。

★トリビア1★ 今回の展示会に参加した大学は31校

連盟の参加方式には、大学サークル単位での「サークル会員」と、サークル単位ではない「個人会員」がある。個人会員は、サークルに所属していない学生や、サークルのない大学で折り紙をしている学生にも参加してもらえるよう考えて設置した。実際、

展示会直前にそれまで個人会員で参加していた金沢大学の学生が、新たにサークルを発足しサークル会員に名義変更することもあった。また大学院生も参加できる。展示会はコンベンションの参加の有無にかかわらず誰でも無料で観覧できるようにした。出展作品は「創作作品部門」と、他者の作品を折った「習作部門」の2部門で参加者から募った。

5月半ばからサークル・学生に呼びかけを行い、展示会前までの時点で、国内外35大学から27名の個人会員(うち海外17名)、11団体のサークル会員(うち海外1団体)の参加申し込みがあった。海外からの参加は、ベトナム・韓国・アメリカ・ドイツの4カ国である。

そのうち、今回の展示会の出展者・サークルの一覧を表1に示した。また出品者の詳細は表2に示してある。個人会員23名(うち海外16名)、10のサークル(うち海外1団体)から25名

表1 出展者・サークル一覧

参加大学・サークル(国内)	参加大学・サークル(海外)	国
東京大学折紙サークルOrist	OrigaMIT(マサチューセッツ工科大学)	米国
折禅(慶應義塾大学)	クーバーユニオン	
九州大学折紙同好会ORUTO	コーネル大学	
京大折紙サークルいまじろ〜	ベルリン自由大学	独
東京工業大学折紙同好会FIT	トンドゥク タイン大学	ベトナム
東洋大学折り紙同好会四季折々	中央芸術教育大学	
東北大学折り紙サークルORUXE	ハノイ科学技術大学	
早稲田大学折り紙サークルW.O.L.F	ドン ソアイ大学	
金紙・金沢大学折り紙サークル	ホーチミン市テクノロジー大学	
杏林大学	茨城大学(留学生)	韓国
広島大学	全州大学校	
静岡大学	世宗大学校	
京都工芸繊維大学	漢陽大学校	
近畿大学	ソウル科学技術大学校	
上越教育大学	鮮文大学校	
	東京工科大学(留学生)	

表2 出展作品数一覧(カッコは海外参加者)

	参加大学	出展者	創作	習作
個人会員	21(15)	23(16)	65(38)	4(3)
サークル会員	10(1)	25(2)	71(9)	21(0)
計	31(16)	48(18)	136(47)	25(3)
出展作品総計			161(50)	



▲「回想」(ステゴサウルス全身骨格)作・吉武勇人

○堀口直人(ほりぐち・なおと)=今回の展示会の実現にご協力くださった全ての方に感謝いたします。



(うち海外2名)、計31大学48名が参加した。作品は合計で161作品(創作136作品、習作25作品)集まった。うち海外参加者の作品は50作で、およそ1/3を占める。余談であるが、そのうち1作は制作が間に合わず、展示会の会期中に展示室で、パフォーマンス的に折ってもらった。

3日間の展示会は、今年から一般開放したコンベンションの展示室ともども、ほとんどの時間で途切れることなく来場者が訪れた。展示室の監視をしていて感じたのは、コンベンション参加者以外の一般見学者の多さだ。来場者に記入してもらったアンケートによると、回答者のうちコンベンションに参加していない人は、およそ54%(回答数55人中30人)と半分を超えていた。このことから、コンベンション参加者以外の見学者が一定数いたことが

推察できる。また、コンベンションに参加していない見学者がどこで展示会を知ったかを見てみると、「新聞」がもっとも多かった(30人中13人:およそ43%)。これは8月12日の朝日新聞夕刊に掲載された告知記事である。実際展示室でも、新聞記事の切り抜きを持って来場する年配の方や家族を何人か見た。

アンケートの「印象に残った作品」では、吉武勇人さんの「回想(ステゴサウルスの全身骨格)」、鶴田芳理さんの「墮天使」という、九州大学折紙

残った出来事がいくつかある。静岡大学の学生が出展していたのだが、会場に面識もなければキャンパスも違う静岡大の折り紙好きの学生さんがたまたま見学に来て「紹介してほしい」と言うので、その場で引き合わせることがあった。アンケートにも印象に残ったこととして、「知り合いができた(10代:学生)」という回答があった。こうした企画が、人と知り合い、新たなつながりを生むきっかけとなるのだと改めて感じた出来事だった。

もう1つは熱心に作品を見る幼い見学者の存在だ。特に印象に残っているのは金曜に来た小学生で、なんでも折り紙が好きなのだが、周りに折り紙が趣味だということを理解してくれる友人がおらず、ずっと誰かと折り紙の話をしたくてたまらなかったのだという。幸い閉場間際で見学者も少ない時間帯だったので、展示場所とは違う場所で、監視係の1人に話相手を務めてもらった。年上のお兄さんに今まで分からなかったことを色々聞けて良かったと、とても喜んでいたという。アンケートにも「来年は自分も(10代:学生)」といった声があった。彼らがいつか大学に進んで折り紙サークルや連盟に加わり、折り紙の世界で活躍するようになってほしい。

今後の活動であるが、現在のところ今年11月に石川県金沢市で展示会を行う計画が進んでいる。これに留まらず多くの場所で展示会を継続的にを行い、若い世代の折り紙の周知を図っていきたい。

(編注:関連写真をP.23に掲載)

★トリビア2★ 今回の展示会には161点の作品が集まった

同好会ORUTOの2人の作品、そして慶應義塾大学折紙の水野翔さんによる「ふなっしー」を挙げる人が多かった。また票が割れてしまったものの、中村楓さんの昆虫や恐竜作品、立野ひかりさんの曲線折りを活かした作品群、仮屋蘭寛悟さんの蛇腹作品群なども印象に残ったようだ。海外では、ベトナムのレ・ヤインさんが創作した「自転車タクシー」を挙げる人が多かった。

展示会場にいて、個人的に印象に



▲「墮天使」作・鶴田芳理



▲「自転車タクシー」作・レ・ヤイン

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

世間も気温も生活全般も、急な変化がいれかわりたちかわり。「日常とは違うスピードの時間に、自分を切り替える手段」として折り紙があることを思い出すと、ほっとします。

「星の王子さまのバオバブ」

作：川崎敏和(P.4)

The Baobab Tree as in "The Little Prince":
Kawasaki Toshikazu (P.4)

■最新のコンベンション折り図集に掲載された作品をモジュール化、複数のバオバブが「うず組み」で繋がる！ 複雑で有機的な印象の樹木を、多面体ユニットのように扱うことができます。部品サイズや連結角度の自由度が高い「うず組み」の特性を生かして、林へ、森へ、自在に拡張・発展させてゆくことも可能。



「X-CUBE」 作：櫻井亮佑(P.8)

X-Cube: Sakurai Ryosuke (P.8)

「持ち手つきトートバッグ」 作：やまぐち真(P.10)

Tote Bag with Strong Handles: Yamaguchi Makoto (P.10)

■2種類の部品で構成され、それらの「かみ合わせ方」がキモとなっている作品をふたつ紹介しています。組み上げる過程の中で、パーツのシンプルな形状からは予想しにくい模様が浮かび上がるキューブには、単色だけでなくグラデーションが入った紙も似合いそう。トートバッグは実用作品として使えるだけでなく、作品を飾るための器としても活躍します。



「メジロ」 作：神谷哲史(P.26)

Japanese White-eye: Kamiya Satoshi (P.26)

■作品単独でもかわいらしさがあふれていますが、ポーズ付けや飾り方の工夫でさらに魅力がアップすることでしょう。アクロバティックな姿勢で枝に止まる様子や、群れて寄り集まって文字通り「メジロ押し」になった状態…。さまざまな応用アイデアを連鎖反応的に発生させてしまう、刺激的なエネルギーを内包した作品だと思います。



「乙女座」 作：鶴田芳理(P.38)

Virgo: Tsuruta Yoshimasa (P.38)

■折り手の解釈・多様な加工も許容し、仕上げ方次第で異なる方向性のイメージにすることが可能。作例では質実剛健な印象となっていますが、柔らかさ・繊細さ・ダイナミックなポーズなど、各人が思いついた「盛り込みたい要素」を徹底的に注ぎ込んでみるのも良いでしょう。



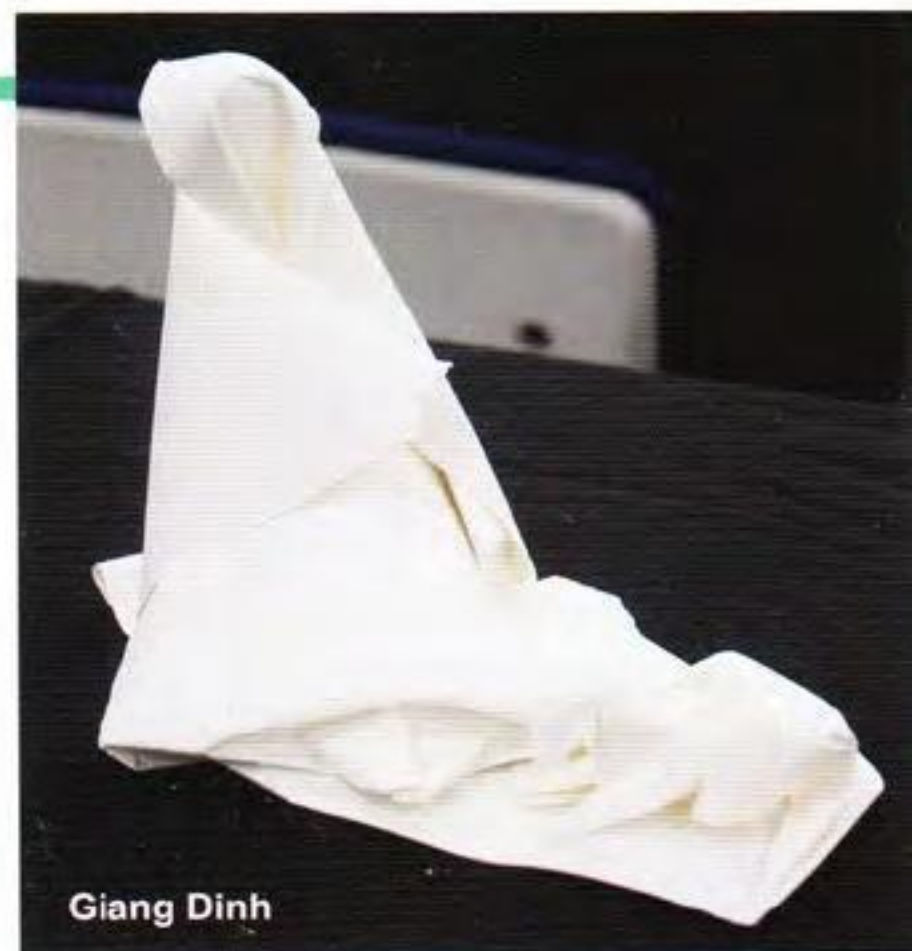
第21回折紙探偵団コンベンションより(P.40)

From the 21st Origami Tanteidan Convention (P.40)

■今年も400人規模の参加者を集めた折紙探偵団コンベンションは、盛況のうちに閉幕した。ICOAの展示と連動して、コンベンションの作品展示も一般公開し、多くの人に見てもらうことができた。20年を過ぎてもなお、進化し続ける大会でありたい。



▲海外旅行が初めてだったという今年の吉野一基金招待者の1人、シュウキ・カトウ氏 ▲もう1人の招待者、ジャン・ディン氏(手前)と通訳担当の立石浩一氏(後ろ)



Giang Dinh

▲ウェット・フォールディングを駆使したジャン・ディン氏の作品は、ほぼ曲線で構成される



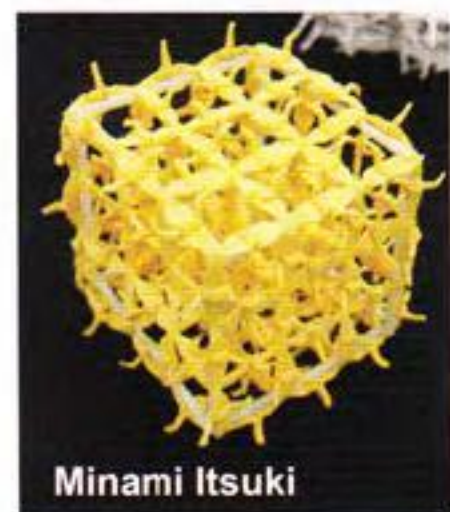
▲懇親会恒例、ビンゴの目玉賞品、ドローンは韓国からの参加者、パク・セジン君が当てた



▲このビンゴは、先に上がったからといって、良いものが当たるとは限らない...



Shuki Kato



Minami Itsuki



Kade Chan



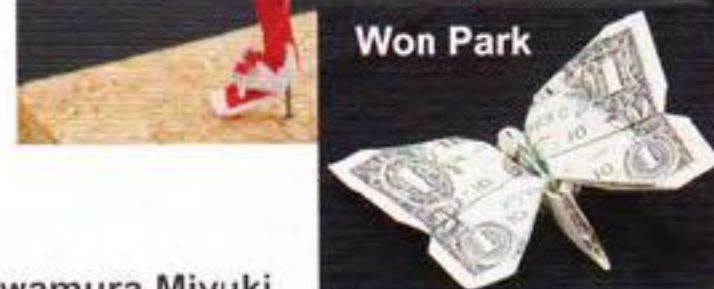
Ohtani Mitsugu



Kobayashi Hiroaki



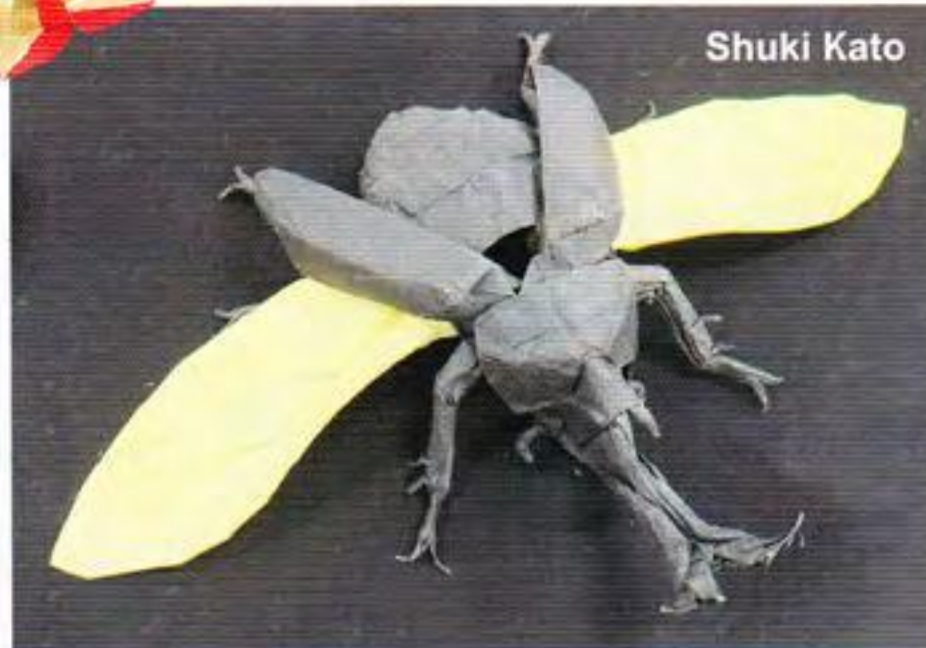
Kawamura Miyuki



Won Park



Watanabe Kei



Shuki Kato



Kitanishi Kazuki

▲シュウキ・カトウ氏も注目、「バレリーナ

第9回JOAS創作折り紙コンテスト

今年からいくつかのルールが追加されたコンテスト。レベルの高い作品が集まったものの、評価が割れて、残念ながら「さる」部門は、該当作品なしとなった。



おりがみはうす賞

「X-CUBE」櫻井亮佑 Sakurai Ryosuke



▲得票数では1位だった作品
「リスザル」小林勇太 Kobayashi Yuta

JOAS賞:干支部門「さる」

該当作品なし

JOAS賞:特別テーマ部門「料理」

「ワインをあじわいたいのなら」

佐藤亮平 Sato Ryohei



第1回国際大学折紙連盟展示会レポートより(P.18)

From the 1st Exhibition of International Collegiate Origami Association (P.18)



Lanh Duc Canh



Jeong Ki Dam



Tsuruta Yoshimasa



▲会場風景。国内外から集まった、161点の作品が並んだ



Creator: Uyen Nguyen
Folder: Yeon Gyeong Lee



Maeng Heung Gue



Imai Yudai



Ta Trung Dong



Murakami Yuya



Lanh Duc Canh



Nakamura Kaede



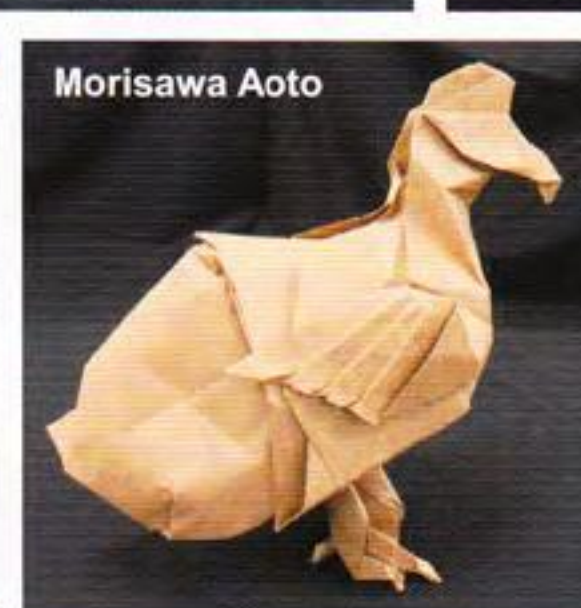
Michelle Fung



Kaimon Thuerk



Suzuki Yusaku



Morisawa Aoto



Tachino Hikari

第6回韓国折紙コンベンションより(P.41)

From the 6th Korea Origami Convention (P.41)



▼盾には「名誉会員」との文字が



▲開会式にて。これまで山口真氏が、韓国折紙協会の活動に貢献してきたとして、表彰された

▶今年の招待者、西川誠司氏とシッポ・マボナ氏



▶懇親会会場にて。恒例のじゃんけん大会。シンプルだが意外と盛り上がる



▲韓国の若手折り紙クリエイターたちと山口真氏



▲こちらも懇親会恒例となっている「紙鉄砲」の早鳴ら競争。2人ずつで対戦して勝ち残るトーナメント方式



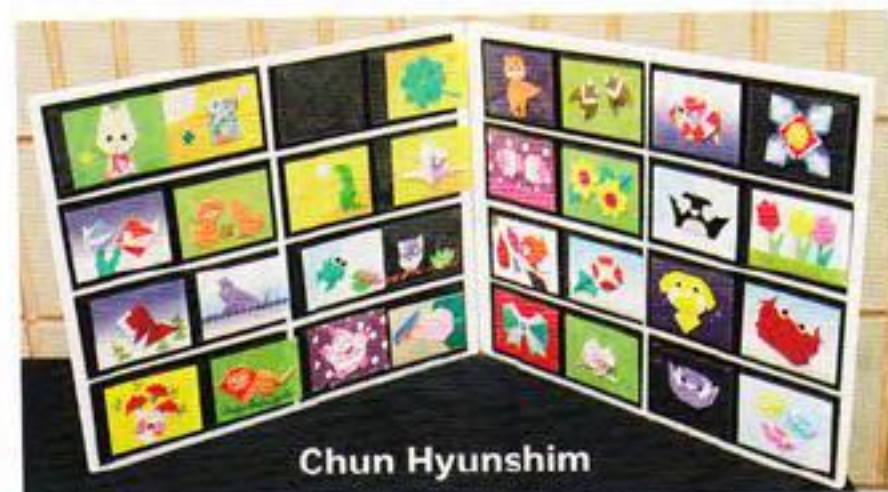
Creator: Chen xiao
Folder: Han Bong Gu



Sipho Mabona



Kim Seung Kyun



Chun Hyunshim

▲Origami ATCを作る講習もあった



▲神谷哲史氏の「ガルーダ」(展開図を本誌149号に掲載)を、展開図だけで折ったイ・ボムジン氏(右)と、神谷氏の折ったオリジナル作品を持つ山口真氏(左)



Kim Seung Kyun



Jang Yong Ik



Lee In Seop



Maeng Heung Gu

▶期待の若手達。左から、チャン・ヨンイク氏、メン・ヒョング氏、キム・ジンウ氏。キム・ジンウ氏が持っているのは、神谷哲史氏の「ヒッジ」を自身で折ったものと、それを3Dプリンターで出力したもの



折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of Origami Tanteidan Tokyo Group



Nakamura Kaede



Kakami Hitoshi



Inoue Takaya



Kakami Hitoshi



Ryu Shigo

Origami ATC研究会より

To the Participants of the Workshop for Origami ATC

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(約64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。Origami ATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回程度開かれている、折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ(P.42に参加方法記載)。8月の折紙探偵団コンベンションでは、普段は直接参加できない愛好家も集まって、「和」をテーマにしたカードが会場内を飛び交った。郵送参加人数も過去最高の18名。会場の参加者と合わせて38種類のカードが揃った(1人で2種類のカードを作成された方含む)。交換会を盛り上げていただいた皆様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

10月のテーマは「食」。前回と同様に、「食」から連想するものなら何でもOK。郵送の参加も受け付けているので、右の「郵送参加方法」をご覧ください。

▶8月16日の交換会に集まっていた方々。Origami ATC初体験の方もいらっしゃいました。ありがとうございます。またのご参加をお待ちしております!



「小倉百人一首」/
川井千世・作
使用作品:小野小町
(笠原邦彦・作)



「和」/小原智美・作
使用作品: Braided Corona Star
(Maria Sinayskaya・作)



「金魚すくい」/伊藤晴美・作
使用作品:金魚(朝日勇・作)
ボイ(自作)

次回Origami ATC交換会:2015年10月7日(水)の
郵送参加方法(10月5日必着)

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(約64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:食(食のつく熟語や食から連想するもの)
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.使った折り紙作品の名前と創作者名、又は参考文献名とその著者名の3つを必ず記入のこと。できれば作成日やコンセプトも書くとい。

◆応募方法

- ・Origami ATCを3枚(1口分)作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封して、おりがみはうす(〒113-0001東京都文京区白山1-33-8-216)へ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

◆注意事項

長方形以外のカードを作る場合は、2.5×3.5インチ(約64×89mm)にカドが内接するようにすること。

Origami Artist Trading Card

Title:	大輪のバラを君に。
Name:	スタッフhanako
HP, ブログ:	スタッフhanakoの おりがみはうす日記
http://ameblo.jp/hanako-origami/	
作品について 折り紙の作品名・作者名を記入 のり・はさみ・はさみ・はさみ	
バラ (山口 真・作)	
『まてきな花の折り紙』(折紙より)	
2015年10月7日	

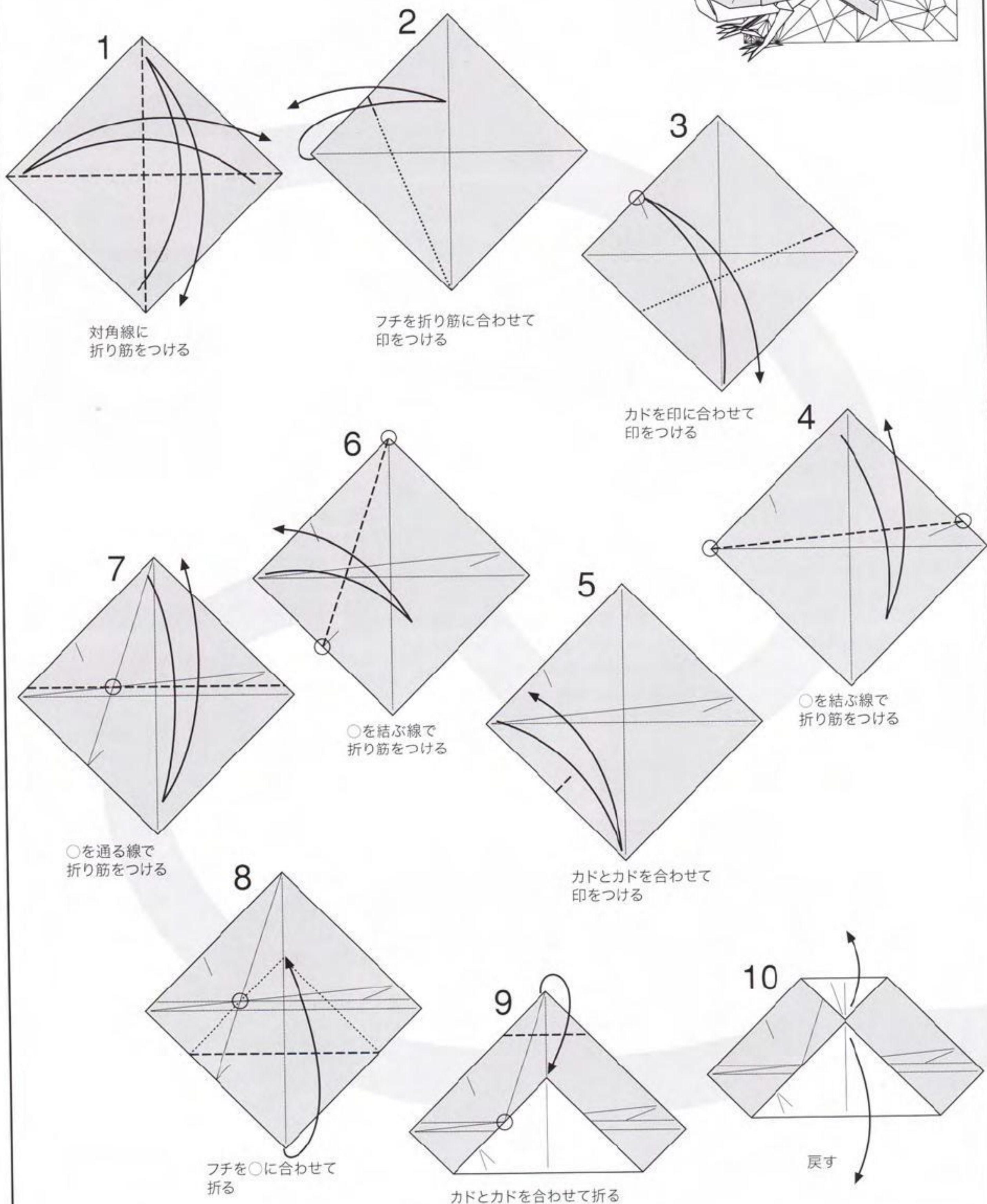
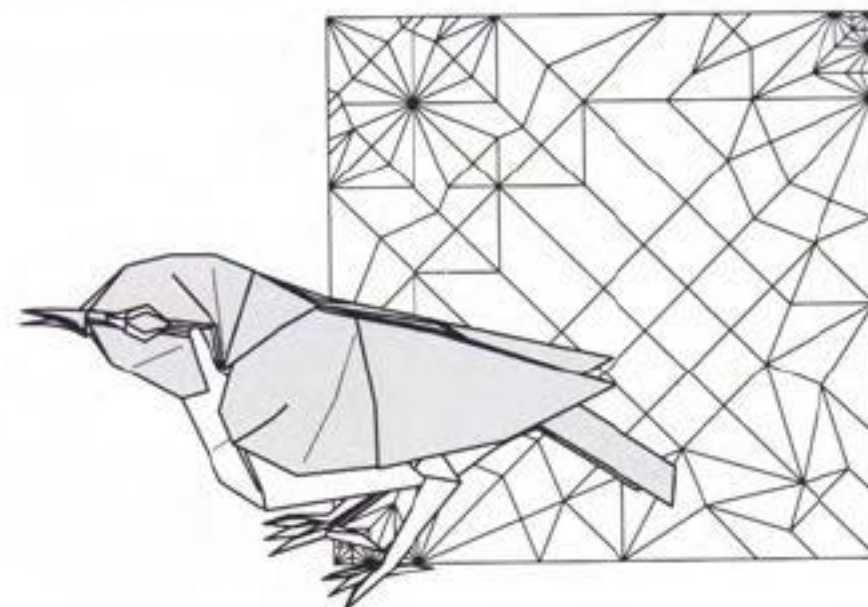
▲裏面表記の例

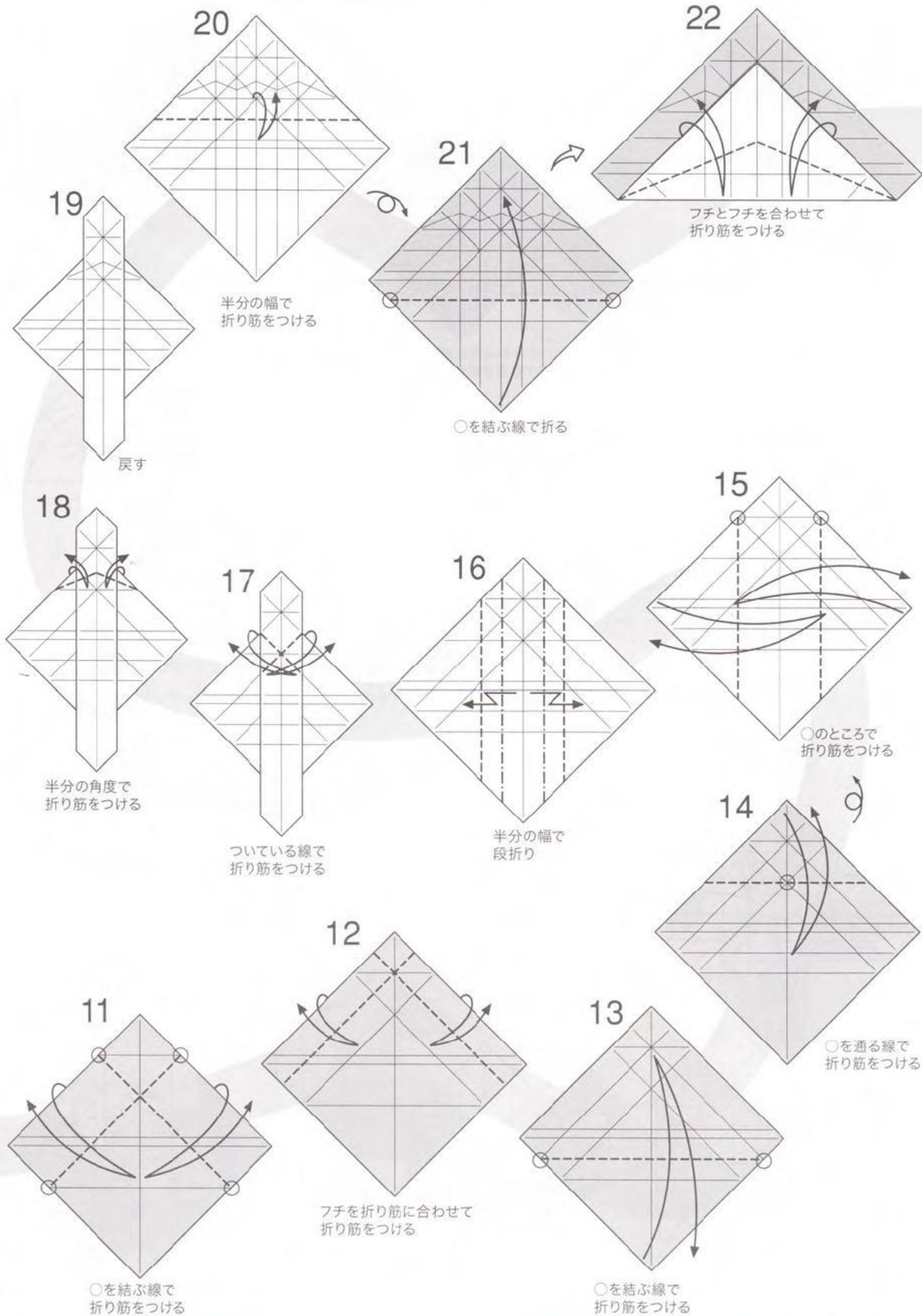
▲この黒枠が2.5×3.5インチ(約64×89mm)

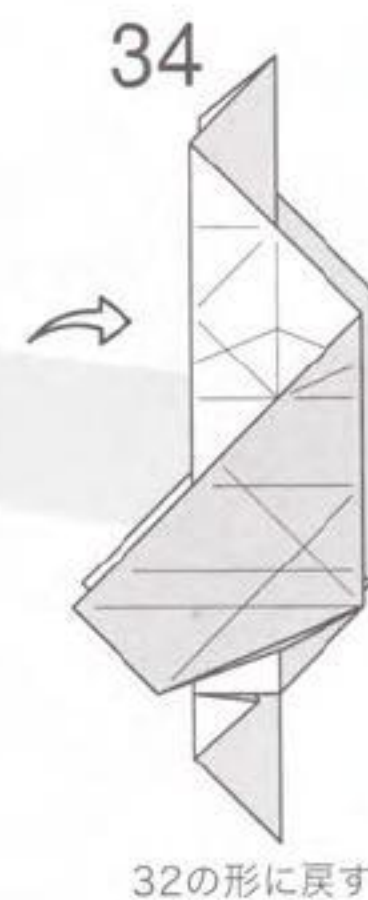
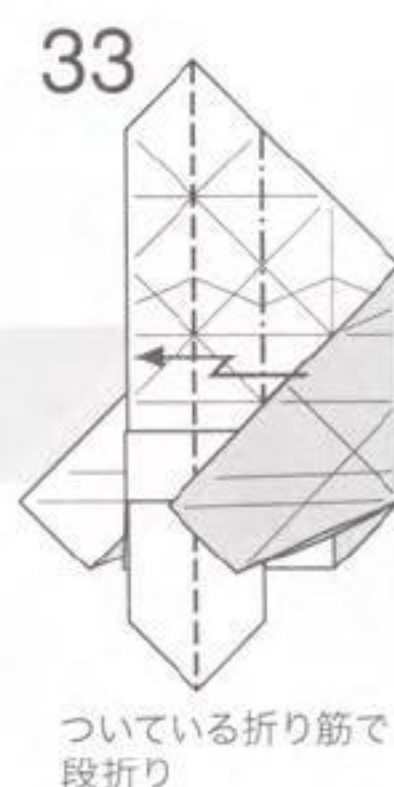
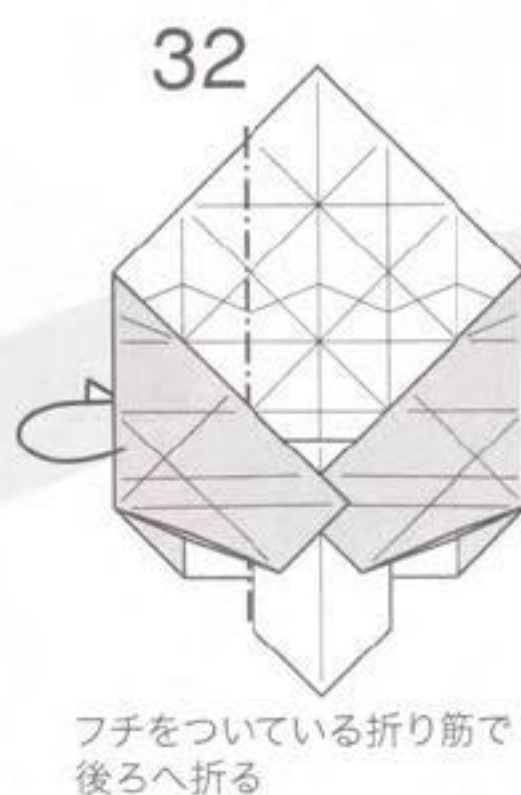
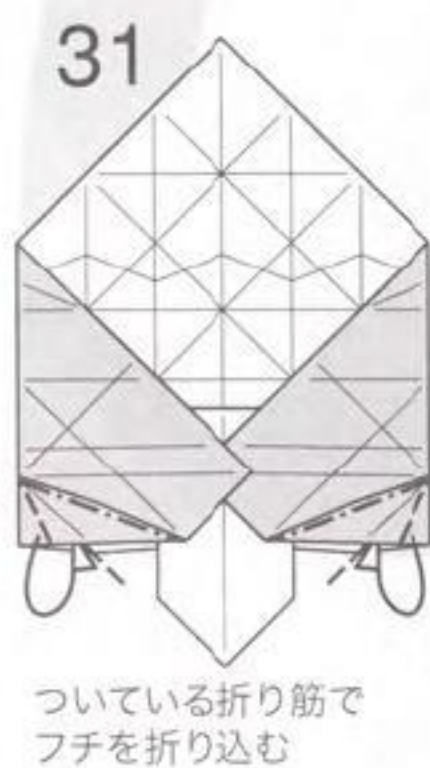
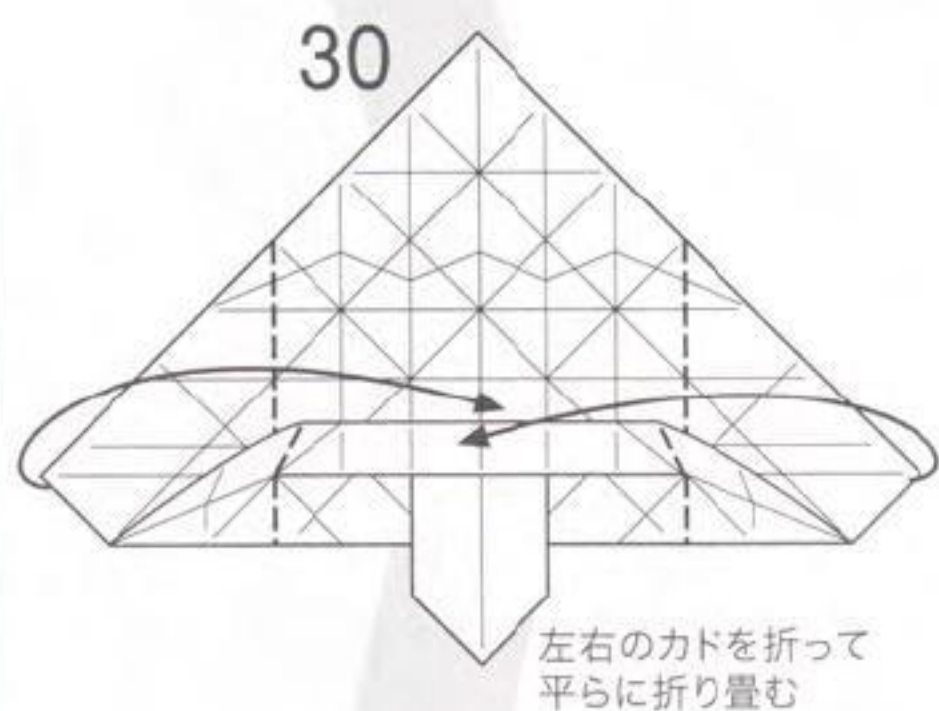
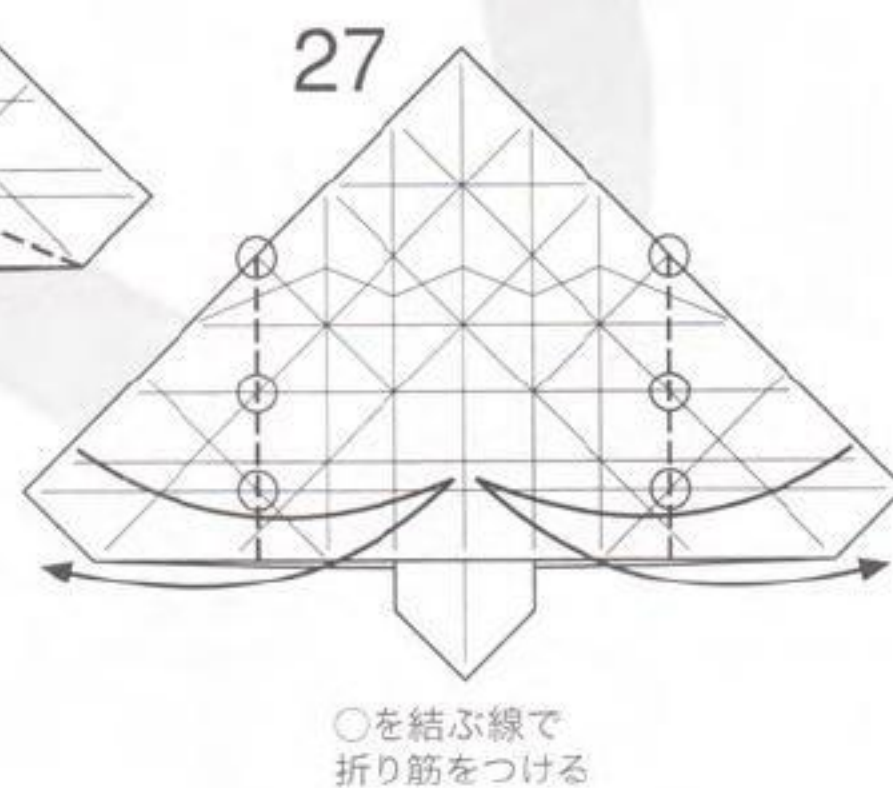
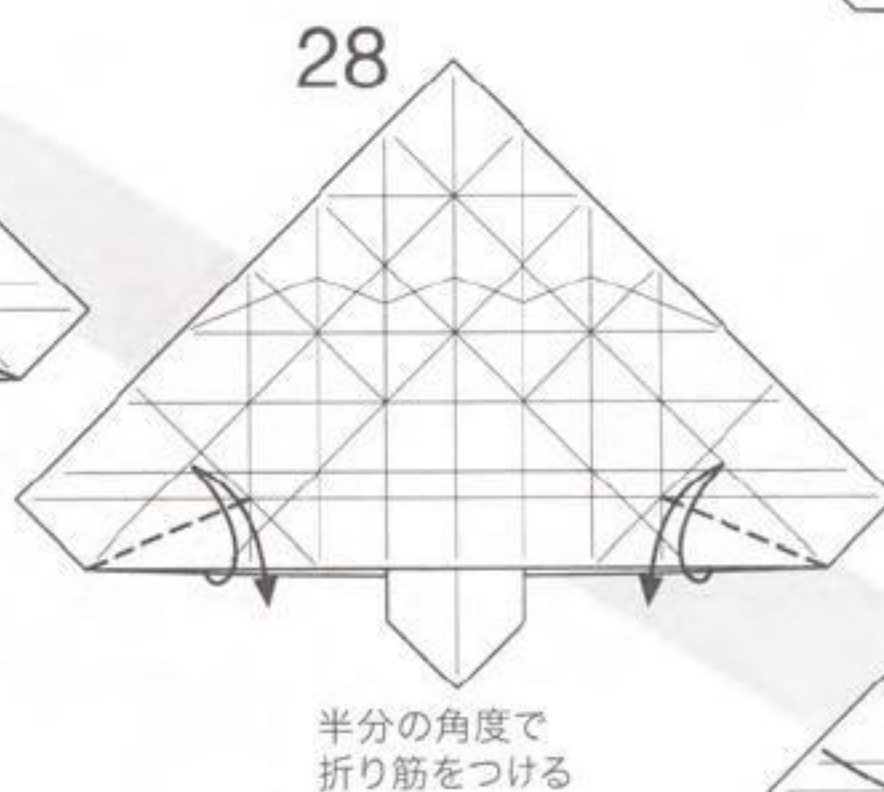
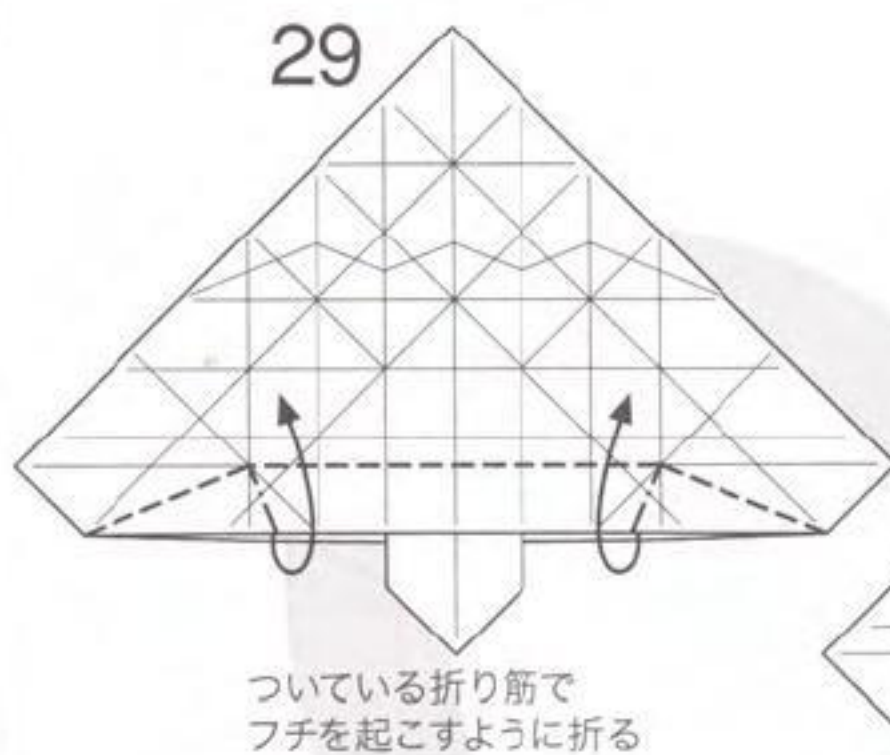
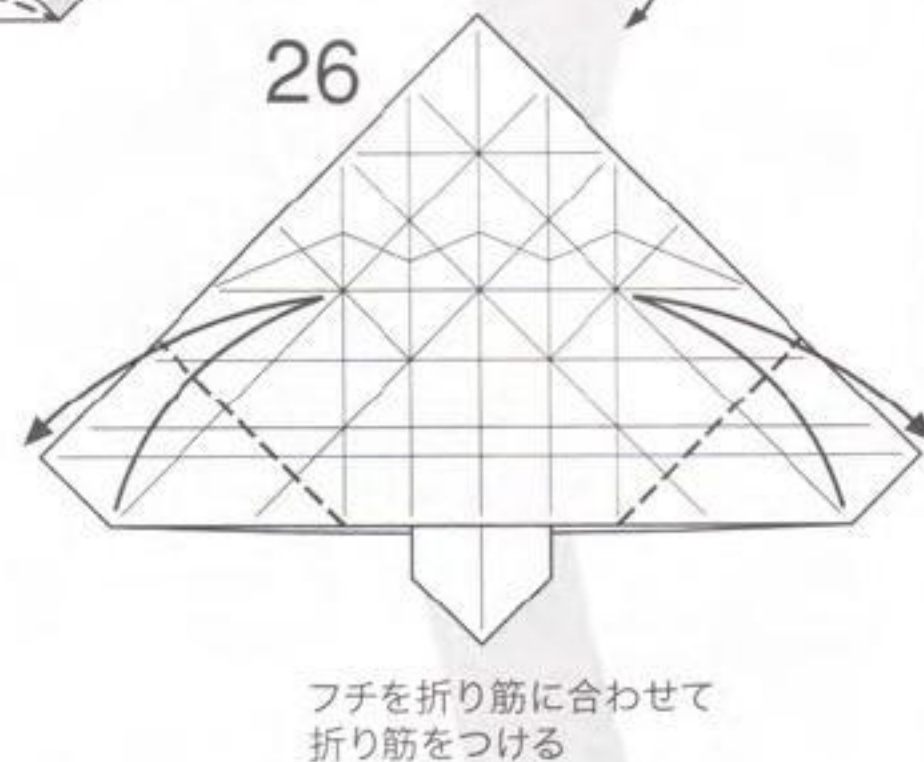
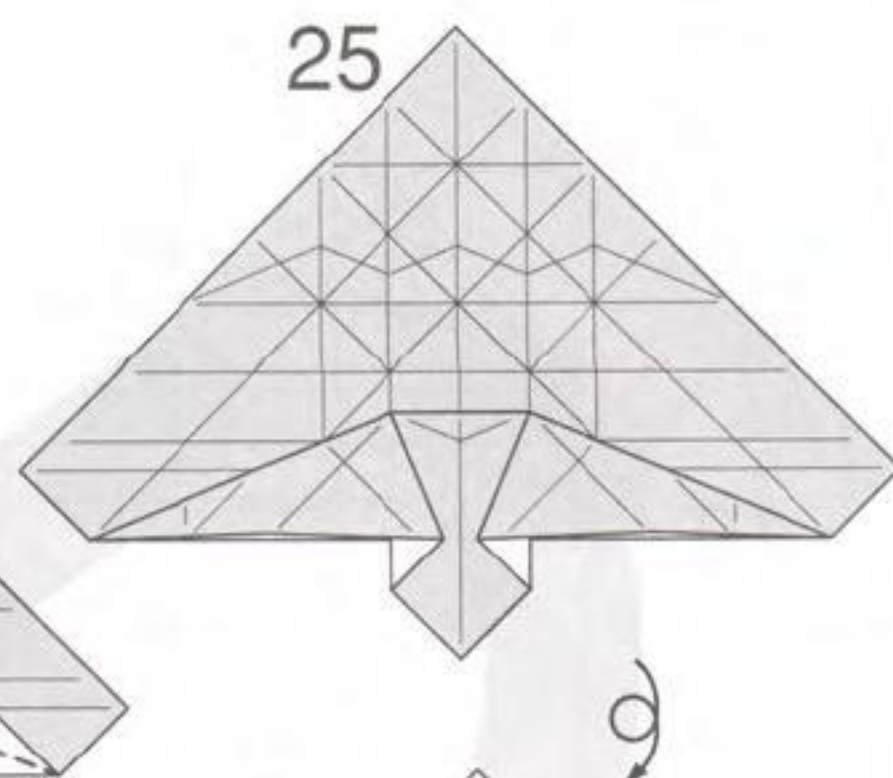
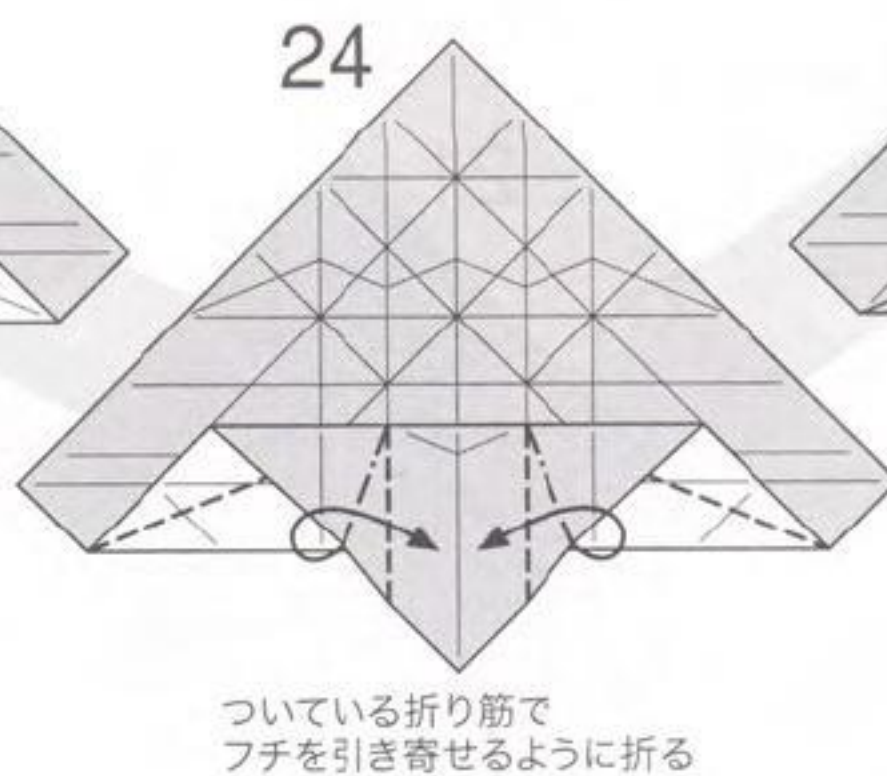
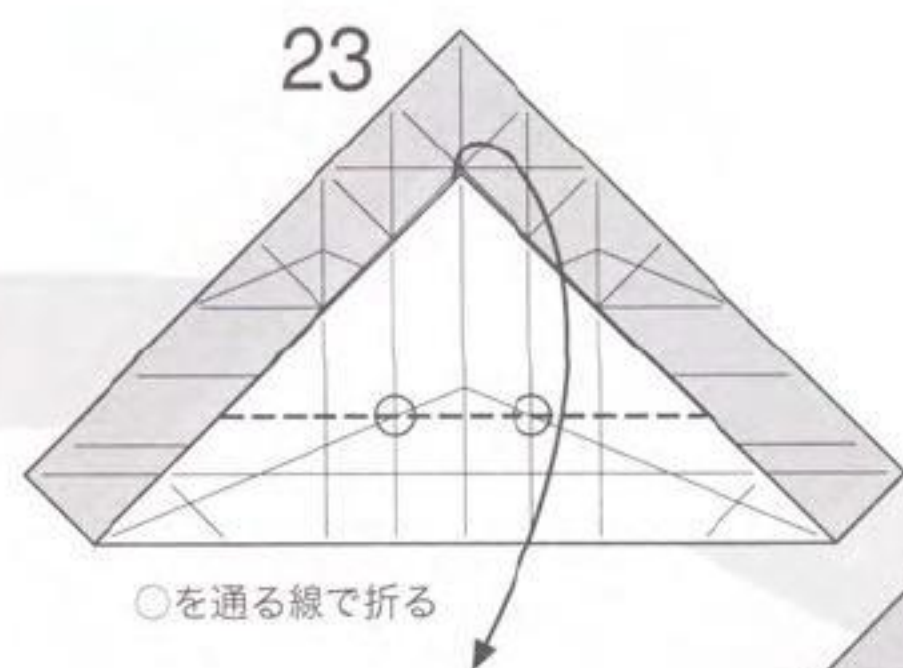
メジロ Japanese White-eye

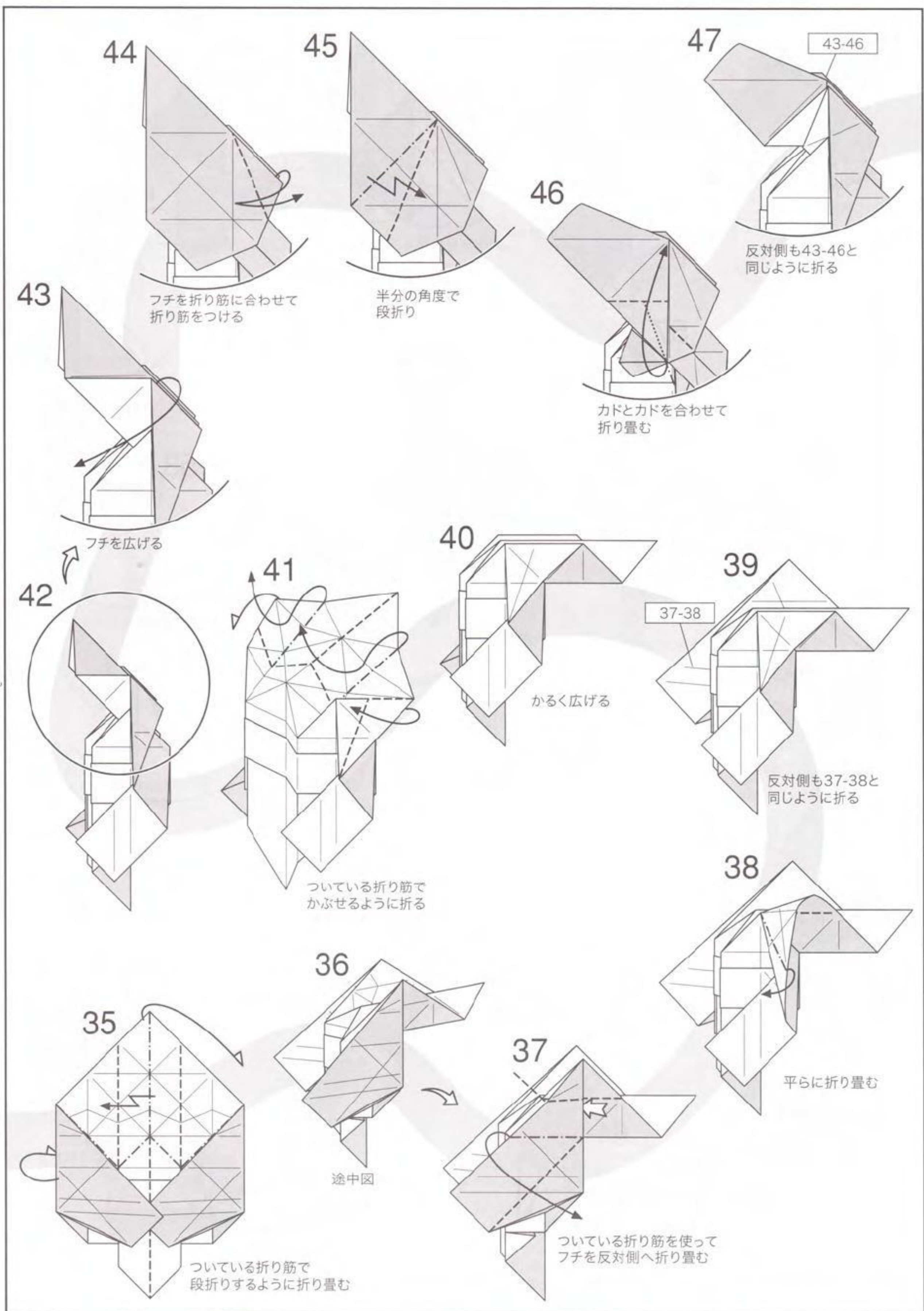
神谷哲史

Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

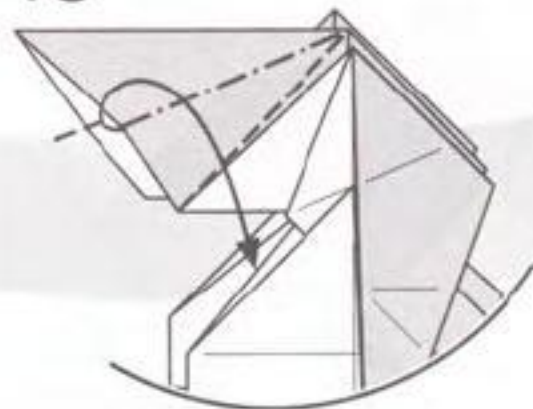






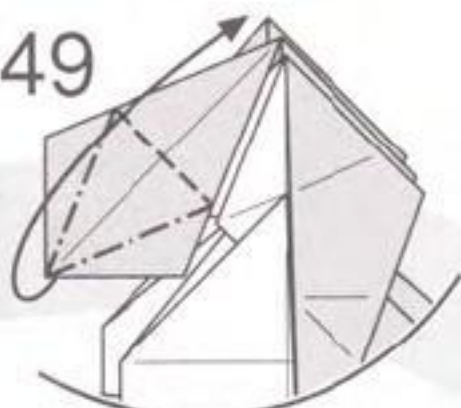


48



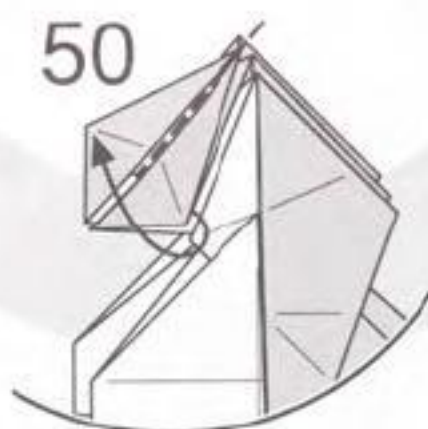
内側を広げて
つぶすように折る

49



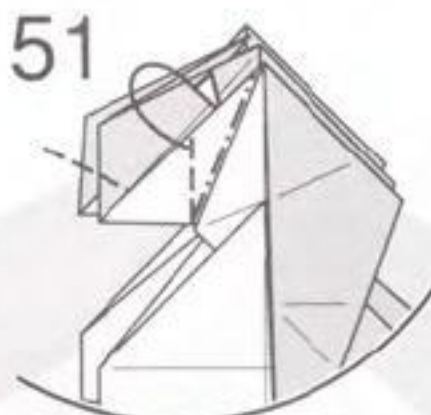
花弁折り

50



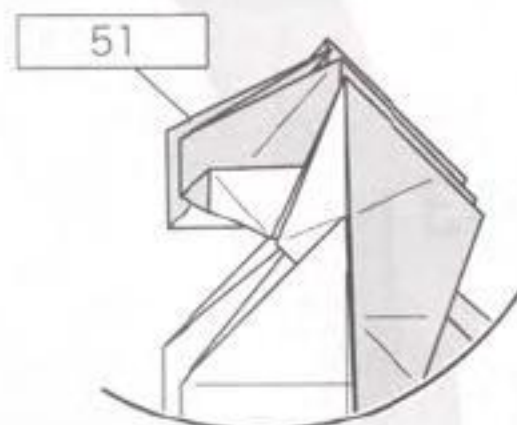
カドを反対側へ折る

51



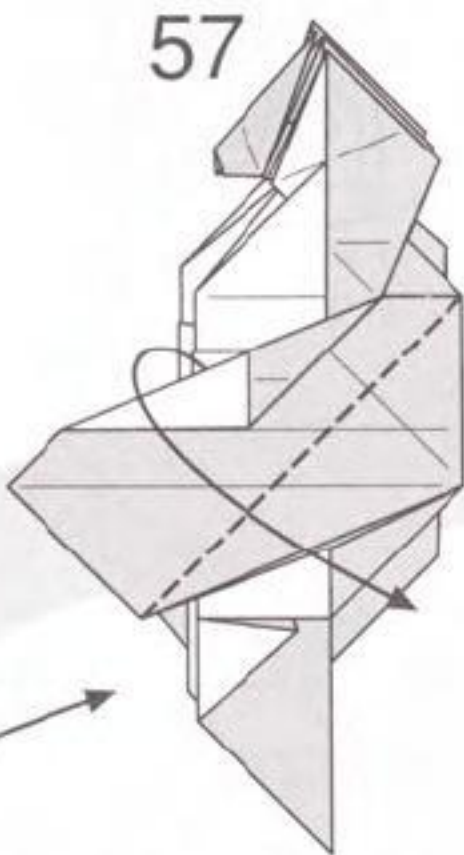
フチを後ろへ
折り込む

52



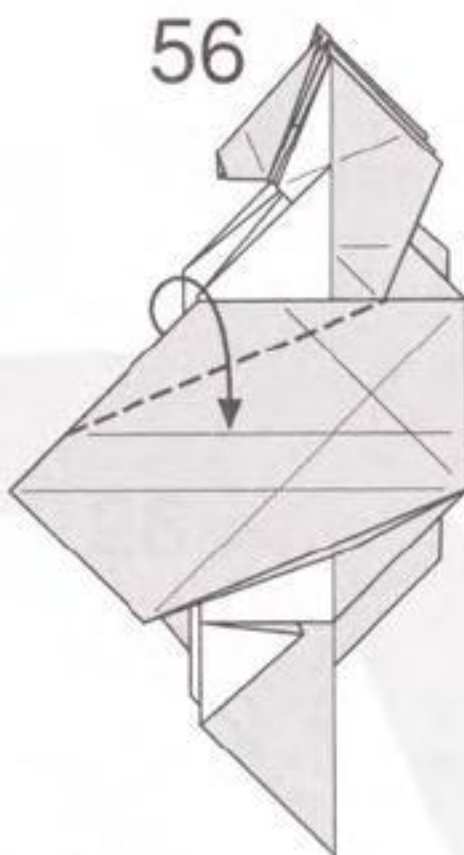
反対側も51と
同じように折る

57



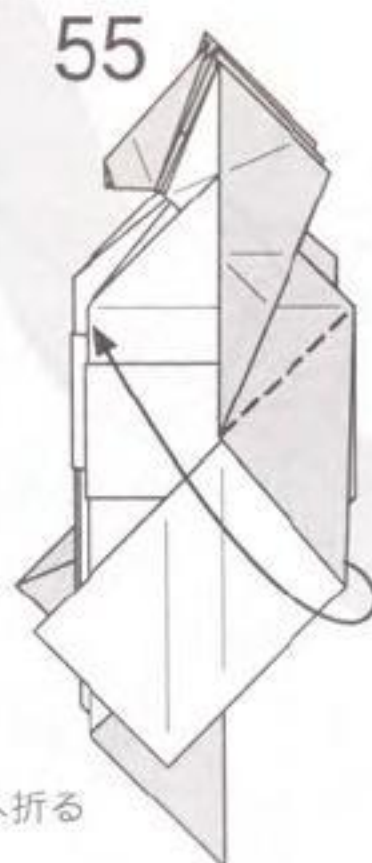
フチを反対側へ折る

56



フチを折り筋に
合わせて折る

55



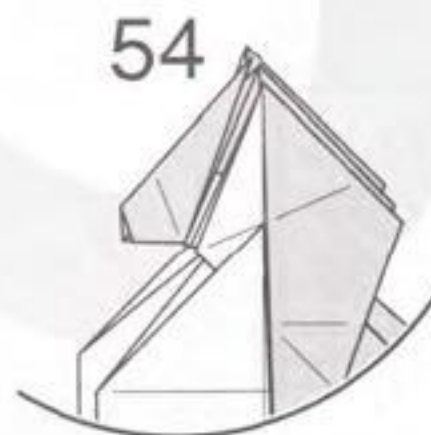
フチを反対側へ折る

53

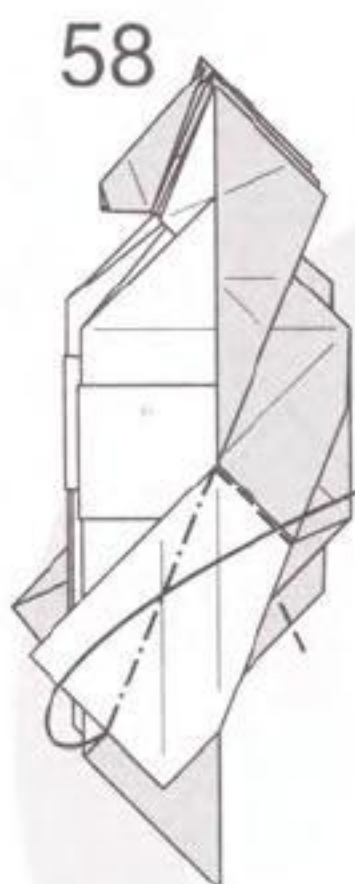


フチを反対側へ折る

54

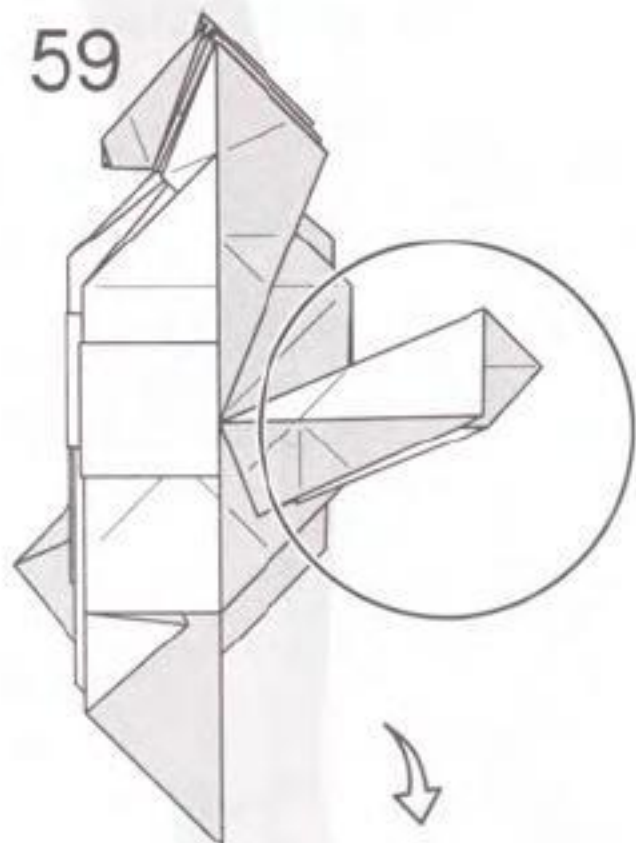


58

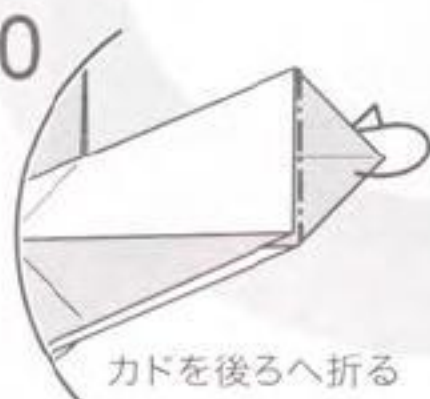


フチのところで
つまむように折り畳む

59

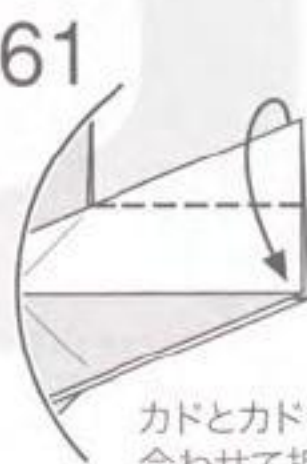


60



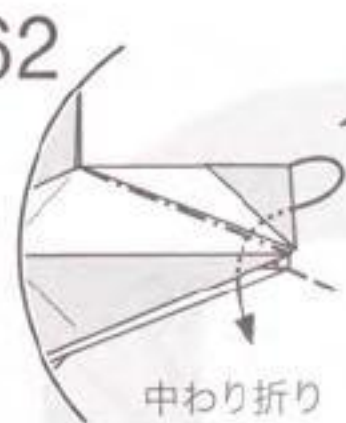
カドを後ろへ折る

61



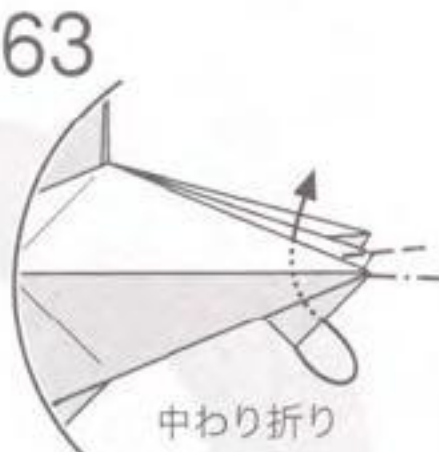
カドとカドを
合わせて折る

62



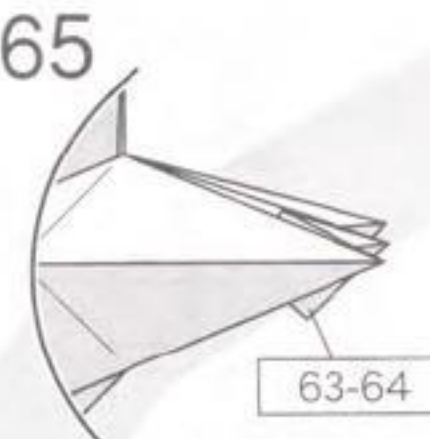
中わり折り

63



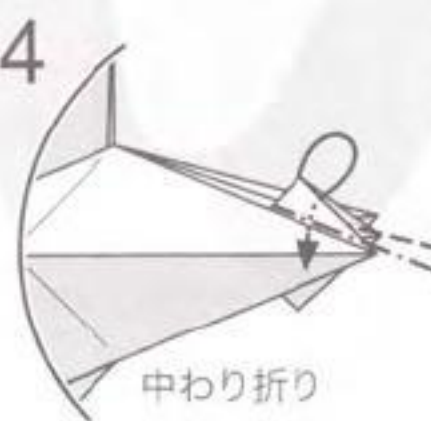
中わり折り

65



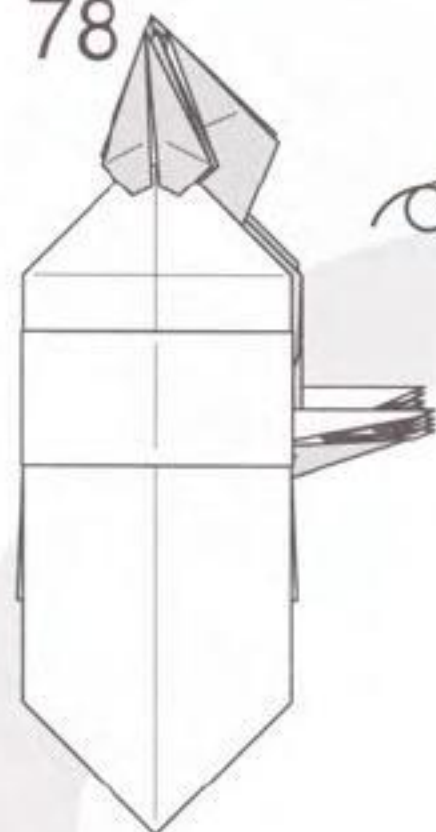
63-64と
同じように折る

64

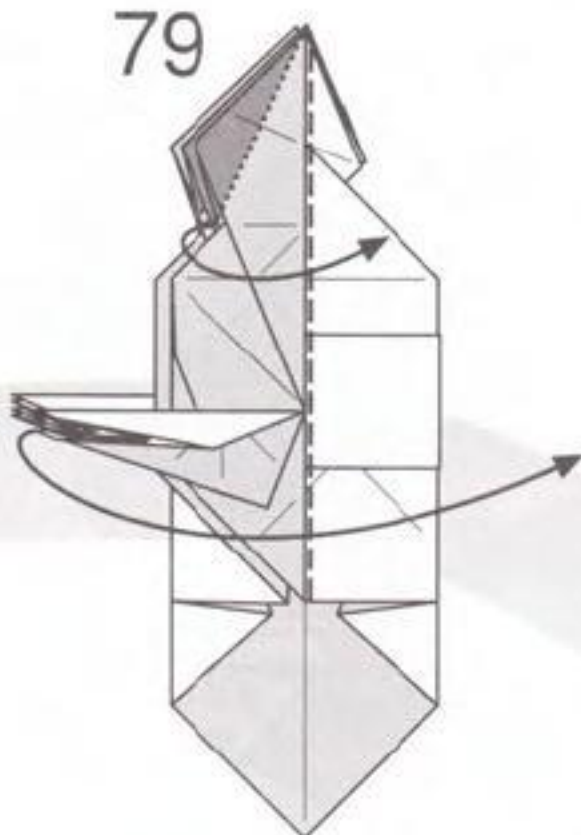


中わり折り

78

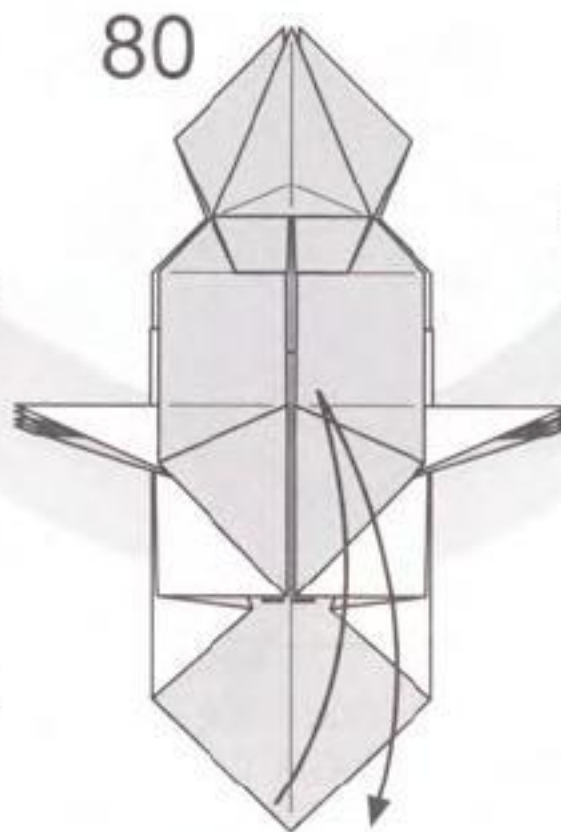


79



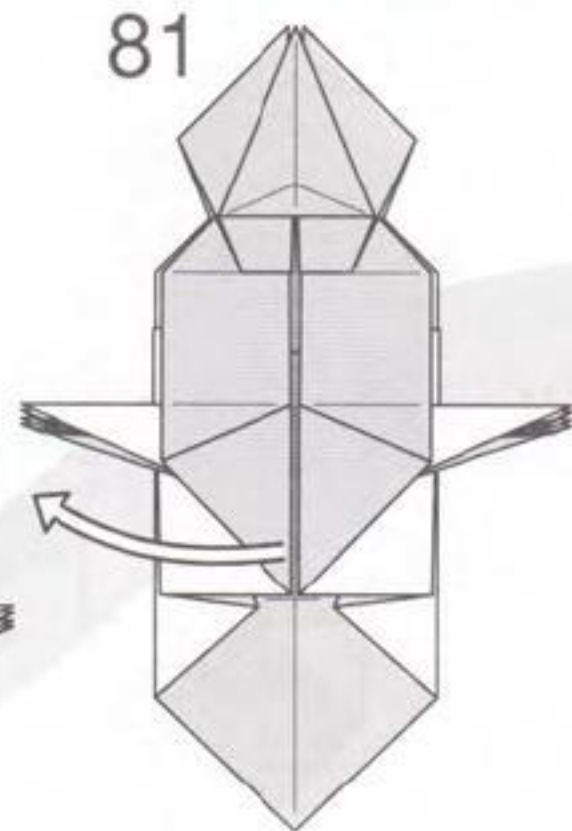
中心の隙間で反対側へ折って
上の部分の中心のカドを
広げてつぶすように折る

80



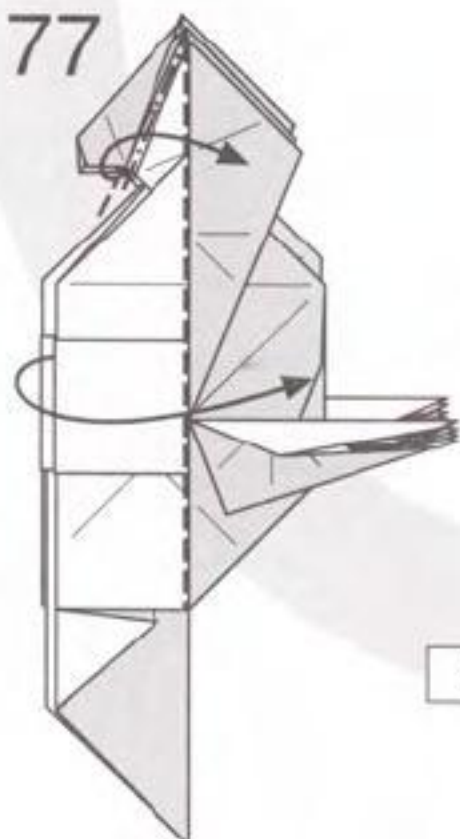
フチのところで
印をつける

81



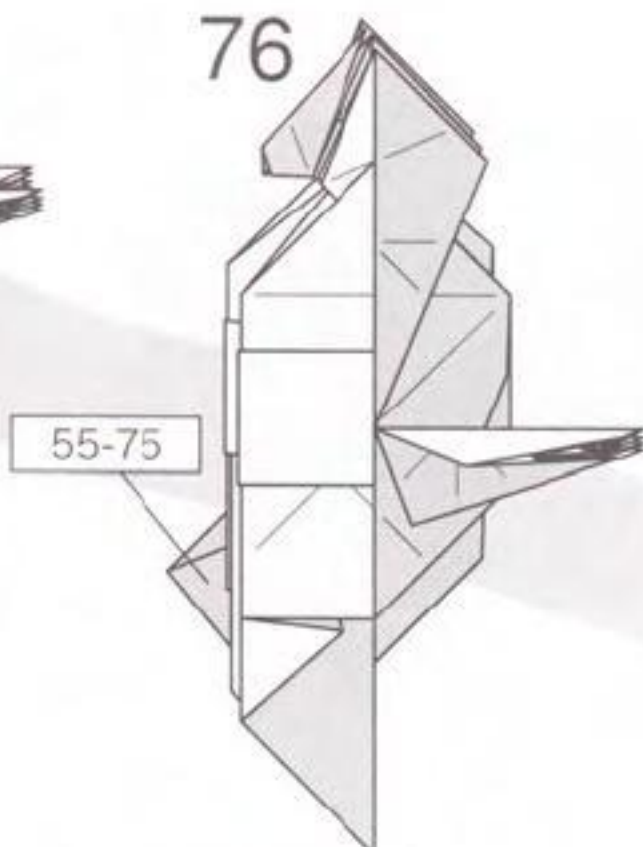
かるく広げる

77



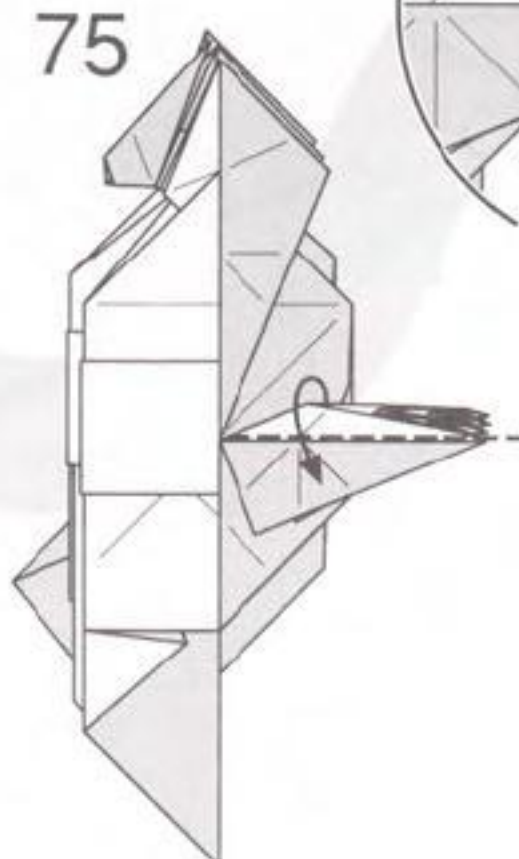
中心の隙間で
反対側へ折って
上の部分を広げて
つぶすように折る

76



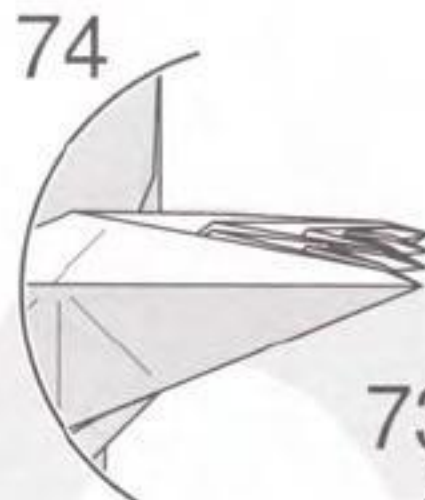
反対側も55-75と
同じように折る

75

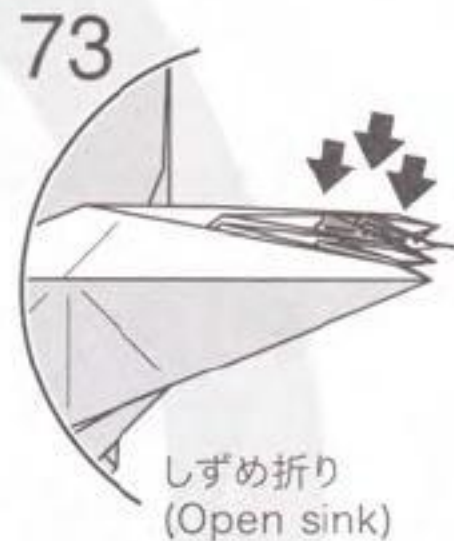


55-75

74

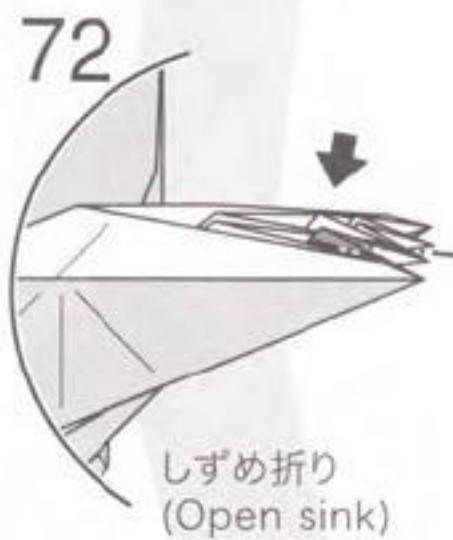


73



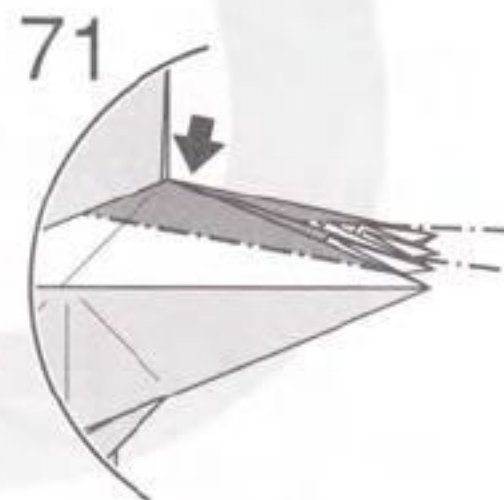
しずめ折り
(Open sink)

72



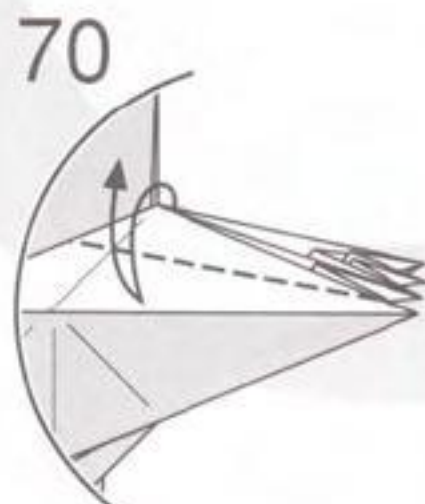
しずめ折り
(Open sink)

71



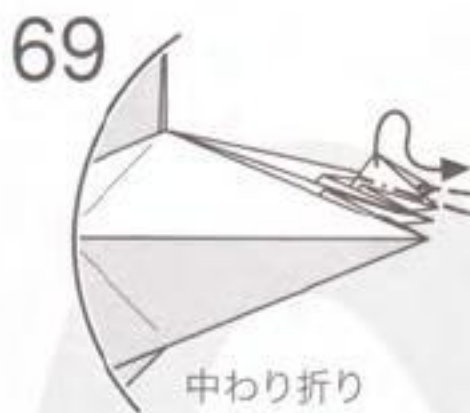
しずめ折り
(Open sink)

70



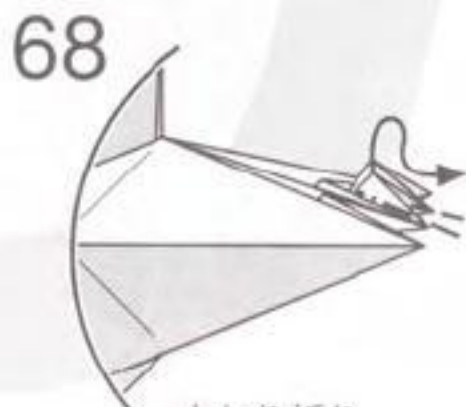
斜めに
折り筋をつける

69



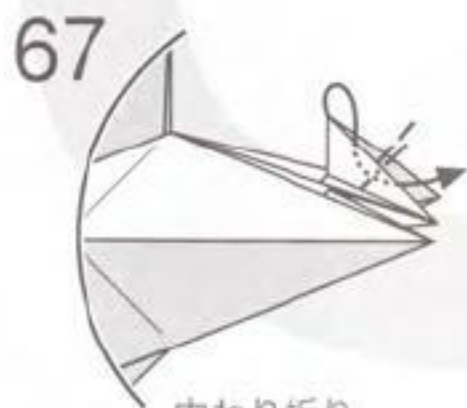
中わり折り

68



中わり折り

67

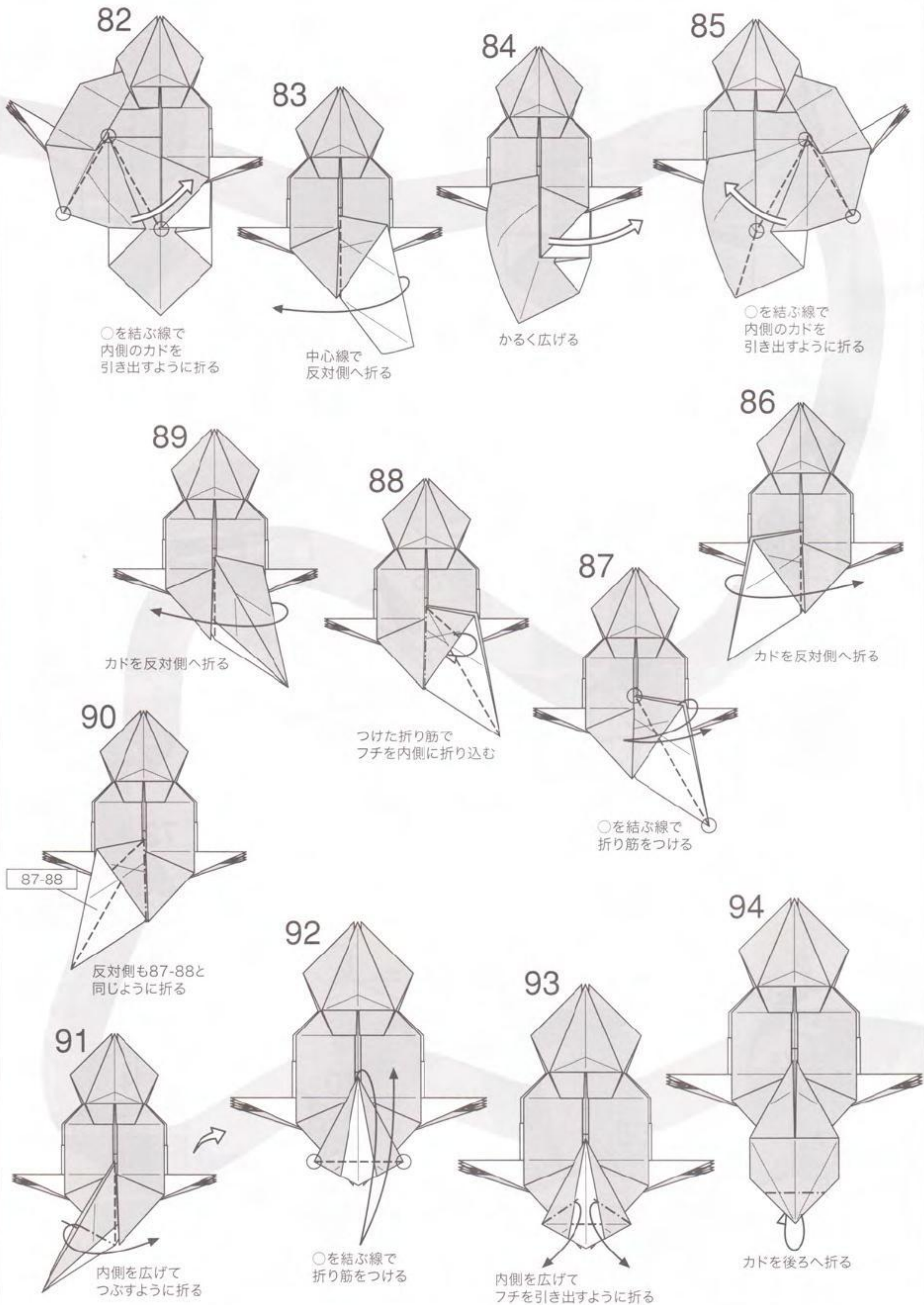


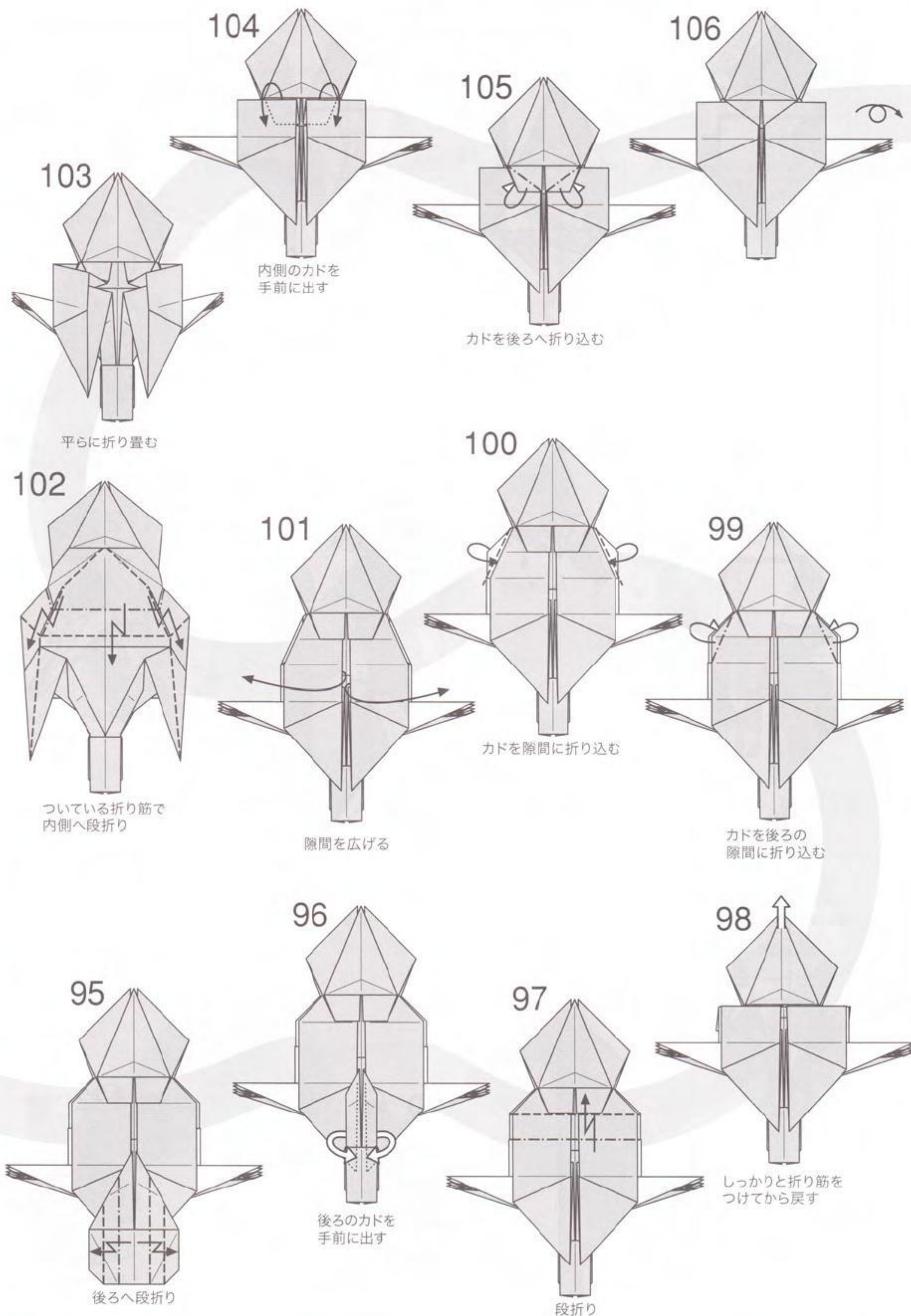
中わり折り

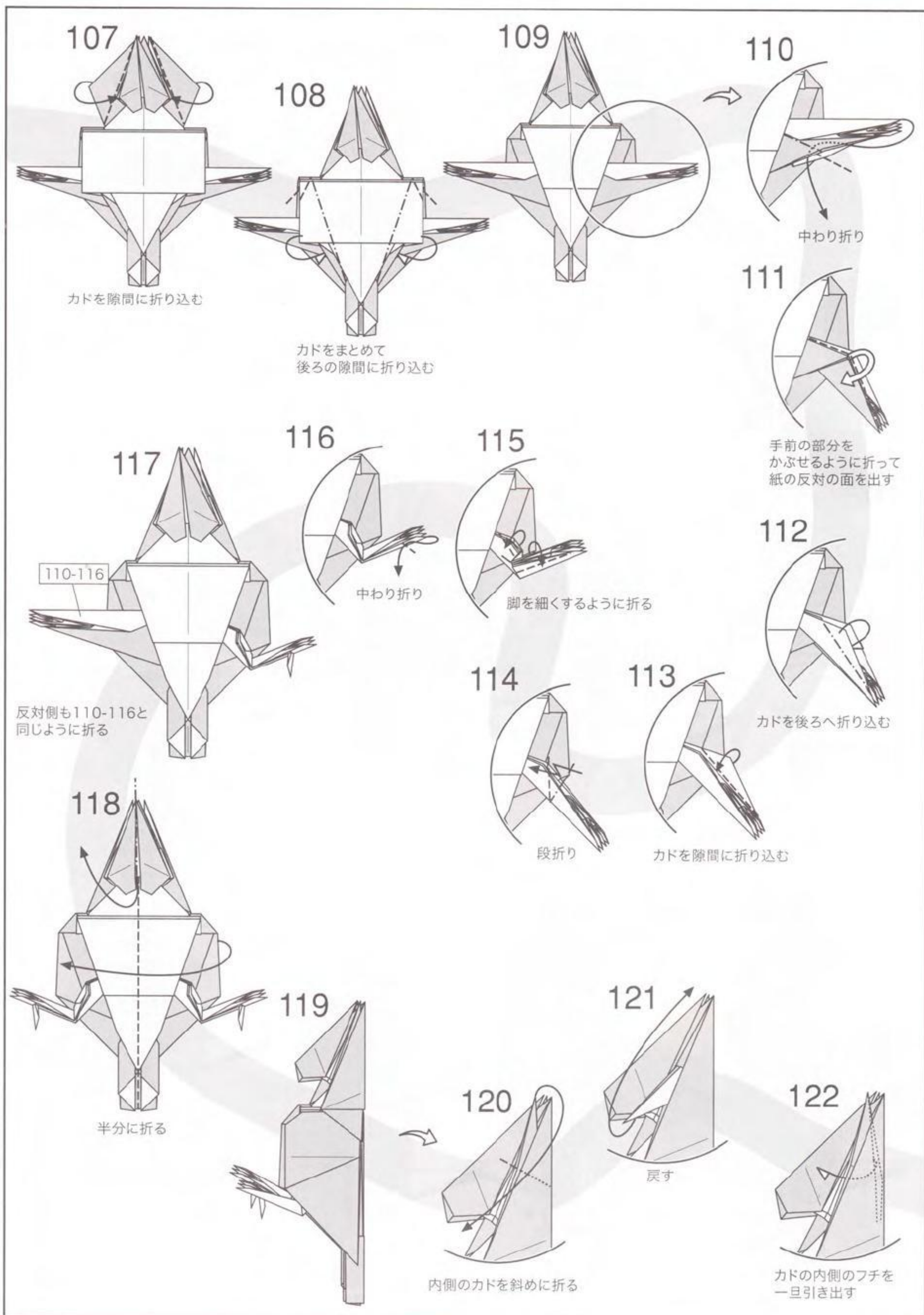
66

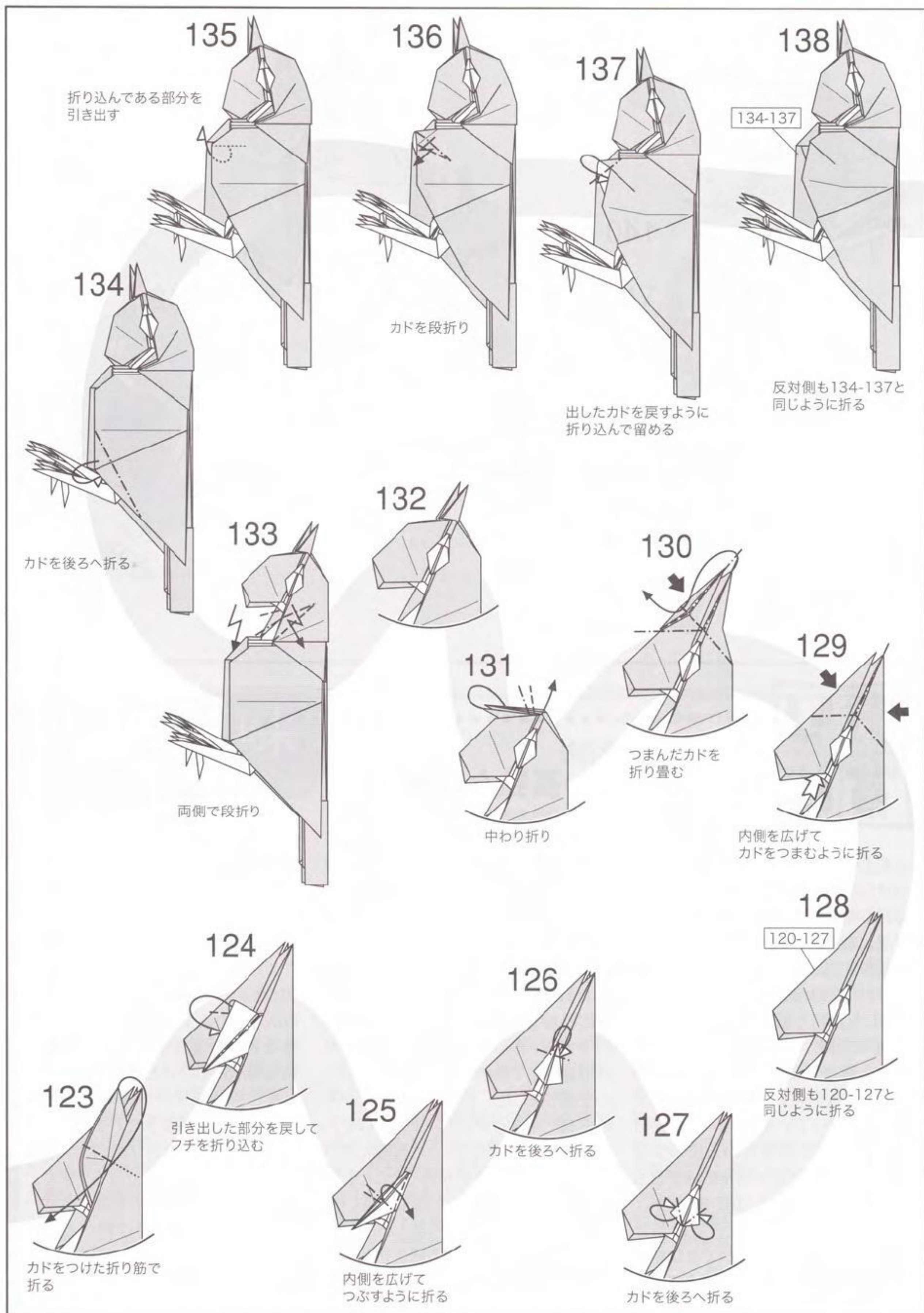


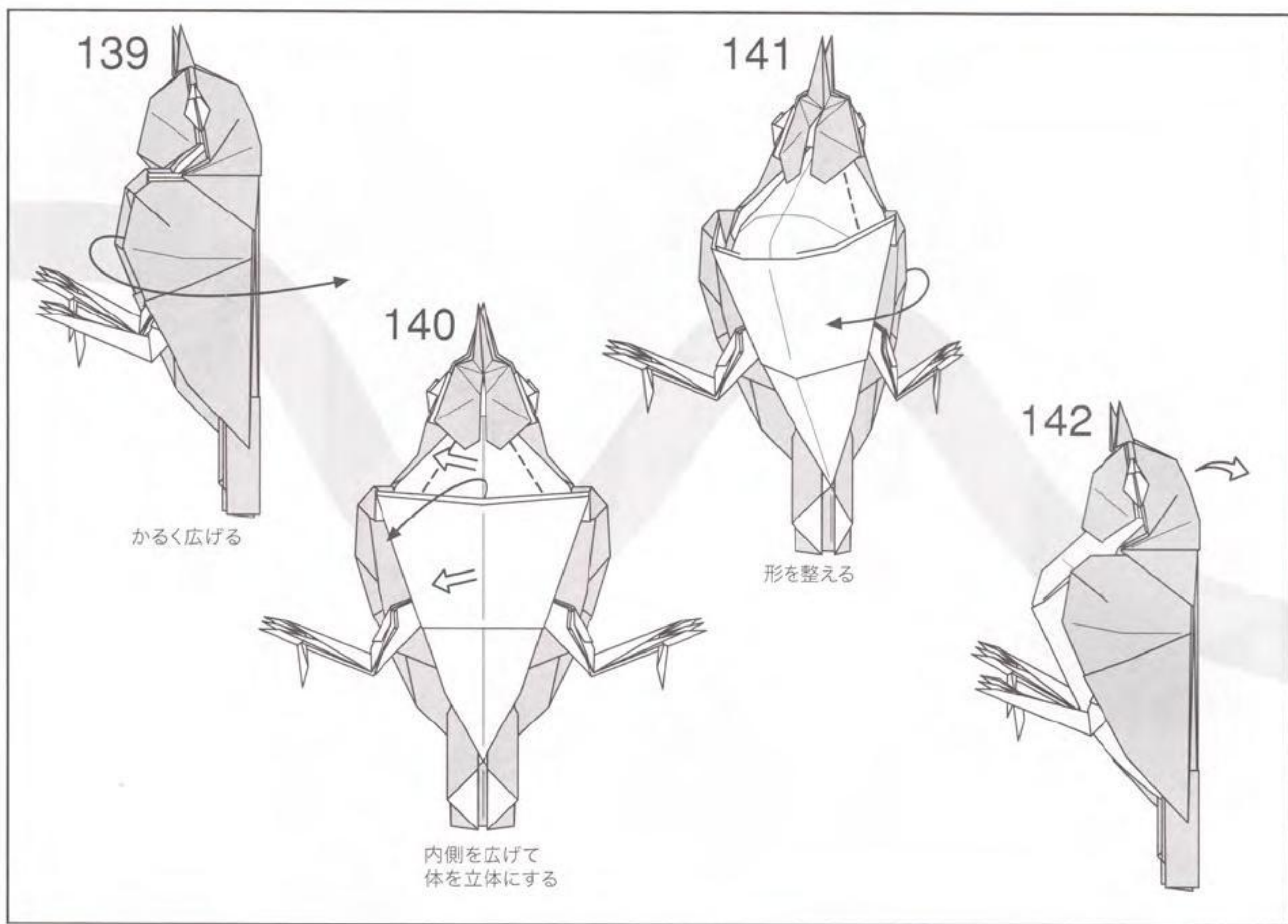
カドを広げる











おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

孤独な趣味？

Origami and Solitude?

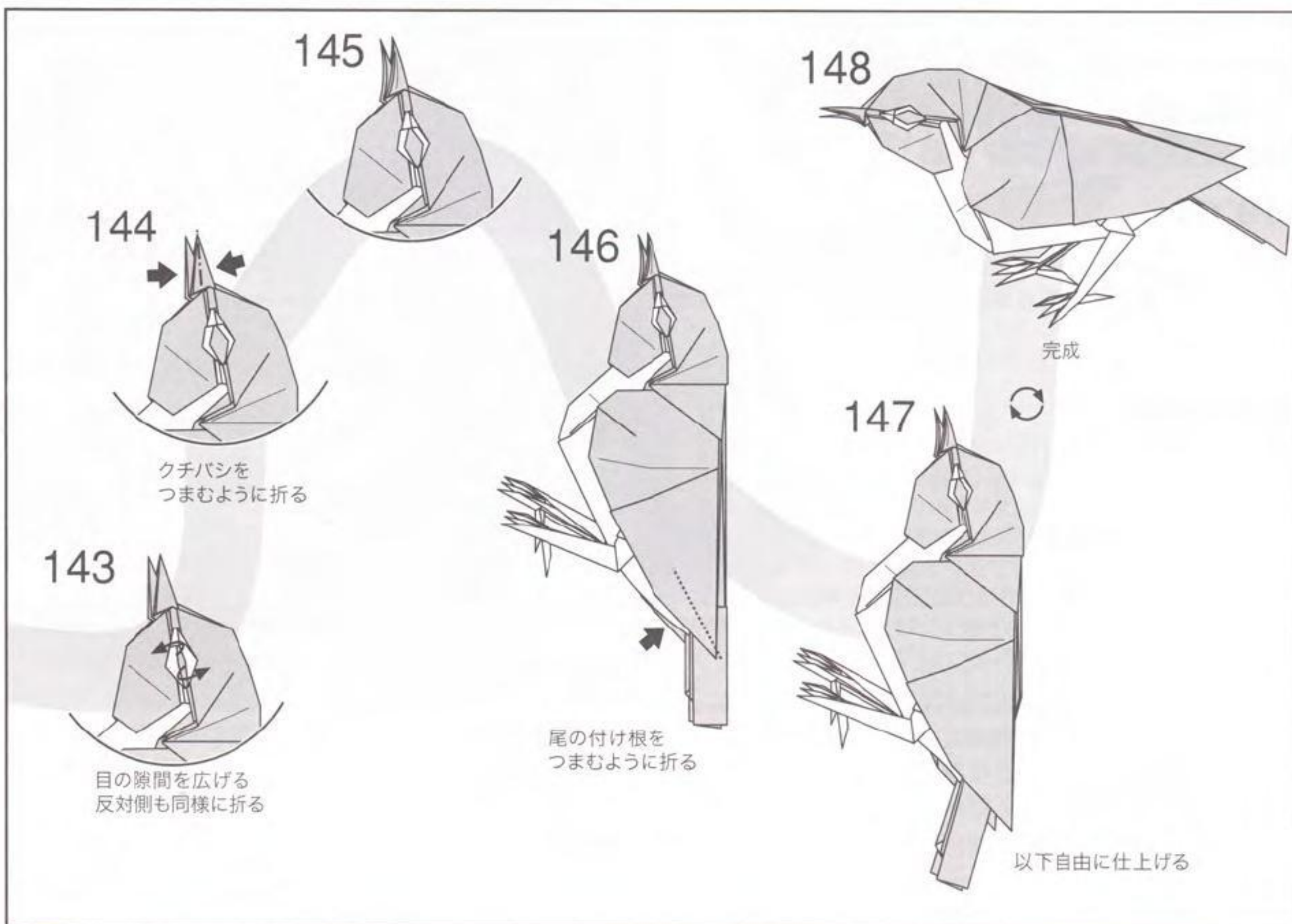
森澤碧人

Morisawa Aoto

高校生の頃にネットでたまたま見つけたある折り紙作家に憧れて毎日折り紙を折るようになり折り紙を好きになり嫌いになりを繰り返し今に至ります。今となっては折り紙が自分の中の大部分を占めるようになりました。折り紙という趣味は共通の趣味を持つ人を見つけるのがなかなか難儀のように思います。実際に自分も大学生になるまでは独りで折り紙を折っていました。もともと折り紙を趣味にしてる人の人口の少なさに加えて、未だに折り紙は子どもや女の子の遊びという印象が強く、男子高校生であった自分はなかなか他人に言い出すことができなかったため共通の趣味の友人などできる

はずがありませんでした。大学生になりSNSを使うようになって共通の趣味を持つ人がたくさんいることを知り、東京大学折り紙サークルOristにインカレとして加入してみんなで折り紙を折るようになって、例会やコンベンションに参加するようになって折り紙の話題で盛り上がったりして、自分の中だけで完結してた折り紙が広がっていくのを感じました。折り紙の楽しみかたの多様さを知りました。また、ほとんどの人が自分と同じように孤独に折り紙を折っていた時期があったことを知りました。今も折り紙が趣味と言い出せなかったり、知り合うきっかけが掴めずに独りで黙々と折り紙を折ってる人が沢山いるはずで、そんな人たち

の受け皿がもっと大きければいいのにと思いました。その受け皿をほんのすこしでも広げたいと考え、早稲田大学で折り紙サークルを新たに立ち上げました。サークル名はW.O.L.F.。Waseda Origami Lonely Foldersの頭文字を取りました。孤独な折り紙愛好家が集まって繋がる場所にしたいと考えて名付けました。折り紙サークルの立ち上げや運営に際して面倒ごとを抱えて嫌になることも多々ありましたが後悔はしていません。自分はもうすぐ引退しますが、自分の手を離れたサークルが後輩たちに受け継がれ、どのような広がり、あるいは縮小を見せるのか楽しみです。



折紙三昧 ⑦

Origami-Zanmai (This Origami and That)

先号の本コラムでも書かせていただきましたが、探偵団25年、コンベンションも20回を超え、JOASも新しい体制を模索しなければと日々議論を繰り返しています。その1つとして、8月14日の第16回日本折紙学会総会では、以下の議題について総会でご議論させていただきましたので補足を兼ねてご報告させていただきます。

議題) 日本折紙学会および6OSME組織委員会を母体にして、日本学術会議協力学術研究団体(学協会)の登録の可能性を検討したい。

理由) 日本折紙学会はその設立理念の1つとして「折り紙研究の発展を促進させること」を掲げており、理念実現の方法論の1つとして同団体への登録を目指すことは有用と考える。

おもな質疑応答)

・学協会とはどういうものか、概略を説

明してください。必要な条件はどんなもののでしょうか。

→学術研究の向上発達を図ることを主たる目的とし、研究をなりわいとする者が構成し、自主的に集まっていることなどが条件となります(詳しくは*)。日本折紙学会は、永年にわたる研究集会の主催、学術誌『折り紙の科学』の発刊など現状十分資格があると考えています。
・今までの探偵団(愛好家組織としての日本折紙学会)の仕組みはそのまま問題なく続けられますか？

→説明の仕方や組織の変更の必要はあるかもしれませんが。組織を分けて学術団体と普及団体が対等な関係で幾つかの共同事業をする形にするとか、普及のチャンネルを担当する部分組織になるのかなど。いずれにしても原理的には対応可能だと思っています。まず原案を作成しようと思います。

総会から

From the General Meeting

・スケジュールはどのように考えていますか？

→最速パターン(コンパクトな学術団体を立ち上げるような方法の場合)ではかなり早い時期、例えば今年度中に申請準備ができるかもしれません。現組織全てを組み換えるとなるともっと時間がかかると思います。検討を続けてゆきたいと思います。

決議) 日本学術会議協力学術研究団体への登録に向けたタスクチームを発足させ、具体的な課題や組織変更の原案等を作成する。タスクチームは現評議員や会員の大学研究者、6OSME委員から構成された数名のメンバーで立ち上げる。

*) 日本学術会議協力学術研究団体
<http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/>
以上

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge!

挑戦

第97回

乙女座

Virgo

鶴田芳理

Tsuruta Yoshimasa

Created: 2015/08

Paper Size: 54cm×54cm

Height: 22cm



この題材を折ろうと思ったきっかけは、以前から女性を折ってみようと思っていたことと、星座という複数モデルの作品群に憧れを抱いていたことにあります。元々この「乙女座」は、両脚のある裸体で創作をしていました。しかし完成形を見たときに、「乙女」のイメージに合っていないと感じました。そこで、より固い印象を与えるため、ドレスを着た本作のような状態になりました。右手には、神話に倣って麦穂を持たせています。

展開図は、見ての通り煩雑な操作のない対角蛇腹です。ただ、左右非対称の作品を左右対称の展開図で作っています。これは、私の技量の関係で、頭部とスカートの配置が固定された時点で決まっていた。展開図折りをする際は、角度のついた頭部周辺は22.5度線を入れた状態に留めておき、先に全体の蛇腹部分を折るとよいでしょう。作者は対角線の16等分にあたる線で折った後に、32等分および48等分になる折り筋をつけて沈めるという方法で折りました。その後に頭部周辺を沈めて、畳み終わりです。

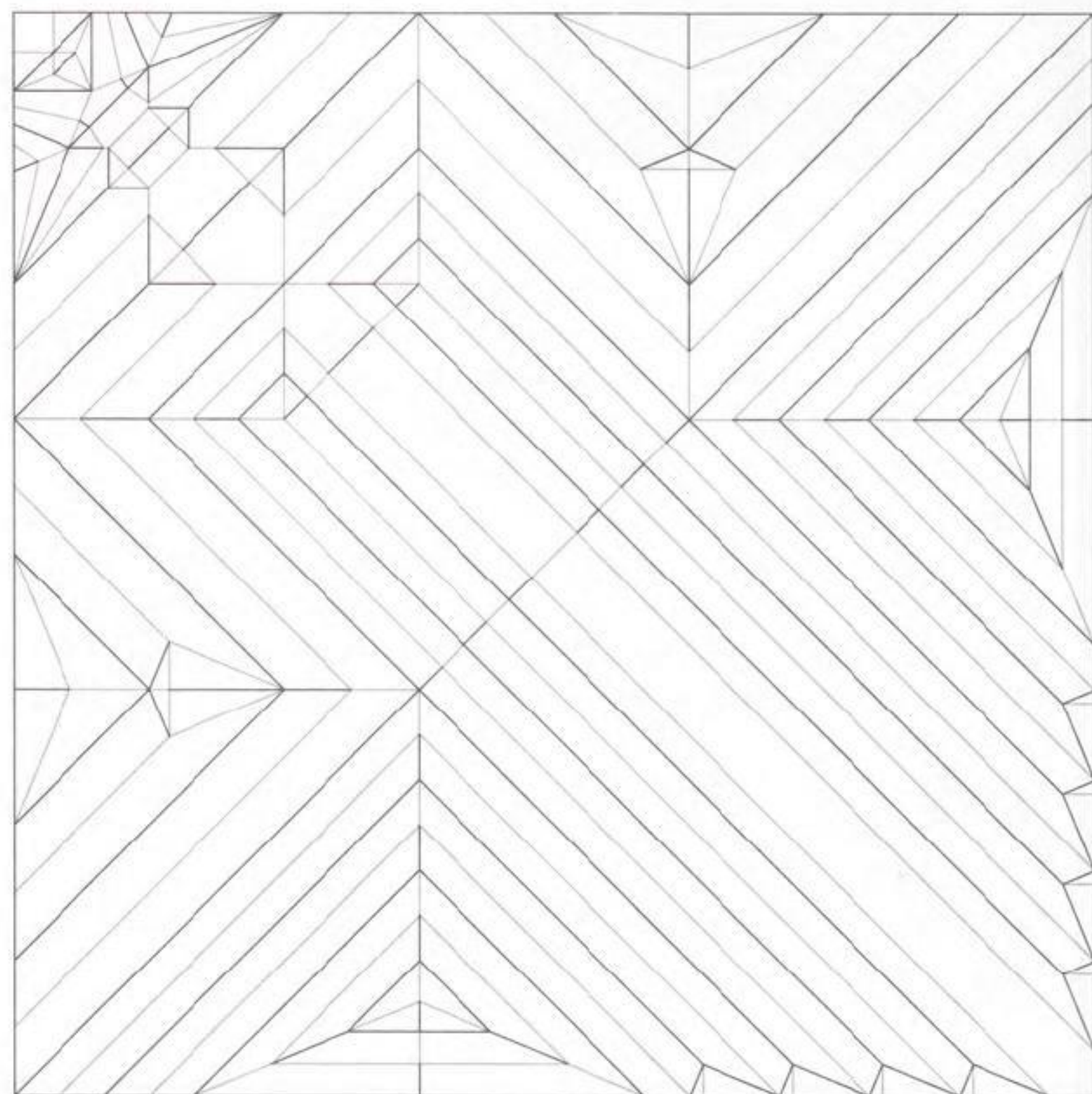
仕上げについて、作例を再現するための方法を大まかに書いておきます。頭部は髪の毛になる部分をインサイドアウトし、胸部は女性らしく丸みを付けます。スカートは、展開図で言う中心部分のヒダをずらして調整します。両翼はヒダをめぐって色を変

え、麦穂は後ろから胴体に沿って前に持ってきて、ヒダをずらして折ります。基本的にぐらい折りで、ヒダのずらしは各自の感覚で適当に行ってください。改変・アレンジ等はご自由に。特に麦穂に関しては大分強引な手法をとっているの、大きく変化させられるポイントだと思います。

紙の選択についてですが、35cmの普通紙でも折ることは可能です。し

かし、細部までの仕上げをすることや、スカートを広げる際に紙が破れるのを防ぐためにも、より大きめで強い紙を使うことをお勧めします。作例では揉み紙を選択し、仕上げの際には接着剤を使用しています。

ここまで乙女座を語っておいてなんですが、私は乙女座ではありません。さそり座です。



Rabbit Ear つまみおり Information

◆第19回折り紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)のシンポジウムとリンクし、金沢で行います。最新の研究成果にふれることができるこの集会は、どなたでも聴講ができます。詳細はウェブでお知らせします。また、発表者を公募しています。

◇日時:11月7日(土) ◇会場:石川県教育会館(金沢市)

◇参加資格:なし ◇発表者応募要項

10月30日までに、メールで送付してください。

氏名、連絡先、タイトル、概要(200文字まで)、予定時間(30分以下。交渉に応じます)

連絡先:webman@origami.gr.jp (担当 前川)

JAISTシンポジウム11月8日(日)-11月10日(火)

会場:北國新聞会館(金沢市) 三浦公亮氏(日本折紙学会会長)による講演など、折り紙サイエンスがテーマとなっており、折り紙作品の展示や関連書籍の販売も計画されています。

こちらもどなたでも聴講が可能です。

第2回国際大学折紙連盟(ICOA)作品展同時開催

JOAS後援イベントとして北陸地方で初めて開かれる折り紙展。どちらかというとコンプレックス系の作品が多いですが、来場者には楽しんでもらえるイベントとなるでしょう。

◆第10回折紙探偵団名古屋コンベンション参加者募集

東海地方のコンベンションとして、会場を昨年の静岡から今年は名古屋に移し、第10回名古屋コンベンションが開催されます。今回はスペシャルゲストとして、国内から著名な布施知子氏をお迎えします。皆さんもご存知のように国内外で活躍しているプロの折り紙作家で、つい最近もミュンヘンでドイツのハインツ・シュトロブル氏との作品展を成功させました。布施氏は地方コンベンションではあまり馴染みが無いので是非、この機会に皆様のご参加をお待ちしております。

●日程 11月21日(土)~22日(日)

●会場 名古屋芸術大学西キャンパス
名古屋鉄道【徳重・名古屋芸大】駅から西へ約1km、徒歩約15分

●折り紙教室(参加申し込み必要)

●お楽しみ懇親会(希望者) 21日(土)

●参加費

大人:会員・購読者4,500円

非会員、非購読者5,000円

学生:会員・購読者3,000円、

非会員、非購読者3,500円

親子割引のお子様1人につき会員・購読者2,000円、非会員・非購読者2,500円、親子割引適用のない小学生は「学生」扱いとなります。

1日のみの参加でも同額となります。

●親子割引について

親子割引は保護者が参加する場合、一緒に参加するお子様2名まで適用できます。

保護者は親子でなくてもかまいません。

保護者の方は、つきそいのみの場合でも参加料が必要です。

折紙用紙セットは1人分、名札と記念グッズは人数配布となります。

教室は全員受講できます。

●懇親会参加費

4,000円(予定)

中学生以下1,500円

●宿泊について

参加者皆様での確保をお願いいたします。

◀ミュンヘンで作品展示された作品の一部。この作品展については次号で詳しくお知らせいたします

●作品展示、コンテストについて

会場内にて参加者の皆様の作品展示ゾーンを設けます。また、東海友の会メンバーによる企画展示も行なう予定です。あわせて、創作折紙(ご自身の創作作品)コンテストを実施いたします。

コンベンション参加者の人気投票により最優秀賞1名優秀賞2名を決定し、賞品を贈呈させていただきますので、多数の応募をお待ちしています。いずれも事前申し込みは不要ですので、皆様のご自慢の作品をぜひご持参ください。

創作折紙コンテストには出品しない作品も展示されます。

●第3回国際大学折紙連盟作品展開催

東京の探偵団コンベンションに於いて好評であった現役大学生による折り紙作品展が名古屋コンベンションの会場でも展示されます。昨今の大学折り紙サークルの活動に共鳴して継続的な活動を支援することを目的に立ち上げられた国際大学折紙連盟。その3回目の作品展となります。

●折り紙講師、日本折紙学会折紙指導員受験者の募集

○名古屋コンベンションで、講師を担当していただける方を募集します。

ぜひこの機会に講師として参加してみませんか。

○あわせて、日本折紙学会折紙指導員制度に基づく折紙指導員試験も行ないますので、資格取得ご希望の方はこの機会にぜひお申し込みください。



▲スペシャルゲストの布施知子氏



◆折紙探偵団コンベンション招待作家レポート

ジャン・ディン
シュウキ・カトウ 翻訳：立石浩一

今回の訪問は、2004年のJOAS10周年以来、2回目となります。今回吉野基金でご招待受けましたこと大変光栄に思います。久しぶりに日本の友人の皆様にお会いできるのも嬉しく思いました。

参加者の方々の展示ももちろんですが、国際大学折紙連盟の展示は大変興味深いものでした。自分の講習の準備に追われ、講習を受けることが出来なかったことだけが悔やまれます。講習で参加者の皆さんに私の作品を折っていただいたのは大変楽しい時間でした。基準がはっきりしない立体作品を作ることを皆さんが楽しんでいただけたことを嬉しく思います。ほとんどの参加者の皆さんはウェットフォールディングの経験がなく、完成品も満足に行くものにならなかったかもしれませんが、それは私の講習のせい、皆さんあのも何度も試してくださいっと思ったものと思っています。

コンベンションの次の月曜日、山口さんに連れられ、日光東照宮へ行ってきました。雨が降っていましたが、それはそれで楽しいもの。ノグチさんの運転での旅、皆で雨音とゴキゲンな音楽を聴いていました。

次に日本を訪れるときはもっと長く

滞在しようと思います。おりがみはうすの皆さん、ジェイソン・クーさん、マルシオ・ノグチさん、伊藤晴美さん、川村みゆきさんに感謝致します。羽鳥公士郎さん、立石浩一さんには私のスピーチ及び講習の通訳をしていただきありがとうございました。コンベンションで会った皆さんもありがとうございました。またお会いしましょう。1枚の紙でこれだけの人がつながるというのは何という驚きなのでしょう！

ジャン・ディン

This is my second time to attend JOAS convention (the first one is back in 2004 for JOAS's 10 year anniversary). It is an honor to be invited as one of the special guests this year and it was very nice to see old and new friends in Tokyo.

Besides the wonderful exhibition by the attendees, the exhibition of works by university students around the world is also very interesting. Too busy to prepare for my classes, I regret that I could not take any classes from the model menu that I like to learn. But I really enjoy folding with people in my classes, and I am glad that most people like to try folding 3d and folding without reference points. Most of people in my classes have not tried wet folding before and did not have a nice model to keep (for that, I am sorry, it is always messy in my

class) but I hope that they keep practicing.

After the convention, on Monday, some of us went on the trip to the beautiful Nikkō Tōshō-gū, thanks to Mr. Yamaguchi. A rainy day, but has its own charm. In the car with Marcio the driver and others, listen to the rain drop and some fun (and some crazy music!

Next time, I will make sure I plan a longer trip to see more of Japan. I like to thank the whole Origami House staff, Jason Ku, Marcio Noguchi, Itoh Harumi, Kawamura Miyuki as well as Hatori Koshiro and Tateishi Koichi who helped to translate my presentation and classes. And thank you to all old and new friends at the convention. I sure hope to see many of you again in the future. It is always amazing to see that we are connected by a piece of paper!

Giang Dinh

2月にマルシオ・ノグチさんよりJOASから第21回折紙探偵団コンベンションに招待されているとうかがいました。12歳からコンプレックス折り紙を折ってきましたが、アメリカはモンタナ州のカリスベルという田舎の小都市出身の私は折り紙のコンベンションに参加したことがありませんでしたのでまたとない機会であると思いました。コンベンションまで6ヶ月の期間がまだありましたので、すで

◆World Origami Daysご案内

WOD(World Origami Days)とは、10月24日～11月11日までの期間に、「世界中の多くの人々にもっと折り紙を知ってもらおう」という目的で、その期間中の折り紙活動情報を募集し、共有する活動です。10月24日は、OrigamiUSAの前身である「The Friends of the Origami Center of America」の創設者であり、折り紙の伝道者であった、リリアン・オッペンハイマー氏の誕生日で、11月11日は日本折紙協会が定めた折り紙の日です。OrigamiUSAとJOASでは、このWOD活動をより大きく広げるため2011年から連携して進めています。

今年も例年通り来年の干支「申」のエキジビションを、オンラインとリアル(おりがみはうす)で開催。干支展は創作者本人の参加に限りますが、創作をしない愛好家の方にも気軽に参加できる「私のWOD報告」という企画もあります。

<活動内容>

1)私のWOD報告

WOD期間中に皆さんが折った折り紙作品を専用フォーム(www.origamihouse.jp/wod2015/Application.htmlよりダウンロード)をプリントし、その上に作品を置いて写真に撮り、FacebookやTwitter、ブログにアップしてください(写真参照)。折る作品も自由、参加も個人・小さなサークルどんな単位でも、また何度でも結構です。

2)折り紙イベントリスト

WOD期間の世界の折り紙イベント情報を、機関誌・ウェブページで募集し、ウェブ上にイベントリストを掲載します。情報募集期間は9/25～WOD最終日まで。イベントリストは順次更新します。

3)折り紙テーマ展

・テーマ展1:干支折り紙「申」ウェブ&リアル展示

投稿者本人の創作のみとしますが、新作でなくてもかまいません。

・テーマ展2:「2015 My Best/My Favorite」ウェブ&リアル展示

OUSA及びJOASの新旧ボードメンバーによる、この1年間のMy Best/My Favorite作品を展示します。

詳しい案内は折紙探偵団Webサイトをご覧ください。

JOAS-WOD 特設 Web ページ：
<http://origami.gr.jp/WOD/2015/>
OrigamiUSA 特設 Web ページ：
<http://origamiusa.org/wod>



▲「私のWOD報告」投稿作品例



▲エクスカッション(日光)は生憎の雨だったに創作してありました15作品と、新たに10作品を創作して準備にいそしんでおりました。折紙探偵団マガジン本誌用にブラキオサウルスの折り図を作り、コンベンション折り図集用にカブトムシの折り図を完成させたりなどもしておりました。

姉と2週間日本におりましたが、本当に楽しい日々でした。土日の展示の準備にほとんど専念していましたけど、2つの展示室に1000作品ほどおそろく展示されていたのではないのでしょうか。1つの展示室は探偵団コンベンション用のメイン展示室、もう1つは国際大学折紙連盟(ICOA)の展示室でした。どちらの部屋にも、写真でしか見たことのないレベルも美しさもすばらしい作品に驚かされました。私自身は存じ上げませんでしたが、渡辺慧、北西一貴両名の作品が印

象に残りました。北西さんの作品はふわりとしたコスチューム、表情、繊細な指の表現が印象的なバレリーナ、渡辺さんのものは「ホビットの冒険」のドラゴン、スマウグでしたが、鱗、全体の成形(特に翼)などすべてにおいて完璧でした。山口さん、北條さん、西川さん、神谷さんなど有名な作家の皆さんとお会い出来たのも大変嬉しく思いました。

展開図折り、紙の作り方、もちろん作品を折る講習など、さまざまなトピックの100種類ほどの講習が開かれていました。私も2時間講習を2つ、狼とブラキオサウルスを教えました。また、私自身が憧れている、神谷さん、今井幸太さんの講習を受けることもできました。

シュウキ・カトウ

In Late February this year I was invited as a special guest by Marcio Noguchi on behalf of JOAS to the 21st Origami Tanteidan Convention in Tokyo. This was an incredible opportunity for me because despite the fact I had been folding complex origami since the age of about 12, I had never even attended any origami conventions prior hailing from a small city called Kalispell in rural Montana, USA. The convention was still 6 months away and I prepared for it by folding about 10 of my works to go along with another 15 which I had folded previously. I also diagrammed a brachiosaurus for the bimonthly Tanteidan magazine and finalized

edits for a kabutomushi for the yearly Tanteidan convention book.

I spent two weeks in Japan with my sister which was super fun, but I will only be focusing on the Exhibition details for Saturday and Sunday. There were two exhibition rooms full of origami designs, perhaps 1000 total models. The main Origami Tanteidan one and one featuring works by college students, the 1st exhibition for the International Collegiate Origami Association (ICOA). In both rooms, I found myself marveling at the level of folding and the beauty of origami which is never quite captured in photography. I was particularly impressed by the works of two lesser-known folders: Kitanishi Kazuki and Watanabe Kei. Kitanishi-San folded a lovely ballerina with a flowing outfit, facial features, and slender fingers and Watanabe-San folded Smaug (the dragon in The Hobbit) complete with scales with beautifully shaping throughout, especially the wings! Of course, the most exciting part of it all was getting to meet all the famous folders in person including Yamaguchi Makoto, Hojyo Takashi, Nishikawa Seiji, and Kamiya Satoshi.

There were also about 100 classes with subjects ranging from crease pattern solving, paper production, and of course mostly classroom folding. I was able to teach my wolf and brachiosaurus models in two hour class times and then attend classes by my origami idols Kamiya-San and Imai Kota.

Shuki Kato

◆第6回韓国折紙コンベンションレポート

西川誠司

折紙探偵団コンベンションの翌週末には韓国折紙協会のコンベンションが開かれる(今年は8月22、23日)。韓国折紙コンベンションは今年で6回目を数えるが、毎年このスケジュールは休暇をとってアジアを訪れる米国やヨーロッパの折り紙愛好家にとってありがたいものに違いない。韓国折紙コンベンションは第2回からソウル市街の「ハイソウルユースホステル」を会場にしている。参加人数は180名程度とのことだが、これは会場の収容能力の限界であって早々に締め切りしなくてはならないほどの盛況である。土曜、日曜の2日間、作品展示・教室・講演会・懇親会が行われるのは探偵団のコンベンションと概ね同じ形式だ。韓国折紙協会の主事業は折り紙を含めた種々の指導者資格の供与であり、このコンベンションでは海外作家等を招待して韓国国内に育って

きた若手作家や韓国の折り紙愛好家、資格を得た講師との交流を促す機会としている。創作やアレンジなど展示作品も非常にレベルの高いものだった。

さて、有り難いことに今年の「アジア枠」招待者として私は参加することができた。ヨーロッパからの招待者はシッポ・マボナ氏であった。マボナ氏の講演は、ここ数年彼が取り組んでいる折り紙パフォーマンスの紹介。展示会とメイキング映像が組み合わされた折り紙パフォーマンスはクールで非常に刺激的なものだった。私の方は、作品創作の動機に主眼を置いて見立て(最近の山本一三谷氏の45度グリッドの数え上げの研究の紹介を交えて)や15度系の作品の紹介をした。ボランティア大学生の通訳が適切で、会場からの射撃質問がいただけたのでとりあえずホッとした。楽しい懇親会や到着から帰国まで

歓迎いただいて、呉京海会長はじめ韓国折紙協会のみなさんに心から感謝したい。

冒頭の探偵団コンベンションとの協調や日欧米韓を結ぶ国際交流は、山口真氏が強く牽引したものだ。今大会ではその功績への感謝から山口氏に韓国折紙協会から名誉会員の授与があった。韓国の若手作家から父親のように慕われる山口氏の笑顔が印象的であった。



▲韓国の若手作家達に折り図を書くポイントを説明する山口氏

◆折り紙の新刊読者プレゼント

■ドクター・ハルの折り紙数学教室

版元の協力により、折り紙探偵団マガジン購読者に、折り紙の新刊書を3名様にプレゼントします。

応募方法:ハガキ又はメールにて、名前、住所、電話番号、年齢を明記し、本誌の感想なども添えて以下までお送りください。**締め切り:**10月31日。**応募先住所:**113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛。メールアドレス:info@origamihouse.jp

トーマス・ハル・著 羽鳥公士郎・訳

■A5判、352P ■日本評論社

折り紙を使った数学の講義で高校生・大学生を魅了してきたハル博士が、その授業内容を惜しみなく公開!



◆吉野一生基金への寄付について

9月15日現在、吉野一生基金には新たに4人の方から118,000円の寄付をいただきました。第26期の寄付金額の合計は1,220,580円になります。ご協力ありがとうございます。基金は各地の探偵団コンベンションの招待者に贈られ

ます。今夏のコンベンションではジャン・ディン氏、シュウキ・カトウ氏(共にUSA)の招待金として各200,000円が使われました。

(50音順、敬称略) 柏村卓朗、神谷哲史、藤塗装工業(株)、Eric Lan

◆東海友の会作品展示のお知らせ

岐阜県高山市にある飛騨・世界生活文化センター(岐阜県高山市千鳥町900-1)において10月10日から伊藤正道原画展(イラスト作品)が開催されますが、この展示会場に東海友の会メンバーによる折り紙作品が展示されます。

イラストの雰囲気にあわせた作品を現在制作中。

10月11日・12日には、折り紙ワークショップも開催予定です。お近くにお出かけの際はぜひお立ち寄りください。

東海友の会代表川畑文昭

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(非購読・非会員700円)、中学生以下300円(非購読・非会員500円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45、満員の場合は、先着順とします)

●10月3日(土)/講師:今井幸太/作品:モンシロチョウ

●11月14日(土)/講師:中村楓/作品:ベタ

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)/参加費=500円(中学生以下200円)/時間=10:30~15:00 ※昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参ください。

●10月4日(日)/講師:鈴木美恵子/作品:りす(作:前川淳)

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパス/参

加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~15:30

●10月17日(土)/講師:未定/作品:未定
※11月は名古屋コンベンションのため休み

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=西宮市大学交流センター(予定)
次回開催は12月の予定。

詳細が確定の際には、公式サイトhttp://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/と、葉書にてご案内致します。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ/参加費=500円(中学生以下は100円)/時間=13:00~16:00

●10月25日(日)会場=4階第5研修室/講師:堤 政継/作品:3枚組みキューブ他(予定)

●11月22日(日)会場=3階美術工芸室/講師:川村みゆき/作品:クレマチス(予定) ※午前中にATC交換会を開催予定

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Origami ATC研究会」

10月7日(水)/参加費=1,000円(材料費別)/11:00~16:00/講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。10月7日のATC交換会のテーマは「食」です。詳しくはおりがみはうす公式サイトをご覧ください。http://www.origamihouse.jp/informations/joascourse/index.html

◆「ある折り紙作家の教室」

11月15日(日)/講師=神谷哲史/講習作品=未定/参加費=3,000円(材料費別)/11:00~16:00/定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「ある折り紙作家の教室」は、2週間前(今回は11月1日以降)からキャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはメールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■チームの勝利を願って折られる千羽鶴の行方。
■高校野球では千羽鶴が伝統的に敗者から勝者へ贈られる。
■今夏の高校野球東京予選に参加した日大豊山高校に友人の長男が出場するということで猛暑の中、何度か応援に行った。
■結果は決勝戦まで進むことができた。
■その友人の言うことによると、各校が勝利を願って折った千羽鶴は敗者から勝者へ次の試合の勝利の応援を込めて贈られるということだ。
■その結果一回戦の勝者は自チームの分を含めて2000羽。
■決勝までに67校分67000+自チーム分を含めてなんと68000羽だ。
■これが同じように勝ち抜いてきて決勝であたった勝者の関東一高に。
■関東一高も同じように勝ち進んでくる間に千羽鶴の山。
■そして決勝で倍。
■さて、その行き先はどうなのだろうか、知りたい。
■全国を含めるとこの時期に折られる千羽鶴にとっても暑い夏なのだろう。(や)

日本折紙学会公式HP

折り紙探偵団 http://www.origami.gr.jp/

折り紙探偵団マガジン

2015年9月25日発行 第26巻3号 通巻153号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/津田良夫

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.153 / Published on 25, September 2015 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Virgo" Produced by Tsuruta Yoshimasa: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Tsuda Yoshio / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第21回折紙探偵団コンベンション

折り図集vol.21

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 57作品収録

収録作品: エキドナ: 川村みゆき / ステゴサウルス: 川畑文昭 / ヒツジ: 神谷哲史 / ドラゴン: 小松英夫 / 飛ぶカブトムシ: シュウキ・カトウ / HJ Rex: ジェイソン・クー / ネズミ: ロナルド・コウ / ヤギ: グエン・フン・クオン / クジャク: マーク・カーシェンバウムほか

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込)	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判 / 全323頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折り図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	5,180円	書籍2冊の 送料は 540円です	B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第20回折紙探偵団 折り図集vol.20 日本折紙学会 編 コンベンション	2,480円	3冊以上の 複数冊は 本により 異なります お問い合わせ ください	B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 61 作品を収録
第19回折紙探偵団 折り図集vol.19 日本折紙学会 編 コンベンション	2,480円		B5判 / 全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団 折り図集vol.18 日本折紙学会 編 コンベンション	2,380円		B5判 / 全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 折り図集vol.17 日本折紙学会 編 コンベンション	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 折り図集vol.16 日本折紙学会 編 コンベンション	2,160円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索



オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

REVERSIBLE DESIGN

¥300
(税抜き)

どちらの面を表にしても、
オシャレなデザインの両面ちよがみです。

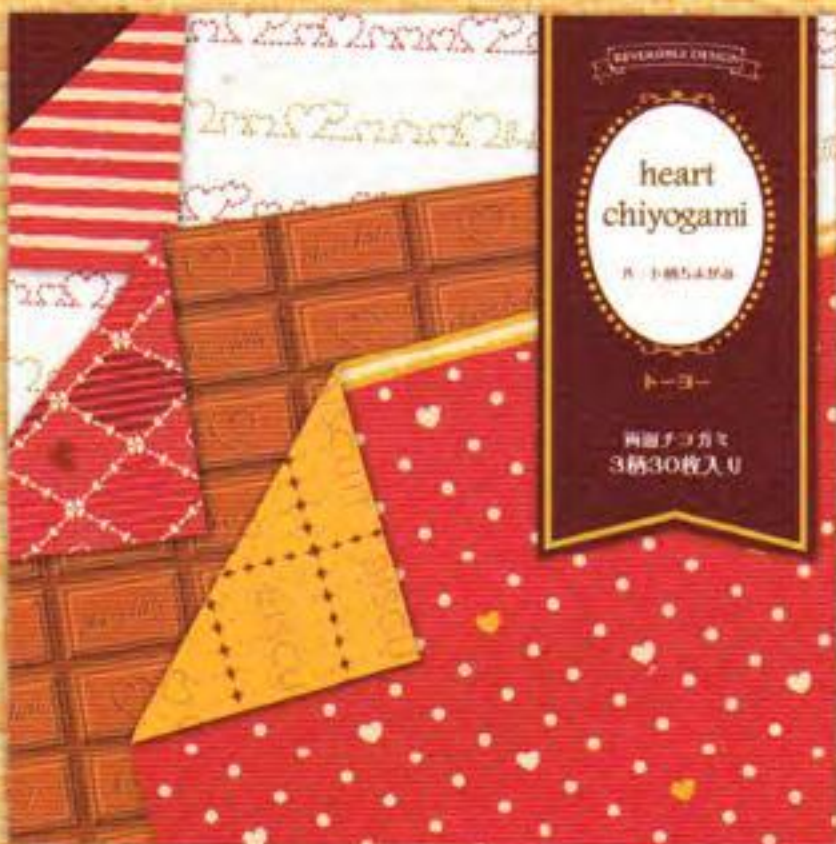


白と黒がメインの表に裏面の色が
アクセントになるミュージック柄

楽譜柄

楽器柄

ピアノ柄



お菓子柄との組み合わせが
かわいいハート柄

チョコレート柄

ハートライン柄

バスケット柄



クラフト紙をイメージした
落ち着いたデザインのフルーツ柄

オレンジ柄

ぶどう柄

いちご柄